

はじめに

1953年に国産第1号の白黒テレビが発売されて半世紀、私たちの暮らしにテレビはなくてはならないものに成長しました。多様な情報源としてだけでなく、家庭生活の大切な一部としても機能している場合もあります。1961年生まれの私自身も“テレビっ子”だったこともあり、現在でもテレビを初めとした視聴媒体は、体の一部になっています。

しかし、そのテレビの負の部分も増えてきました。小児科医の団体が、2歳まで視聴を控えるよう提言するなど、テレビと子どもの関係を見直す意見も出ています。それ以前より、言葉の発達については、テレビの視聴時間よりも外遊びや絵本の読み聞かせ等の方が、より関係しているという報告もあります。しかしあえて言うならば、テレビを悪者にして安心するのではなく、その“見方・見せ方”を問題にすべきではないかと感じています。

私が育った時代には、テレビは一家に一台という時代でした。そのせいか、楽しかったテレビ番組を思い出すと、必ず身近で一緒に見た家族や友達の表情が蘇ります。

今は、一家に一台どころか個人に一台の時代になってきました。その結果、“テレビ対子ども”という図式も生まれてきました。テレビを始めビデオ・パソコンにしろ“子どもと機械だけ”の関係にはしたくありません。そのような関係に陥ってしまうと、多量で刺激的な情報を鶏呑みにするすることにもつながります。周りに人がいるだけで、一方的な情報になるのではなく、フィルターの役割にもなると思います。特に、乳幼児期は、親子や友達同士などとのコミュニケーションの“媒体”にするような付き合い方を身につける時期であると思います。

本園は、平成7年度の放送教育全国大会の会場園に委託されて以来、保育の中にテレビやラジオ（CD）を取り入れてきました。今や生活や成長環境として切り離せない放送文化をテレビと子どもだけの関係を作らず、みんな（友達・先生・家族）で見る楽しさを味わい、テレビを通して人と人が思いを交流しあう経験を大切にしていきたいと考えています。

今回の研究発表にあたり、諸先生方を始め多くの方にお力添えを戴きました。心から感謝申し上げます。

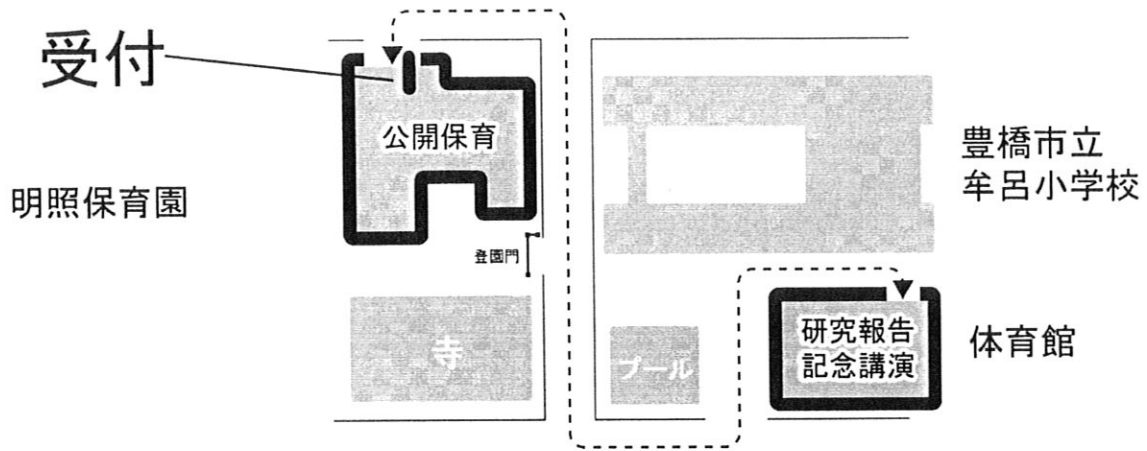
明照保育園 園長 中島章裕

目次

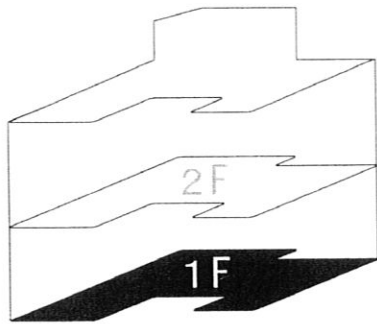
はじめに	1
I 大会要項	3
II 明照保育園の概要	6
III 研究経過	8
IV 研究内容	10
① 視聴活動について把握する ～職員全体で共通理解をする～	10
② 番組研究を行う ～発達段階を考慮して、視聴する主な番組を園全体で統一する～	11
③ 年間指導計画への位置づけを行う ～特別なものとせず、保育全体の中で視聴活動をとらえる～	14
④ 視聴記録をとる（用紙・ビデオ録画） ～子どもをしっかり把握すると同時に、保育者が自分の保育を振り返り、感性を高める～	24
⑤ 各年齢の実践を全保育者で交流、研修する ～実践報告・各クラスの見学～	25
⑥ 保護者に対してアンケート調査を行い、また、園での様子を伝える ～保護者の、子どものテレビ視聴に対する関心や、テレビとのより良いつきあいを 身につけるための意識を高める～	66
V まとめと課題	72

1 大会要綱

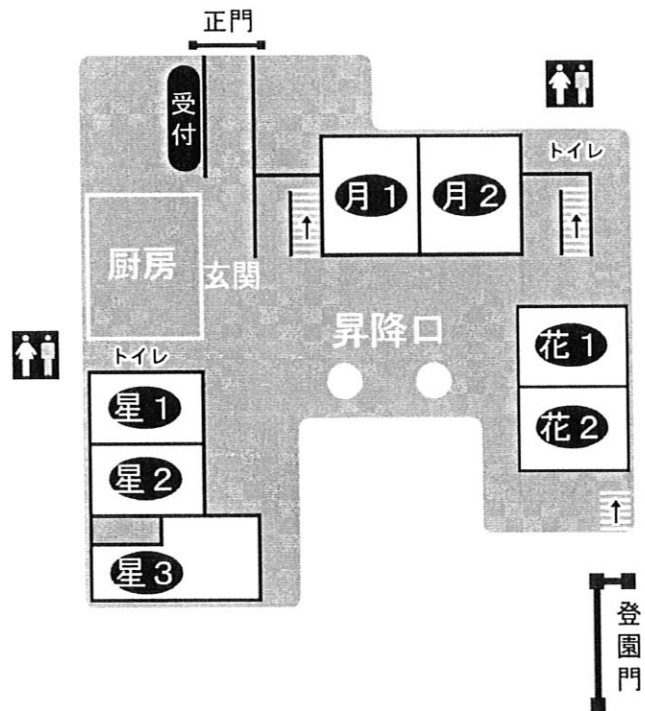
会場案内図



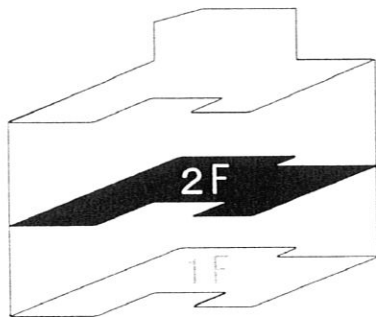
明照保育園



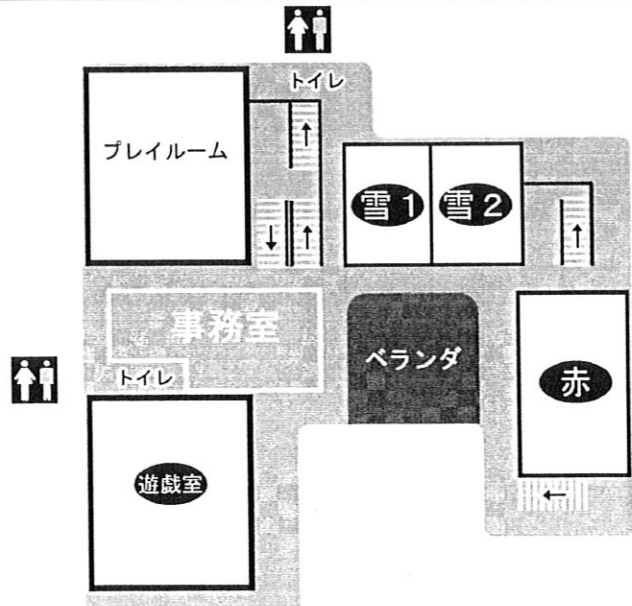
1 F



明照保育園



2 F



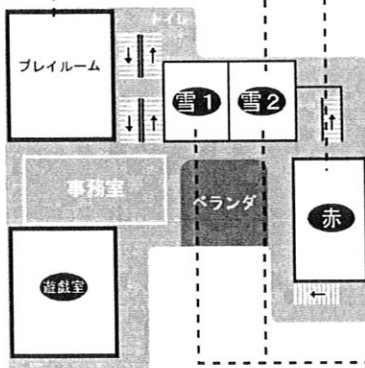
日程

	9:00	10:00	11:15	12:45	13:15	14:10	14:20	15:50	16:00	
内容	受付	公開保育	会場移動	昼食	開会式	研究報告	休憩	記念講演	閉会式	終了
	明照保育園			牟呂小学校体育館						

公開保育 10:00~11:15

(0・1歳児(いないいないばあ))

2F



赤組 ・田村悦子・村田奈美・松井美那子・内山彩乃・木戸友子
・梶野恵子・小川美春・牧野正代・伊藤佳葉

(2歳児(おかあさんといっしょ))

雪1組 ・大場直子・白井美由紀・杉浦ひとみ
・杉浦恵子・加藤由香利

雪2組 ・大木祐子・前友美・柴田光香・吹野志保

3歳児(つくってあそぼ)

星1組 ・北川順子

星2組 ・中島悦子

星3組 ・林よね・岡田真由美

4歳児(しぜんとあそぼ)

花1組 ・安藤操・富田千恵子

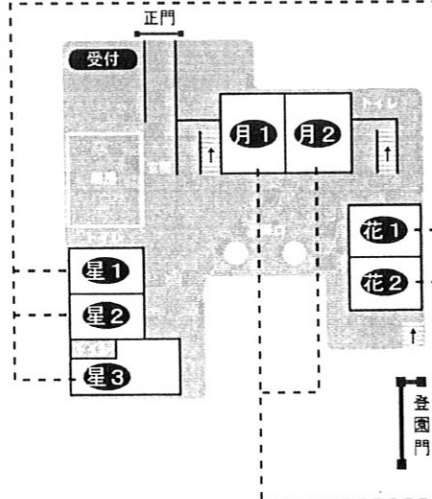
花2組 ・下出友美・城所美幸

(5歳児(こどもにんぎょう劇場))

月1組 ・酒井順子・横田美穂

月2組 ・中島真人

1F



開会式

12:45～13:15

○ 主催者挨拶

愛知県幼児視聴覚教育研究会会長

NHK名古屋放送局事業部

○ 来賓挨拶

○ 来賓紹介

○ 主催者紹介

研究報告

13:15～14:10

○ 園紹介

○ 経過報告

○ 実践報告

○ 指導講評

記念講演

14:20～15:50

○ 講師 土谷 みち子 氏 『子どもの成長とメディアの関係』

東横学園女子短期大学保育学科助教授

プロフィール

東京都出身。日本女子大学大学院(教育学専攻)修了。東京都幼稚園教諭、専門学校講師の後、1986年～2004年3月まで日立教育振興財団日立家庭教育研究所に勤務。研究活動の他、付属の乳幼児親子教室の実践活動から、子育て支援活動への臨床保育学的アプローチの提言をしてきた。4月より現職。NHK「子どもとメディア研究者の会」メンバー。

閉会式

15:50～16:00

II 明照保育園の概要

本園の状況

本園は、豊橋市の西方に位置し、昭和28年設立当時は農漁村であったところが、三河港の開港に伴う工業の進出、道路の整備により様相が一変された区域にあります。小学校が隣にあり、交流も盛んに行われています。「心身ともにたくましく、思いやりのある子ども」を園児の理想像とし、一人ひとりの成長を、集団ならではの良さの中で育てています。また、生活リズムや食育の大切さを保護者に伝え、保護者と連携して実践しています。

その他、7時から19時までの延長保育事業、地域交流事業、障害児保育、子育て支援事業を市の委託を受け行っています。そして、平成15年度より、放課後児童クラブも開設（定員35名）しました。

子育て支援の事業としては、毎週水曜日に地域の未就園親子を園に招き、園庭や遊戯室を開放する日、0・1・2歳児親子が年齢別に保育者とさまざまな活動を行う親子ひろばの日を設ける他、子育て講座を行ったり、随時育児相談を受けたりしています。

また、月1回の土曜日を「なかよし保育」の日と称して、小学生から大学生、地域の高齢者を招き、園児たちと思いっきり遊ぶという日も設けています。

保育の中でも、四季折々の行事を、子どもの成長を園・家庭・地域のみんなで喜び合う機会として大切に行い、その都度地域の方や未就園家庭に参加を呼びかけ、地域の中で親しみやすく、訪れやすい保育園の姿勢を目標としています。



園児数（平成17年4月現在 定員250名）

5歳児（2クラス）67名 4歳児（2クラス）69名 3歳児（3クラス）61名
2歳児（2クラス）40名 0・1歳児（1クラス）29名 計266名

職員（44名）

園長 主任保育士 保育士32名 調理員6名 事務員1名 児童クラブ指導員3名

✎ 保育目標

『心身ともにたくましく、思いやりのある子ども』

★豊かな感性と心情、まわりのものへの関心や意欲、
人との温かい関わり合いの中で生きていく姿勢を育む★

【養護】

ひとりひとりの個性に合わせ、
情緒の安定を図り、温もりのある
保育を行う

【生活・遊び】

生活リズムを大切に、自己活動と友だちと
協調できる体験が、遊びを通して総合的に
できるようにする

【文化的活動】

個々の特性に応じながら、発達課題
を配慮していろいろな体験ができる
環境を整える

✎ 保護者や地域との関わり

- ☆ 映像による園だより『明照元気っ子ビデオ』…園での様子をビデオに収め、保護者に貸し出しを行う（平成2年より）
- ☆ 『お知らせくん』…その日の保育の様子を各年齢でまとめ、保護者の携帯電話に送る（平成14年より）
- ☆ 子育て支援…毎週水曜日に園庭開放、年齢別親子ひろばを行うほか、園の行事を開放したり、育児相談を行う（平成13年より）
- ☆ 『なかよし保育』…月1回の土曜日に地域の小中学生から大人までを招き、園児とふれ合う（平成13年より）
- ☆ 『早起き早寝、朝ごはん』の実践…乳幼児の生活リズムと成長に深いかわりがあることから、保護者と一っしょに取り組む（平成17年より）

✎ 本園のあゆみ （★…放送教育との関わり）

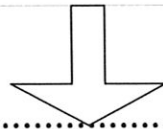
昭和28年4月	普仙寺本堂にて3・4・5歳児の混合保育を行う
29年9月	木造園舎完成、厚生大臣により認可、住職加藤卓全が園長就任、定員90名
36年	園長に杉浦きく子就任
40年	園長に杉浦章就任、増改築を繰り返し、この頃定員150名
47年	鉄筋コンクリート2階建に増築、定員200名
55年	園舎増築により定員230名
平成3年	理事長に杉浦章、園長に杉浦きく子が就任
6年	★愛知県視聴覚教育特別研究会にて提案『人との関わりの中での放送教育』
7年	園舎増改築により定員250名に ★全国放送教育研究大会の指定園として、研究をすすめ、 『共にみて、共に感動し、共にかわり合う放送教育』を実践発表する
8年	★全国放送教育特別研究協議会にて提案 『ひとりひとりの乳幼児にとって、生活やあそびが充実する保育を実践しよう。』
10年	朝7時から夜7時までの延長保育をはじめ
11年	★愛知県視聴覚教育特別研究会にて提案『みんなでいろいろな経験をすることの 楽しさを通して、豊かな人間関係の基礎を育む。』
12年	園長に中島章裕就任
15年	学童保育『明照児童クラブ』開設
16年	園舎増改築、耐震工事により児童クラブ室と子育て支援ホール設置

Ⅲ 研究経過

【平成7年度以前】

～視聴覚教材を取り入れた保育活動～

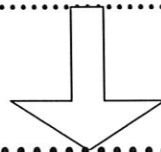
- ・ 視聴環境を整える
- ・ 教材研究を行う
- ・ 1日の保育のどこに取り入れるか
主活動で・給食中やお昼寝前のラジオ聴取 等



【平成7年度 放送教育全国大会】

～共に見て、共に感動し、共にかかわり合う放送教育～

- ・ 放送教育を研究することが、保育全体を振り返る機会となる
- ・ 保育環境のひとつである放送視聴活動を通して、保育者の保育に対する姿勢、子どもの内面を受けとめる感性を厳しく見つめる（視聴環境、イメージ交流、事後活動すべてにおける保育者の言葉などのかかわりのあり方）
- ・ 同一体験による同じ思いとちがう思いのかかわし合いと認め合いを大切にする
- ・ 望ましい環境での継続視聴による視聴能力の高まりが子どもに見られた
- ・ 視聴で得た刺激を子ども同士や保育者と交わし合うために、信頼関係の大切さを確認する
- ・ 家庭でも“いっしょに見る楽しさ”を味わえるよう、保護者に家族で見るテレビ番組についてのアンケートを定期的に行い、関心をもつようにした

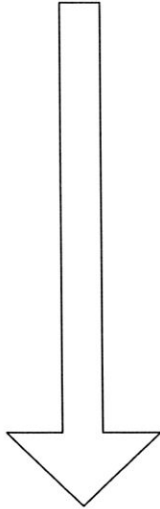


【平成8年度以降】

～放送視聴活動の定着と多様化～

- ・ 保育の中で視聴活動を無理なく取り入れる
- ・ 子育て支援活動において親子視聴を行い、未就園児家庭に親子で見る楽しさを伝える
- ・ 月1回の「なかよし保育」のあそびのひとつとして視聴コーナーを設け、園児、小中学生みんなで見る楽しさを味わう





《日本小児科学会からの提言》平成16年3月

1. 2歳以下の子どもには、テレビ・ビデオを長時間見せないように
しましょう。(言語発達が遅れる危険性が高まります。)
2. つけっぱなしにせず、見たら消しましょう。
3. 乳幼児に1人で見せないようにしましょう。
4. 授乳中や食事中は見せないようにしましょう。
5. 乳幼児にもテレビの適切な使い方を身につけさせましょう。
6. 子ども部屋にはテレビ・ビデオを置かないようにしましょう。

【平成17年度 愛知県幼児視聴覚教育研究大会】

～心よせあって、豊かなイメージをふくらまそう～

『共に見て、共に感動し、共にかかわり合う放送教育』

『メディアとのより良いつきあいを身につける (テレビを悪者にしない)』

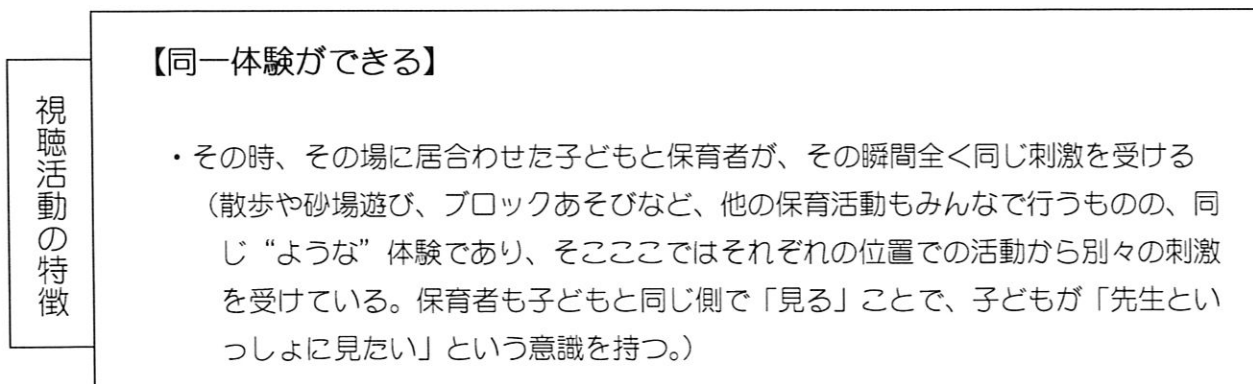
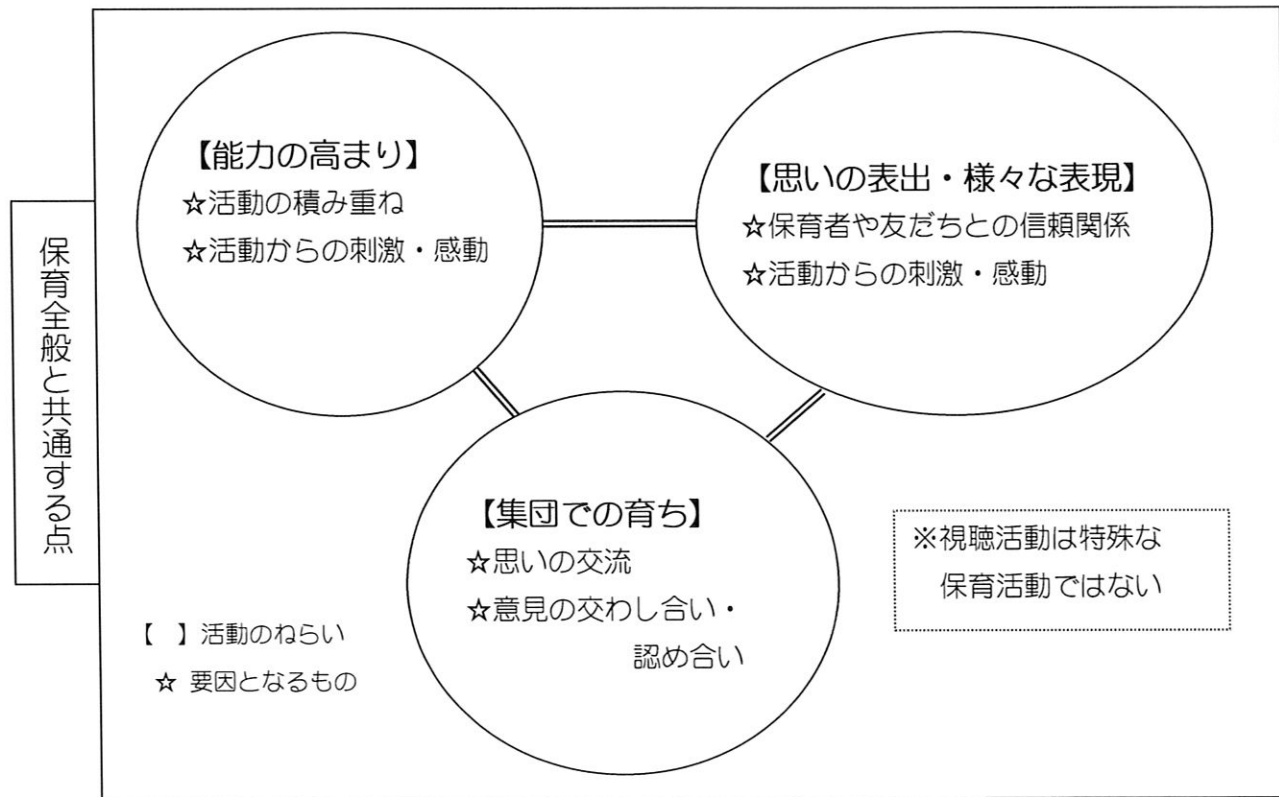
- ・スイッチオフ (見終わったら消す)
※今までも見ている瞬間を大切にするために、見終われば消し、繰り返したりダラダラ見たりはしなかったが、今回は、『しっかり見て、見たいもの終わったら消す』という姿勢をより子どもに身につけるとい事をねらう
- ・映像体験を実体験へとつなげていく
(テレビをテレビの世界だけに終わらせず、映像が飛び出す感覚を楽しく身につける)
- ・視聴で得た刺激を友だちや保育者と交わし合う楽しさを味わう (信頼関係)
- ・視聴活動が特別なものでなく、保育の中のひとつの環境として、成長を促す
- ・継続視聴による視聴能力の高まりをねらう
- ・保護者に呼びかけ、家庭でのテレビとのつきあい方を考える機会を設ける
『見ない時は消す』『いっしょに楽しむ』『テレビが飛び出す体験を持つ』

IV 研究内容（平成17年度）

子どもが豊かに成長していくために保育における視聴活動はどうあるべきかを、下記の観点から探る。

- ① 視聴活動について把握する～職員全体で共通理解をする～
- ② 番組研究を行う～発達段階を考慮して、視聴する主な番組を園全体で統一する～
- ③ 年間指導計画への位置づけを行う～特別なものとせず、保育全体の中で視聴活動をとらえる～
- ④ 視聴記録をとる（用紙・ビデオ録画）
～子どもをしっかり把握すると同時に、保育者が自分の保育を振り返り、感性を高める～
- ⑤ 各年齢の実践を全保育者で交流、研修する～実践報告・各クラスの見学～
- ⑥ 保護者に対してアンケート調査を行い、また、園での様子を伝える
～保護者の、子どものテレビ視聴に対する関心や、テレビとのより良いつきあいを身につけるための意識を高める～

①視聴活動について把握する～職員全体で共通理解をする～



②番組研究を行う ～発達段階を考慮して、視聴する主な番組を園全体で統一する～

「いないいないばあ」(0・1歳児を中心に)

やわらかい色合い、ゆっくりとした動きやくり返しのリズム、フワフワしたイメージの映像により、0・1歳児が心躍らせている様子がうかがえる。画面をじーっと見入る子、思ったことを口にして指さしをする子、身体を動かして楽しむ子と、自分の思いをいろいろな表現で表している。季節感もあり、0・1歳児でも口ずさみやすい歌が流れ、歌の雰囲気にはまっている。あそびのヒントになるコーナーもあり、新鮮な刺激となっている。

「おかあさんといっしょ」(2歳児を中心に)

くつろいだ雰囲気の中で楽しめる。うた、お話、体操などいろいろなコーナーがあり、2歳児はその瞬間ごとにくるくると気持ちを入れ替え、楽しんでみている。どのコーナーも、登場する人物やキャラクターといっしょに踊り出す子もいれば、動かないでじーっと画面を見つめている子と、反応は様々である。いろいろなコーナーが次々変わることで、子どもに沸いたイメージが次々に変わり、ふくらみきれない一面もある。子どもの様子から、コーナーごとの内容を保育に取り入れ、映像からのふくらみをあそびや実生活につなげる。

「つくってあそぼ」(3歳児を中心に)

日常的に見慣れている紙コップや紙皿をはじめ、使い捨てになってしまうような廃材や素材が、ワクワクさんの手によって楽しそうに姿を変えていく新鮮さや、作ったものでゴロリと一緒にイメージをふくらませ合ってあそぶおもしろさに、「すごーい！僕もやってみたい」といった魅力に引き込まれる。そして継続視聴をすることで、友だちとの信頼関係が深まり、視聴の高まりから徐々に自分のイメージを表出し合い、友だちのイメージに気づき受け入れることで、友だちと遊びを発展させていくようになる。このような遊びへの意欲を大切に、テレビの模倣から始まり、次第に自分たちで工夫しテレビをのりこえる、造形的感性が培われることを願う。

【3歳児が視聴する際の配慮事項】

作ってみたいと思っても思い通りにならなかったり、テンポも速く理解しきれない内容もあるが、次々とおもしろいものをつくっていくワクワクさんといろいろなアイデアを出して工夫するゴロリのやりとりを人形劇として楽しむことで、3歳児なりにつくることへの興味や発想が育つことを願う。

保育者が子どもの興味関心の高まりそうなものを予想し、ある程度下地を準備することも必要に応じて行う。

「しぜんとあそぼ」（4歳児を中心に）

空き地や田畑の宅地化により自然に触れる機会が少なくなり、現在の子どもたちには直接体験が減ってきている。身近にいる自然の生きものや、絵本や写真でしか見たことのないものの普段は見ることのできない様子が、臨場感あふれる生映像と音響で映し出される。

語りかけるようなナレーションに、子どもたちはまるでその場で一緒に見ているかのように会話をしたり、友だち同士で思いを出し合ったりしている。

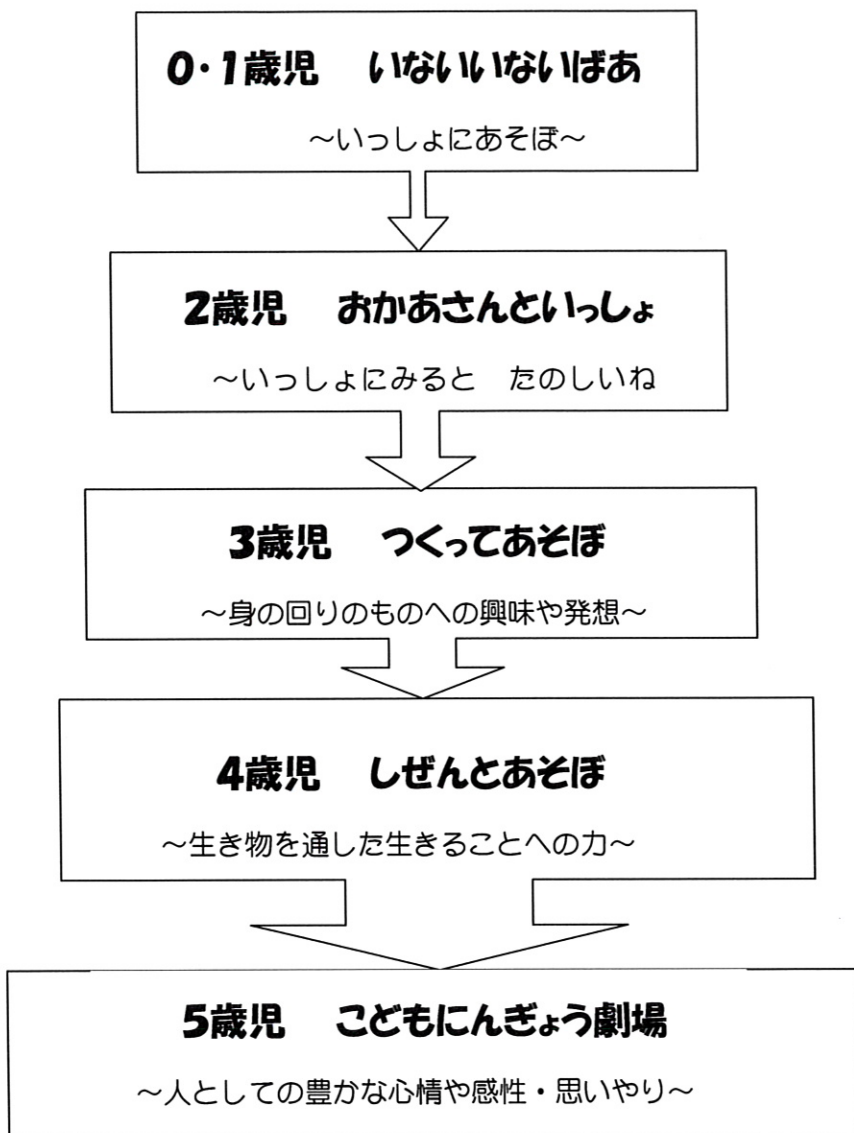
身の回りの自然が乏しくなり、自然に触れる機会が少なくなった今、子どもたち自身の生活と自然との関係が希薄で、自然の恐ろしさや恩恵を感じなくなっている。また、安定した社会生活の中で命の大切さやありがたみを感じることも少なくなっている。命のたくましさや残酷さ、また、誕生から成長、そして死に至る、感動的な一生を映像を通して味わうことで、子どもたちが生きものに対し興味を持ち、親しみ、感動から得た知識を育んでいくことを願う。それにより普段の生活で何気なく出会った生きものに対しても、番組で得たイメージを重ね合わせ、生命あるものへの思いをふくらますことだろう。

制作者側の思いや大変さも感じられ、保育者も大きな感銘を受ける。季節的なことを考慮して、時期に合わせて継続番組の順序を変えて視聴する必要もある。

「こどもにんぎょう劇場」（5歳児を中心に）

叙情的な音響や背景の中、登場人物の心の揺れ動きが巧みに表現されていて、大人も子どもも感動の世界に浸ることができる。お話の筋を覚えるために見るのではなく、心の揺れ動く場面展開を大切にしている制作者側の意図が感じられ、子どもにとってすでに知っているお話でも、新たな感動に包まれると思われる。番組を視聴することで、登場人物の心の揺れ動きに思いをよせたり、話の展開の面白さに引き込まれたりすることで、人の心を思いやり、豊かな心情や感性が育まれることを願う。

以上のことを研究した上で、子どもの育ちについて長期的な視野にたち、また、テレビと子どものよりよい関わりを願い、以下のように園全体で共通理解を図った。



せんせいさん
みんごと
いっしょに
あそぶ



同じ思いとちがう思い、
どっちも大切。

③ 年間指導計画への位置づけを行う

～視聴活動を特別なものとせず、保育全体の中でとらえる～

0・1歳児年間指導計画		年間目標
	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひとり歩きが始まる。 ○ 新しい環境で情緒が不安定であるが、保育士の援助により次第に安定してくる。 ○ ひとりで好きなことをして遊ぶ偶発的なあそびがくり返され、積み木も2、3積むことができる。 ○ 一語文を話し始め、大人のことばを理解し、要求があると声を出して注意をひく。 ○ スプーンを食器の中へ突っ込んだり、もう一方では、自分の口へ運んだりして、ひとりで食べたがる。 ○ 自分の思うようにならないときかんに抵抗する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ トイレでの排泄をいやがらなくなり、排泄したあとで知らせたりする。またオムツからパンツになる子もある。 ○ 友だちに興味を持ち、かかわろうとするが、自己中心的なため衝突になることも多い。 ○ 水あそびや砂あそびを保育士と一緒に楽しむ。 ○ 鉛筆やクレヨンでなぐり描きをしたり、リズムに合わせて体を動かす。 ○ 暑さのため体調をくずしたり、食欲がなくなる子もいる。 ○ 話すことばが多くなり、ひとりでいろいろな声を出したり、片言をしゃべったりする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ○ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満ちし、生命の保持と生活の安定をはかる。 ○ 好きなこと、やりたい遊びが十分できる環境の中で、一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満ちし、情緒の安定を図る。 ○ 優しく語りかけたり、発声や喃語に回答したりして、発語の意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活のリズムが安定し、規則正しい生活が送れるようにする。 ○ 喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育士とのやりとりを楽しむ。 ○ 自分でやろうとする気持ちを大切にしながら、生活習慣が身につくようにする。 ○ 砂あそびや水あそびを思う存分楽しみながら、外界に対して興味や関心を持つ。 ○ 保育士と一緒に全身や、手や指を使うあそびを楽しむ。 ○ 睡眠や休息を十分とる。
環境・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの子どもの発達段階、性格、習慣などを把握し、その子にあったかかわり方をしていき、異常のある場合は適切に対応する。 ○ 保育士との一対一の触れ合いをできるだけ多く持ち、子どもの気持ちを理解し、受容することにより信頼感をつくっていく。 ○ 体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。 ○ おむつやパンツが汚れたら、優しく言葉をかけながら、こまめに取りかえ、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。 ○ 一人ひとりの生活のリズムを大切にしながら楽しく食事をしたり、安心して睡眠がとれるようにする。 ○ 保育士の歌や、手遊びを喜んで聞いたり、リズムに合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。 ○ 保育士に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分楽しむ。 ○ 身の回りにあるものに興味や関心を持ち、見たり触ったりすることを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士の優しい言葉がけと手助けで、衣服の着脱に興味を持てるようにする。 ○ 食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭いて、清潔になることの快さを喜ぶようにする。 ○ 楽しい雰囲気の中で幼児食に慣れ、スプーンやフォーク、コップなどを使って食べようとする気持ちを育てる。 ○ 一人ひとりの子どもの排尿間隔を把握しながら、他の子どもたちの排泄する姿などを見ることによって便器での排泄へ興味をもたす。 ○ 保育士に見守られ、水あそびや砂あそびを思う存分楽しむ。 ○ 自分がしたいこと、してもらいたいことを保育士に動作や言葉で伝えようとする。 ○ 好きな玩具や、身の回りにあるもの、自然物に自分から積極的にかかわって遊ぶ。 ○ 鉛筆やクレヨンでなぐり描きをしたり、粘土の感触を楽しんだりする。 ○ 走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなどの全身を使うあそびやつまむ、たたく、めくるなど手や指を使って遊ぶ。
視聴のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情緒の安定を図るとともに、くつろいだ雰囲気の中で、保育士と一緒に視聴する。（0歳児） ○ くつろいだ雰囲気です視聴することにより、情緒の安定を図り、保育士や友だちと一緒に視聴する楽しさを味わう。（1歳児） 	

<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健的で安全な環境をつくり一人ひとりの状態に応じたかかわりをすることで快適に生活できるようにする。 ○ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○ 身の回りにさまざまな人がいることを知り、徐々に友だちとかわって遊ぶ。 	
3期（9月～12月）	4期（1月～3月）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 行動範囲が広がり、歩くことがしかりし、高い所へ登りたがったり、いろいろなものを押したり引いたり同じ動作をくり返し遊ぶ。 ○ スプーンで食事はできるがこぼし方もはげしい。 ○ ボタンのかけ外し、衣服の着脱など、身の回りのことを自分でしようとする。 ○ 自我の主張が始まり、思うようにならないと大声で泣きわめく。 ○ ことば数が多くなり、二語分が話せ、おとなとの会話ができる。 ○ 体調をくずして欠席したり、皮膚のあれた子が目立つようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転ぶが走ることができ、ぶらさがったり、階段を手すりにつかまって上ったり降りたりする。 ○ こぼすがひとりで食事ができるようになる。 ○ 排泄を知らせることができ、オムツがとれる。 ○ 自分のものと他人のものとの区別ができる。 ○ 怒り、恐れ、好き、嫌いの情緒があらわれ、愛情に対する反応ができる。 ○ おとなや友だちの模倣が活発になるが、自我意識が芽生え、自己中心的なため、友だちとのぶつかりが多くなる。 ○ 集団遊びの芽生えがでてくる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活やあそびの中で、子どもがしたいことを心ゆくまでやれるようにし、情緒の安定を図る。 ○ さまざまな食器や調理法に慣れ、楽しい雰囲気の中で意欲的に食べることができるようになる。 ○ 身の回りにいろいろな人がいることを知り、友だちとかわって遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 戸外あそびや散歩を喜び、秋の自然の中で、自由な活動を十分にを行い、体を動かすことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄、衣服の着脱などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。 ○ 保育士を仲立ちとして、生活やあそびの中で、簡単なことばのやりとりを楽しむ。 ○ 身近な小動物や植物を見たり、触れたり、保育者の話を聞いたりして興味や関心を広げる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 室内外の温度、湿度に留意し、子どもの健康状態に合わせて衣服の調節をする。 ○ 一人ひとりの子どもの状態に応じて、健康増進を図る。 ○ 楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちをもたせ、嫌いなものでも少しずつ食べられるようにする。 ○ 自分からあるいは保育者に誘われて便所に行き、保育者が見守る中で排泄する。 ○ 「待ってね」「かわりばんこ」「かしてね」などの言葉がわかり、保育者が仲立ちとなりながら、友だちとかわって遊ぶ。 ○ 生活やあそびの中で、保育者のすることに興味をもったり、模倣したりすることを楽しむ。 ○ きれいな色彩のものや、身近なものの絵本を見る。 ○ 保育士と一緒に園の行事に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの子どもが、それぞれに好きな遊びを見つけ、集中して遊べる環境をつくり、一人あそびを保障していく。 ○ 認めたり、ほめたりしてひとりでできたことの喜びを味わわせ、食事、排泄、衣服の着脱などの身の回りの活動の自立を図っていく。 ○ 顔を拭く、手を洗う、鼻を拭くなど、保育士の手を借りながら少しずつ自分でしようとする。 ○ 保育士の言葉を理解し、簡単な手伝いをすることを喜ぶ。 ○ 生活に必要な簡単なことばを聞き分け、また、さまざまなできごとに興味、関心を示し、言葉で表そうとする。 ○ 保育士と一緒に簡単なごっこ遊びをする中で、言葉のやりとりを楽しむ。 ○ 保育士と一緒に飼育物にえさを与えたり、触れたりしながら親しみ、上手なかかわり方を知る。 ○ 保育士と一緒に園の行事に参加する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ くつろいだ雰囲気の中で、保育士や1歳児の刺激を受けながら、楽しく視聴する。（0歳児） 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ なごやかな雰囲気の中、保育士や友だちと楽しく視聴することで信頼関係を深める。（1歳児） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士や友だちとやりとりを楽しみながら、聴で得た刺激を思い思いに表現する。（1歳児）

2歳児年間指導計画		年間目標
子どもの姿	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活環境の変化による不安が強いので、ひとり遊びができず泣くことが多い。 ○ 友だちと一緒にいることを好むが、協調して遊ぶことができない。 ○ 食事の量や睡眠時間、排泄の個人差がある。 ○ 情緒が不安定で、おこったり、泣いたり、かんしゃくをおこしたりする。 ○ 新しい場所になじみにくいが保育者や玩具を仲立ちとして、友だちの関係がではじめめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者を仲立ちとし、友だちを意識するようになる。 ○ 保育者や友だちの模倣をするようになる。 ○ 簡単な要求は保育者に伝えられるが、言葉でははっきり言えない子もいる。 ○ 水あそびをよるこび、着脱も自分で少しずつやろうという気持ちが出てくる。 ○ 暑さのため体調をくずしたり、水分を多く欲しがり食欲が減退する。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○ 一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○ 楽しんで食事、間食をとることができるようにする。 ○ 安心できる保育者との関係のもとで、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を、自分でしようとする。 ○ 新しい環境に慣れて、自分の好きなあそびを十分に楽しむ。 ○ 身の回りの動植物に触れて関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育て、無理なく生活習慣が身につくようにする。 ○ ゆったりとした環境の中で、いろいろな夏あそびを満足するまで楽しむ。 ○ いろいろなあそびを通して保育者や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 保育者を仲立ちとして生活やあそびの中で言葉のやりとりを楽しむ。 ○ 睡眠や休息を十分にとり心身の疲れをいやして、集団生活による緊張を緩和する。
	環境・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの子どもの健康状態や、発育、発達状態を把握し、異常ある場合は、適切に対応する。 ○ 一人ひとりの子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ○ 楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちをもたせ、嫌いなものでも少しずつ食べられるようにする。 ○ 自分からあるいは保育者に声をかけてもらって便所に行き、保育者の見守る中で排泄する。 ○ 好きな遊具や玩具を自分で選び、満足するまで遊ぶ。 ○ 簡単な手あそびや歌あそびを保育者と一緒にして楽しむ。 ○ 身近な動植物を見たり、触れて遊び、興味や関心をもつ。 ○ 自分の物、人の物の区別がつき、保育者の援助によって、自分の物の置き場所がわかる。
視聴のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ くつろいだ雰囲気の中で番組を視聴し、情緒の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者や友だちと一緒に視聴することにより、信頼関係を深める。 ○ 番組の中で親しみをもてるものに対して、自分なりにイメージをふくらます。

- 保健的で安全な環境をつくり快適に生活できるようにする。
- 一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- 安心できる保育者との関係のもとで、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- 自分の気持ちを素直に表現し、自己発揮をして意欲的に遊ぶ。

3期（9月～12月）

4期（1月～3月）

- 身の回りのことを自分でしようとする。
- 基本的な運動機能の伸びが目立ち、リズムカルな運動を好むようになる。
- 生活やあそびの中でことばのやりとりを楽しむようになる。
- 自己主張がはっきりしてきて、友だちとの衝突が多くなる。
- みんなと一緒に、描いたり、うたったりすることを好む。
- 身の回りの経験したことをまねようとする。

- 自分の身の回りのことが、未熟ながら、ある程度までできるようになる。
- 少数の気のあったグループで簡単なごっこあそびができる。
- 日常生活に必要な言葉がわかり、ことばの数が増し、ことばを使って友だち同士のつながりが深くなる。
- 身の回りのいろいろなものに興味をもつ。
- つくったり、描いたり、うたったりなどくり返し、簡単な表現活動をするようになる。

- 保育者と一緒に全身や、手や、指を使うあそびを楽しむ。
- 保育者と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこあそびを楽しむ。
- 身の回りにさまざまな人のいることを知り、友だちとかわかって遊ぶ楽しさを味わう。
- 生活に必要な言葉が少しずつわかり、したいこと、してほしいことを言葉で表す。
- いろいろな素材を使い自由に描いたりすることを楽しむ。

- 大きくなったことを喜び、簡単な身の回りのことを自分で進んでしようとする気持ちを起こす。
- 友だちとの結びつきが深まり、ごっこあそびなどを楽しむ。
- 興味のあることや経験したことなどを生活やあそびの中で、保育者や友だちとともに自由に表現する楽しさを味わう。
- いろいろな事物を見て、触れたり、保育者の話を聞いたりして興味や関心を広げる。

- 箸を使ってひとりで食べようとする気持ちを育てていく。
- 保育者に手助けされながら、身の回りを清潔にしようとする。
- 保育者に尿意を告げ、ひとりでトイレに行き排泄しようとする。
- 走る、跳ぶ、登る、押す、引っぱるなど全身を使う運動を取り入れたあそびや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指を使うあそびを楽しむ。
- 保育者の仲立ちによって共同の遊具などを使って遊ぶ。
- 秋の自然の中で遊び、自然物や事物に興味関心をもつ。
- リズムに合わせて体を動かしたり、歌をうたって遊ぶことを楽しむ。
- 絵本や紙芝居を楽しんで見たり、聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ。
- 保育者と一緒に園の行事に参加する。

- 「進級するから」とあせることなく、楽しく食事をしたり着脱や排泄を一人ひとりの発達に合わせて促し、援助する。またできた時は、おおいに誉め自信へとつなげていく。
- 保育者や友だちと一緒に、いろいろなごっこあそびや表現あそびを楽しむ。
- いろいろな素材や用具を使って遊び、表現することを楽しむ。
- 簡単なきまりを守って行動したり、友だちと遊ぶ。
- 行事によるこんで参加し、いろいろな事物や事象に興味や関心をもつ。
- 生活に必要な言葉を聞き分け、さまざまなできごとに関心を示し、言葉で表す。

- 時にはお話（テレビ絵本）の番組を視聴することで、お話の世界に興味をもつ。

- 思ったことや感じたことを保育者や友だちに伝えようとしたり、共感したりする。

3歳児年間指導計画		年間目標
1期（4月～5月）		2期（6月～8月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めての園生活で、気持ちが不安定になり、突然泣きだしたり、保育士から離れなかったりする（新入児）。 ○ いろいろなものに興味、関心を示し、触れたり、遊んだりして楽しむようになる。 ○ 園生活のしかたがわかり、少しずつ慣れてきたが、まだ生活面で介助の必要な子ども多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気の合う友達ができ、遊ぶ反面、自己主張のぶつかりあいや、トラブルも多くなる。 ○ 新しい活動に対して、興味や関心を示しやろうとする。 ○ 暑さで体調をくずしたり、生活のリズムが乱れる子どもが多くなる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活に徐々に慣れ、保育士に親しみをもち安心感をもって生活する。 ○ 午睡や休息をし疲れをやわらげゆったり過ごす。 ○ 友だちとごっこ遊びなどを楽しむ。 ○ 身近な動植物や自然事象をみたりふれたりする。 ○ 絵本や童話、テレビなどを見たり聞いたりして簡単な内容を楽しむ。 ○ 様々なものを見たりふれたりして、美しさなどに気づき感性を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の仕方がわかり、身の回りの簡単なことが自分でできるようになる。 ○ たてわりクラスや夏季保育中の交流によって友だち関係を広げていく。 ○ 自然事象や身近な動植物に親しみ、自然への興味や関心を広げていく。 ○ 自分の思ったことや感じたことをことばに表し、保育士や友だちと、ことばのやりとりを楽しむ。 ○ 全身を使っているいろいろな遊びを楽しみ、開放感や満足感をもつ。
環境・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひとりひとりの欲求を受けとめるようにして、情緒の安定をはかり、ゆったりとした生活ができるようにしていく。 ○ 基本的な生活習慣が、保育士の手助けを受けながら身につくようにする。 ○ 保育士や友達と遊ぶなかで、遊具の使い方を知らせたり、好きな遊びを充分楽しむ。 ○ ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉のやりとりを楽しむ。 ○ 絵本や童話、テレビなどの簡単な内容がわかり、イメージをもって見たり聞いたりする。 ○ 身近な生活や自然に親しみ、驚いたり感動したりできるよう今まで気づかなかったことなどに目を向けていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏の生活に必要な習慣を徐々に身につけていくようにし、自分でやろうとする気持ちを大切にしてい ○ 同じ地域の子、異年令児と一緒に遊び、ふれ合いを楽しむようにする。 ○ 身近な動植物に直接ふれ、生命の尊さや感動を経験する。 ○ 自分の経験したことや、思ったことを言葉で言えるようにしていく。 ○ プールあそび、どろんこあそびなど、いろいろな水あそびを楽しむようにしていく。 ○ いろいろな素材や用具を使って作ったり描いたりすることを楽しむ。
視聴のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物に興味をもち、視聴を楽しむ。 ○ 園に慣れ、友だちや保育者と一緒に視聴し、信頼関係を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な素材で遊ぶ楽しさを知る。 ○ 友達や保育者と一緒に視聴を楽しみ、心に残ったことや感じたことを表出しようとする。

- 情緒の安定した中で、基本的な生活習慣が次第に身につくようにする。
- 友達と遊ぶことを楽しみ、人とのかかわりを深めていく。
- 身近なことに親しみ表現活動を豊かにし、感性を養う。

3期（9月～12月）

4期（1月～3月）

- 何人かの気の合う友達と、短時間ではあるが遊べるようになる。
- 個人差はあるが、言語面での発達がいちじるしく、保育士や友達との会話が活発になる。
- いろいろな活動に対して、やりたいと思う気持ちが強くなり、挑戦するようになる。

- 一日の生活の流れを理解し、促されなくても自分からやろうとする姿が見られる。
- 友だちとのかかわりが密になると共に、それに対して、トラブルも多くなる。
- 進級するという期待が芽生え、会話や遊びの中で見られるようになる。

- 寒さに向けての生活の仕方を身につける。
- 戸外で友だちといっしょに伸び伸びと身体を使ったあそびをする。
- 簡単なきまりや約束を守る。
- 行事に参加して、喜んだり、楽しんだりする。
- 生活に必要な言葉がわかり、欲求を言葉で表す。
- 様々な素材や用具を使って、描いたり、もて遊んだり好きなようにして遊ぶ。

- 生活に必要な基本的な生活習慣が身につくようにする。
- 冬の遊びに興味、関心をもち、年上の友だちと遊んでもらったり、真似てあそんだりする。
- 身近な環境に興味をもち、自分からかかわり生活を広げていく。
- 絵本、童話、テレビなど、見たり、聞いたりして簡単な内容やおもしろさを楽しむ。
- 感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体の動きによって模倣したり自由に表現する。

- 保育士の手助けを受けながら衣服の着脱や調節ができるよう見守っていく。
- 遊具の安全に気をつけ、遊びが楽しめるようにしむけていく。
- 遊具や用具などの貸し借り、順番、交代などをわからせていく。
- 身近な自然や、事物に関心をもち、触れたり、集めたり、並べたりして遊べるようにする。
- 自分の思ったことや感じたことが友達や保育士に言えるような、雰囲気づくりをしたり共感し合ったりしていく。
- 目的を持って簡単なものを切ったり、貼ったりして作っていく。

- 一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、生理的な欲求が満たされ快適に生活できるようにする。
- お正月遊び、リズムあそび、ごっこあそびなど、いろいろな表現活動を楽しむ。
- いろいろな行事によるこんで参加して、楽しかったことを話し合う。
- 絵本や童話、テレビなどの簡単な内容がわかり、イメージをもって楽しんで見るようにする。
- 様々な素材や用具などをいつでも遊べるように用意しておく。
- 絵本や物語、テレビ視聴をしたりして、イメージをふくらませ、友だちや保育士といっしょに、歌ったり、描いたり、作ったり様々な表現ができるような場を作っておく。

- いろいろな素材が変身していく楽しさを味わう。
- 友だちや保育者とイメージの表出を楽しむ。

- 素材でつくって遊ぶ楽しさを知る。
- イメージを広げながら、友だちとの関わりを楽しむ。

4 歳児年間指導計画		年間目標
子どもの姿	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進級の喜びの中で、新入児を迎え、落ちつきを失いがちであるが、友達と遊ぶことに興味をもち、いろいろなあそびを始める。 ○ 健康、安全など日常生活に必要なきまりがわかり始め、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団生活の面白さを味わって、いろいろな対人関係をもち、集団行動が高まっていく。 ○ 好奇心が強く、身近な事象への関心が高まり、その関係を言葉で表現する。 ○ 友だちとのかかわりが、個々からグループあそびをするようになり、あそびの中のルールができてくる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でできる範囲を広げながら、健康・安全に必要な習慣や態度を身につける。 ○ 保育者や友達と安定した関係の中で、いきいきと遊ぶ。 ○ 身近な動植物や自然事象に親しみ、愛情や関心をもつ。 ○ 絵本や童話、テレビを見たり、聞いたりしてイメージを広げ、言葉が豊かになるようにする。 ○ 自分の好きなあそびを十分楽しみ、いろいろな素材にふれて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健、衛生に留意し、快適に生活ができるようにする。 ○ 友だちとのかかわりを広げながら、夏のあそびを十分楽しむ。 ○ 身近な小動物や自然にふれ、親しみをもち、飼育を通して生命の尊さを知る。 ○ 自分の経験したことや思っていることを言葉で伝え合う楽しさを味わう。 ○ 身近な遊具や用具を使い工夫して様々な方法で表現する。
	環境・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの子どもの気持ちを受けとめ、情緒の安定した生活ができるようにする。 ○ 園のきまりを具体的に知らせ、生活に必要な習慣が徐々に身につくようにする。 ○ 好きなあそびができるような場を整える。 ○ 遊びや活動の中で具体的な決まりを理解できるように保育者が配慮する。 ○ 一人ひとりの子どもの様子をみながら、あそびが発展するよう援助する。 ○ 子どもの感動や発見の言葉を温かく受けとめ、興味が広がるようにする。 ○ 新しい環境に親しめるよう興味あるコーナーを作ったり、小動物を飼ったりする。
視聴とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハイビジョン番組の映像から、臨場感あふれる自然の世界へ入りこみ、生きものに興味を持つ。 ○ 視聴で得た自分なりの思いを自分なりの言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生きものの動きをじっくり見たり、一生懸命な様子に共感したりして、親しみをもつ。 ○ 視聴直後のイメージ交流では、自分とは違う思い、同じ思いというイメージの違いがあることに気付く。 ○ 友だちと関わる中で、新しい発見をしたり、認め合ったりする。

- 健康的で安全な環境の中で、子どもの欲求を十分満たし、安定して快適な生活ができるようにする。
- 自意識の芽生えを大切に育て、豊かな情緒を育む。
- 仲間といふことの喜びや、楽しさを体験し、集団で活動することを楽しむ。

3期（9月～12月）

4期（1月～3月）

- 心身の成長が目立ち、運動機能が分化してきて、いろいろな運動を好むようになり、あそびの種類が多くなる。
- 協力の芽生えが見えはじめ、社会性が目立ってくる。
- 想像力が伸びてきて、ごっこあそびに夢中になったり、絵本や話を好むようになる。
- いろいろな行事に興味や関心を示すとともに期待感をもっている。

- 友だちとかかわりをもって遊ぶなかで、言葉による伝達と会話が活発になり、より友だち関係に広がりや変化がみられる。
- 進級への期待をもち始め、物事への関心が高くなり、活動的になっている。

- 自分でできる範囲を広げながら、生活に必要な習慣や態度を身につける。
- 集団のきまりや簡単ルールを守りながら、友だちと一緒に身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心をもつ。
- 絵本やテレビなどに親しみ、その内容やおもしろさを楽しみ、イメージを広げ、言葉が豊かになる。
- いろいろな素材（自然物）を使って、自分なりのイメージや動きを表出してグループ活動に興味をもつ。

- 生活やあそびの決まりを守り、良い習慣を身につけながら、進級することへの自信をもつ。
- いろいろなあそびを楽しみながら、友だちとのつながりを深める。
- 身近な物を使って、考えたり、試したりするなどして遊ぶ。
- 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したり、言葉で伝える楽しさを味わう。
- 身近な事柄などに関心をもち、それらの面白さ、不思議さなどに気付き、豊かな感性をもつ。

- 衣服の調節、手洗い、鼻かみなど必要に応じて知らせ、体に異常のあるときは保育者に伝えることができるように仕向けていく。
- 身体を動かして遊ぶ中で、自分の力を出し、友だちとのふれあいを充分楽しむ。
- みんなと一緒に、運動や表現あそび、競争など、きまりや約束を守って力いっぱい活動できるようにしていく。
- 身近な自然の変化に目を向け、木の実や落ち葉を集め、遊びながら美しさや形のおもしろさに気付き、自然物への興味、関心を深める。
- いろいろな行事について話し合ったり、経験したことや、テレビを見てイメージ交流など思ったことが素直に言えるようにする。
- 友だちと一緒に工夫して使ったり、自分で考えだして作ったりしていけるようにする。

- 一人ひとりの子どもの気持ちや、やろうとする意欲を認め、自信につなげて生活できるようにする。
- グループあそびを楽しんだり、一人あそびに熱中したりできるようにしておく。
- 友だちと一緒に身体を動かして表現あそびをするなかで、その子なりの姿を十分認め、一人ひとりの持つ力を充分伸ばすようにする。
- 絵本やテレビを見て、その内容を深め、いろいろなあそびに発展させたり、楽しませる。
- 子どものよく知っているお話の中で、自分の好きな役を選び、簡単な劇あそびを楽しんだりする。
- 友だちと一緒に様々な素材や用具を使って、描いたり作ったりするなかで、年長児になる喜びや自覚がもてるよう働きかける。

- 映像を通して、生きもののたくましさや、残酷さに目を向け、生命あるものへの思いを深める。
- 視聴直後のイメージ交流では、友だち同士で思いを話し合いながら、いろいろな思いに気付き、受け入れたり、認めたりする。
- 友だちとのイメージの育ち合いの中で、あそびを広げる。

- 生きものの誕生から成長、死に至るまでの生涯を映像を通して感動をもって知り、命の輝きを子どもなりに大切に見つめる。
- 友だちとの関わりを持ちながら、より自然界に興味、関心を深める。

5歳児年間指導計画		年間目標
子どもの姿	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年長組になったという喜びや緊張感が伺われる一方、生活の流れにそえず、落ちつきがない。 ○ 戸外で活動することを好み、動植物にも目が向けられるようになる。 ○ 友達関係やあそびの範囲が広がり、いろいろな活動に積極的に取り組む意欲がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の身体や健康について関心をもち、安全に対する注意がわかるようになり、自分から守ろうとする。 ○ 身近な動植物の世話をしたり、夏の遊びをくり返し楽しむ中で、驚いたり、発見することを喜んでいる。 ○ 考えたことや、経験したことを、保育士や友だちに話したり、相手の話も聞くようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康、安全に必要な習慣や態度を身につける。 ○ 新入児や小さな子にいたわりの気持をもって遊ぶ。 ○ 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 ○ いろいろな体験を通じて、イメージや言葉を豊かにする。 ○ 人の話を注意して聞き、相手にもわかるように話す。 ○ 感じたことや思ったこと、想像したことなどを身体で表現したり、自由にかいたり、つくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体や病気について関心をもち、健康生活に必要な基本的な態度を身につける。 ○ 友だちとのつながりを深めながら、目的をもってあそびをすすめる。 ○ 身近な自然や動植物に触れたり、愛情をもって世話をしたりする。 ○ 絵本、物語、テレビ等に親しみ、興味をもって聞き、イメージをふくらませることを楽しむ。 ○ いろいろな経験をする中で、感じたこと、考えたことを様々な方法で表現しようとする。
	環境・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園内の安全を点検したり、進級の喜びを味わえるよう保育室の環境を整える。 ○ 年下の子に接する気持を大切に受けとめ次への活動への自信につなげていく。 ○ 自然の中で伸び伸び遊んだり、動植物に興味関心をもち、世話ができるようにする。 ○ 友だちとつながりをもって遊ぶ、親しみをもってあいさつや、会話ができるようにする。 ○ テレビや絵本物語などに興味をもち、いろいろなイメージを広げて友だちと共感したり、感動したりする。 ○ いろいろな素材や用具をそろえ、したいことが十分できるようにする。
視聴のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物に興味を持ち、お話の展開を楽しむ。 ○ 視聴直後、自分の思ったことや、感じたことを表出し、互いにイメージ交流をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公の内面を想像し、自分ならどうするかなど、イメージをふくらます。 ○ 視聴で得たイメージを交流しあう中で友だちのイメージの違いに気づく。

- 子どもの健康状態を把握し、一人ひとりの欲求を満たし、快適にすごせるようにする。
- 共通の目的に向かって一緒にあそびや活動を進め、やりとげる喜びを味わう。
- 生活範囲をさらに拡大する。

3期（9月～12月）

4期（1月～3月）

- 競争意識が強くなり、友だちと楽しく遊ぶ中で、自分たちでルールを考えたり、あそびを工夫できるようになる。
- あそびや生活の中に協調性が強まり、行事を通しての経験から、成長、発達がみられる。
- 好奇心や探求心が高まり、それを表現する努力や、工夫する姿がみられる。
- グループ活動が活発になり、自分の役割がわかり、目標に向かって行動する。

- 就学への期待をふくらませ、意欲的に生活やあそびに取り組もうとする。
- グループや全体で活動することが多くその中で自分の力を発揮したり、相手のよさを認めたりする姿が見られる。
- 文字や数に関心を持ち、生活やあそびに取り入れている。

- 自分の体を十分に動かし、進んで運動し、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 進んで身近な人と関わり、愛情や信頼関係をもって生活する。
- 身近な環境に自分からかわかり、それを生活に取り入れ大切にしてしようとする。
- 日常生活に必要な言葉がわかるようになり、絵本や物語、テレビなどに親しみ、想像力を豊かにする。
- いろいろな素材に親しみ、工夫しながら様々な方法で表現する。

- 自分でできることの範囲を広げながら、就学への期待と喜びを持ち、自主的に行動する。
- 協力したり、認め合いながら、自分たちであそびを広げ、最後までやりとげることを楽しむ。
- 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数、量、形などに対する関心を深める。
- 様々な機会や場で、活発に話したり、聞いたりして生活の中で適切に言葉を使う。
- 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

- いろいろな運動器具を使って遊んだり、ルールあるあそびや、集団あそびを楽しむ。
- 運動会を通じ、強調する態度や、競争心を養い、大勢の人の前で表現できた満足感や、充実感を味わうようにする。
- 自分たちであそびを進めようとする気持を受けとめ、一人ひとりを認めたり、協力し合うことの大切さをわかりやすく知らせていく。
- 友だちとのつながりを発展させながら、あそびに対する充実感や意欲を育てるようにする。
- 一人ひとりが興味や意欲をもって取り組めるよう配慮する。

- 年下の子やまわりの人たちとの交流を多くもつなかで、成長の喜びや、世話になった人たちへの感謝の気持ちが育つようにする。
- 春の訪れを感じとったり、感じたことや思ったことを言ったり、体で表現できる場を作っていく。
- 文字やことば、数、位置、時刻などに関心を持ちあそびに取り入れて遊ぶようにする。
- 子どもの発想や、工夫を大切に受けとめ、協力してあそびをすすめる、やりとげる喜びを味わうことができるよう援助する。
- 自分の力を充分発揮し、いろいろな方法で表現や創造することを楽しむようにする。


- お話の世界にじっくりひたり、登場人物の関わりから話が盛り上がっていくのを楽しむ。
- 友だち同士でイメージを共有したり、自分との思いの違いに気づき、認め合い、イメージの育ち合いの中で交流を深める。
- ふくらんだイメージを思い思いに表現してみる。

- いろいろなお話に親しみ、想像力を育む。
- 友だちとの交流によりさらにふくらんだイメージで、友だちとお話をつくってみたり、表現したりして楽しむ。

④ 視聴記録をとる（用紙・ビデオ録画）

～子どもをしっかり把握すると同時に、

保育者が自分の保育を振り返り、感性を高める～

 視聴の様子をビデオカメラで録画又は、録音する。

 記録用紙

平成17年 月 日 () :		歳児 組 名	
【番組名】		保育者	
【ねらい】			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
視聴後のイメージ交流・活動			
予想される子どもの様子		子どもの様子・活動	
【考 察】			

※ 「予想される子どもの様子」欄は、「望ましい子どもの姿」として子どもに当てはめようとするものではなく、あくまでも保育者が、普段のひとりひとりの子どもの様子（発達段階や内面）をとらえた上で、番組を予め見て予想したことを記入する。実際に視聴したあと、どこまで保育者の予想が子どもの姿に近づいていたかどうかで保育者の子ども理解、保育への見通しが問われる。今回の記録を次回に活かすことを続けることで、子どもの様子を鋭く観察し、理解し、次への見通しを立てられるような保育者の感性を高め、子どもと保育者の育ち合いがなされていくことをねらいとする。

⑤ 各年齢の実践を全保育者で交流、研修する ～実践報告・各クラスの見学～

実践経過と視聴記録



0・1歳児（赤組）番組名『いない いない ばあ』

クラス人数 29名（0歳児 男児3名 1歳児 男児9名、女児17名）
 保育者：田村 村田 内山 松井 小川 牧野 木戸 梅野 伊藤 小林

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 29名中、17名が新入児であり、初めて親と離れる不安から激しく泣けてしまいつつも、おやつなどで好きなものを口にする時は泣きやむ。継続児は、新しい環境の中で、そんな新入児の様子を見つつも比較的落ち着いて遊んでおり、好きな絵本などを楽しむ姿が見られる。

【ねらい】

- （保育全体）・ 保育者や友だちに興味を持ち、友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。
 - ・ 戸外あそびや散歩など、秋の自然の中でのびのびと体を動かして遊ぶ。
- （視聴活動）・ 保育者や友だちと一緒に視聴を楽しみ、知っている言葉をつぶやいたり、映像に合わせて体を動かしたりする。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 複数の保育者が、テレビからの刺激で心揺れ動く子どもに共感したり、表現を導き出したりするために、動的、静的な動きを様々に役割分担する。
- ・ 子どもがじっくり見て、つい動き出したくなる時のスペースを十分用意しておく。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【4月22日】</p> <p>☆ テレビのスイッチが入ったことが分かったと、テレビの前に行って見ようとする子が3分の1程いた。残りの子は、後からテレビの近くに來たり、その場で遊びながらテレビを見てたりしていた。ほとんどの子がジッと見入っていた。スイッチを切るまでの15分間は誰も泣かずにいられた。</p> <p>★ たくさんのお遊びの中の一つとして、テレビをつけた。子どもと一緒にテレビの前で見る保育者と、子どもと遊びながら見る保育者に分かれ、子どもの心に寄り添うように配慮する。子どもからの発語はなかったが、保育者が出てきたキャラクターの名前や気持ちを言葉に出すことで、楽しく視聴できる雰囲気を作るよう心がけた。</p>	<p>☆ 入園式から2週間たち、ほとんどの子が平常保育になっている。まだ泣き続ける子も2～3名いるが、他の子は泣く時間が少しずつ短くなっている。午睡ができず、布団を見ると大暴れて抵抗し、やっと眠っても15分で目覚めてしまうSくん、R2ちゃんなどまだ情緒が落ち着かない状態である。</p> <p>☆ 継続児は、けなげに遊んでいて、いつもは保育者にくっついてくるような子も、泣いている新入児に譲っているようであった。</p> <p>★ 新入児への対応丁寧に進めながら、継続児にもスキンシップや言葉かけを多くし、満足感を持てるよう配慮した。</p>
<p>【6月4日 絵本とCD「はらぺこあおむし」】</p> <p>☆ 初めの導入の音楽から、ひきつけられるように見ていた。終わるまで誰一人動かず、無言で見入っていた。</p> <p>★ 保育参加の日で、子どもや保護者の方々と共に、同じ経験を楽しむようにした。 絵本を読んだ保育者は、その時々表情やページのめくり方に配慮した。</p>	<p>☆ 少しずつ落ち着きを見せ始め、普段の保育の中でも紙芝居や絵本を皆で見るといことができるようになってきた。今回は保育参加という場でもあり、保護者と一緒にゆったりと過ごせていた。</p> <p>★ 一人ひとりのお家の方とじっくり話す機会を持ち、保育園での様子を知らせると共にお家での様子を伺う。</p>
<p>【6月6日】</p> <p>☆ 体を動かす場面になると、保育者と一緒に畳のコーナーに行き踊る子もいた。しかしそちらでイメージがそれてしまい、次の場面が変わっても戻って来られない子もいた。うたが流れると体を揺らし、知っている動物が出てくると名前を言うなど表現する子が出てきた。 テレビに興味津々で、画面に触ろうと前に出てくる子が大勢いる。</p> <p>★ 動的に動く保育者が一緒になって表現することで、子どもも思い切り表現できるように配慮する。前に出て行く子には、「見たい」という気持ちを大切に見守りながら見計らって呼び、そっと連れてくる。</p>	<p>☆ 音楽が流れると体を揺すってリズムを取り、踊りだす子が多い。手あそびも、保育者の真似をしてやる子が出てきて、興味を持って楽しんでいる。</p> <p>☆ おやつは、どの子も意欲満々で食べるが、給食は良く食べる子と少数の好きな物しか食べない子とに分かれる。</p> <p>★ 保育の中で歌や手あそびをたくさん取り入れることで楽しさを味わえるようにする。</p> <p>★ 給食は無理強いせず、量を減らしたり細かくしたりして「アンパンマンも見てるよ。」など気を引きながら進めていく。</p>
<p>【6月16日】</p> <p>☆ ティッシュでいろいろなものを作る場面では、画面にジッと見入る姿が多く見られた。いつも踊りの場面で踊っている子もそのまま座っている様子も見られた。画面の前に立ちはだかってしまうのは、M2ちゃんを中心に2～3人いる。</p> <p>★ 子どもの表情を読み取って気持ちを受けとめ、保育者自身も感情を表情で表現するようにした。</p>	<p>☆ 梅雨時で天気の悪い日が続いたが、遊戯室やプレイルームで体を動かすことを楽しんでいる。</p> <p>★ 普段の保育の中でも、紙芝居や絵本をみんなで見ている時に、興奮して立ち上がったたり、興味のある場面で触りに來たりすることも多く、その気持ちを大切にしながら、「お友だちが見えないから座ろうね。」など言葉かけして回りの友だちにも気づくように配慮する。</p>

視聴活動	保育全体
<p>【8月4日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴マットを敷くと皆集まって来て、保育者のひざに座り、又は側に座って視聴する。体操や動き回る時は、畳のコーナーに行くことにも少しずつ慣れてきて、自然に動けるようになってきている。 ★ 動的に動く保育者は、今回2名のみ畳のコーナーに行き一緒に踊ったが、動く子どもが多かったので場所の広さには調度良かったと思う。臨機応変に対処していく。 <p>【8月30日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴マットを敷く気配に敏感に反応し、集まってきてその上に座り、静かにテレビや保育者を見ている。動きの多い内容だった為か、畳のコーナーで動き回っている子どもの姿が多くみられた。テレビの前に引き寄せられるように出て行ってしまふMちゃんもすぐに自分から戻ってくるようになってきた。 ★ 畳のコーナーでいつまでも走っていた子に対して、あえて誘いかけはせず興味を抱いて戻ってくるのを待ち、見守るようにした。 <p>【9月17日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ テレビが始まると同時に畳のコーナーに2~3人走っていく。すぐに体操が始まったが、流れを知っていたのか、今回、畳のコーナーへ来る子がとても多く、子ども同士ぶつかってしまう場面もあった。 ★ 走る方向を一定になるよう誘いかけ怪我の無いように気を配る。畳のコーナーでそのまま座り込んで見ている子に対し「マットの上で一緒に見よう」と誘いかけたらニコリして戻ってくることができた。 <p>【9月30日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 今回のテーマの中心が「サル」だったことで、普段から「アイアイ」や「とんでったバナナ」などサルに関するものに親しんでいた為、とてもスナリと溶け込めていた。視聴中の発語も増えてきて、指差しから「さる?」「おさるさーん!」などしっかりと発音していた。また、画面と一緒にりんごを食べる真似をし、くつろいだ雰囲気の中、体を動かすのも元気いっぱいだった。 ★ 視聴中、前に出て行く子がDくん、Kくん、Aくん、H2ちゃんなど、月齢の低い子に移ってきた。その都度、そっと言葉がけして引き寄せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 水あそびが好きでほとんど毎日プールあそびをしているが、中耳炎や鼻水、とびひなどで入れない子もいる。入れない子は常時5~6人はいるが、お部屋でゆったりと遊べる環境である。 ☆ M2ちゃんを含め10名前後の子が「先生」「お茶」「〇〇ちゃん」「おんぶ」「取って」「出たよー」など言葉で表現するようになってきた。 ★ プールあそびでは大胆に遊べる子に対し、静かに遊びたい子がいる為、ゆったりと遊べるプールを確保し、顔に水がかからないように配慮しながら遊ぶようにする。 ☆ 水あそびにも慣れてきてあそびがダイナミックになってきた。保育者に水をかけて喜ぶ姿なども見られ微笑ましい場面も多くなってきている。また、簡単な会話のやり取りも少しずつできるようになってきた。保育者を仲立ちとして「ごめんね」「ありがとう」「かして」等の会話が増え、お部屋が一段とにぎやかになってきている。 ★ 自分中心の時期ではあるが、「おもちゃ取られちゃったら悲しいね」「踏まれたら痛いよね」など、その時々状況を言葉にして、回りの存在に気づくようにしていく。 ☆ 新入園児が入ってきて、皆興味津々でかわいがろうとしている。また、Mちゃん、Sちゃんは「赤ちゃん」と呼び、「もう自分は赤ちゃんではないんだ!!」という思いが感じられる。 ★ 小さな子を可愛がりたい気持ちは十分伝わってくるのだが、後ろから抱きついて転ばせそうになったり、顔をつついて泣かせてしまったりすることもあり、言葉であやしたり「いない いない ばあ」をするとよろこぶことなど、具体的に関わり方を知らせていく。 ☆ クラス全体が落ち着いてきたのを見計らうかのようになり、トイレで排泄せずに保育室でおもらしして見せるM3ちゃんや、食べさせてもらうのを待っているAちゃんなど、保育者の対応を試しているような行動がみられる。 ☆ 視聴中、前に出て行く子は好奇心旺盛であり、ハッキリとは聞き取れないが「***」と発音することが多く聞かれる。 ★ 誉めるところ、励ますところ、甘えていいところ、など保育者同士が同じ基準で関わるようにする。排泄面は無理をせずお家の方と話し合い本人がやりたくなるまで紙おむつに戻してみる。 ★ 目を見てうなずいたり微笑んだりして満足感を持たせると共に、言葉を反復したり補ったりして、正しい発語を促していく。

【ここまでのまとめと考察・課題】

今の子どもにとって、音と映像の世界は生まれた時から当たり前存在するものであり、家庭には必ずあるものという意味では、とても家庭的な存在かもしれない。入園当初で不安な時期にスイッチを入れることで“おうちといっしょ”という安心感が生まれるのも、そういう意味では自然なことであるように思われる。しかし、保育園においては友だちや保育者と一緒に見ることで、より一層楽しく刺激的な存在になるよう心がけている。保育者の表情や言動で子どもが“同じ思い”の共有を感じ、よりダイナミックな動きで表現の楽しさを味わえる環境をつくり、心豊かなあそびのひとつとして取り入れていきたい。また幼いながらも、“自分だけでなくお友達もいる”ということに気付く機会になることを願いながら視聴していくようにする。

視 聴 記 録

平成17年 9月 30日 (金) 10:20		0・1歳児 赤組 26名	
【番組名】 「いないいないばあ」		保 育 者	田村悦子 村田奈美 内山彩乃 松井美那子 梶野恵子 木戸友子 小川美晴 伊藤佳葉
【ねらい】 保育者や友だちと一緒にくつろいだ雰囲気で見聴を楽しむ。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ・ふうかと子どもが出てきて、サルの指人形で遊ぶ ・積み木が組み合わさってサルになる ・真似っこあそび ・「おさるのかごや」 ・「シャン・シャン・シャンブー」 ・子どもがシャンブーをしている ・「かがみのフシギ」 ・粘土がサルになる ・「ぐるぐるどっかーん」 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくしながら画面に見入る。 ・歌に合わせて「いないいないばあ」と言う子もいる。 ・サルを指差して「サル」「アイアイ」と言う子がいる。 ・ふうかと子どもの楽しそうなやり取りを見て笑う。 ・4本足で歩く姿を見て「わんわん」などそれぞれ思いついた動物を言う。 ・サルになったのが分かると「サル」と言ったり、指さして笑ったりする。 ・うたを聴いて畳のコーナーに行き、真似っこあそびを楽しむ。 ・その場で立ち上がり楽しんでいる子もいる。 ・リズムに合わせて体を揺らす。 ・うたを口ずさむ。 ・画面に合わせて、シャンブーをする真似をする。 ・うたを口ずさむ。 ・子どもの表情や動作を真似たり、「ごしごしー」と言ったりしてテレビの中の子どもになりきる子もいる。 ・ふうかの表情を見て楽しそうに笑う。 ・リズムに合わせて踊る。 ・わんわんの動きに合わせて走る子もいる。 ・何ができあがるのか期待を持って画面に見入る。 ・畳のコーナーに行って踊る。 ・その場で踊る子や、座って画面に見入る子もいる。 ・何をしているのか興味を持って画面に見入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Sちゃん、S3くん、Nちゃんが立ち上がり曲のリズムに乗って体を揺らす。 ・Rちゃんが立ち上がって保育者の顔をじっと見る。 ・M2ちゃんが最初の場面を見て家で見たこの番組を思い出し、「さくらんぼ」と言う。りんごが出てきてからも「さくらんぼ」と指さしながら言い、保育者に訴えかける。 ・Nちゃん、サルがりんごを食べるのを見て、食べる真似をする。 ・Nちゃんが画面を指さして「つみき」と言う。 ・ほとんどの子が徐々にできあがっていく積み木の様子にじっと見入る。 ・できあがった積み木を見て、「わんわん」と言うNちゃん。「さる?」と言うM2ちゃん。 ・M2ちゃん、Rちゃん、Sちゃんが音楽が聞こえた途端、畳のコーナーへと走る。 ・徐々に畳のコーナーへ行き、保育者と一緒に真似っこあそびをするM3ちゃん、S2くん、M4ちゃん、Y2ちゃん、H2ちゃん、Tくん、M6ちゃん、Dくん、Aちゃん。途中でAちゃんが戻ってきて画面を見る。 ・その場で立ち上がり踊っているYちゃん。 ・座ったまま画面にじっと見入る子もいる。 ・保育者と共にテレビの前へ戻ってくる。 ・Y2ちゃん、Rちゃん、N2ちゃんがリズムに合わせて手をたたく。 ・Tくんが画面を指さす。 ・「キャー!!!」と言いながらはしゃぐM4ちゃん。 ・その場に立ち、シャンブーの真似をするNちゃん。 ・真剣な顔で画面に集中する。 ・Aちゃんが「あわ」と言う。 ・リズムに合わせて踊る、M4ちゃん。M4ちゃんを見て踊り出すRちゃん。 ・わんわんを見て「わんわん」と言うS2くん。 ・わんわんのおもしろい動きを見て保育者と共に笑う。 ・Nちゃんが「おもしろい」と保育者の方を見ながら言う。 ・不思議そうに画面をじっと見る。 ・音楽が聞こえた途端「キャー!!!!」と叫びながら畳のコーナーへ走っていくSちゃん。続いてほとんどの子が畳のコーナーへ行き、保育者と一緒に踊る。途中、保育者のもとに駆け寄るYちゃん、Rちゃん。 ・座ったまま画面を見つめるSくん、Hくん、Aちゃん、Y2くん。 	

<ul style="list-style-type: none"> 洗濯バサミのサルで遊んでいるふうかとうーたん 怪獣とサル 再び洗濯バサミのサルとふうかとうーたんわんわん うーたんが「いないいないばーい」と言う 	<ul style="list-style-type: none"> サルを指さし「サル」や「アイアイ」と言う子もいる。 怪獣がサルの手助けによって木に登れた姿を見て嬉しそうに笑う。 楽しそうに遊んでいる姿を見てにこにこしながら画面に見入る。 エンディングの音楽が聞こえてくると、「いないいないばあ “のポーズをし、画面に合わせて「いないいないばーい」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> その場で立って踊るAくんに必死で踊りを教えようとするMちゃん。 いつもじっと画面を見つめているM5ちゃんも曲の途中で立ち上がり、しばらく考えてから畳のコーナーへ行き、踊る。 保育者と共にテレビの前に戻ってくる。戻ってくるのが遅くなったYちゃんも、みんなが画面に集中しているのを見て戻ってくる。 Aくんが画面を指さし「あっ!!!」と言う。 怪獣を見て「がおー」と言うS3くん、Nちゃん。保育者と共に怪獣の真似をするDくん。「こわい?」と言うM2ちゃん。 画面を指さし「ぶらんこ」と言うM2ちゃん。 画面のうーたんに向かって「いないいないばーい」と言いながら手を振る。
---	--	--

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> 自分が見たものを「おさるさん」「うーたん」「わんわん」などの一語文や「うーたんおった」などの簡単な二語文で自分なりに説明しようとする。 保育者と共にテレビの中に出てきた洗濯ばさみのサルを用いて遊ぶ。 室内の他のものに興味が向き、遊び始める子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 画面が消えたのを見てMちゃんが「ばいばーい」と言う。 テレビのスイッチを切った直後に、M2ちゃんが「でんでんむしむしでる?」と言う。 保育者に向かって、Rちゃんが「うーたん、わんわんでた」と言う。 保「何が出てきた?」 M2ちゃん「おさるさーん」 それを聞いてサルの真似をするSちゃん。Sちゃんの横でその真似をするH2くん。 保「おさるさんおったね」と番組の中で出てきた洗濯ばさみのサルをポケットから出す。 サルに手を振る(S3くん)。 保「まだまだおるよ」と保育者のポケットからとどんと出てくるサルを指さしながら次々に「おったー!!」と言う。 つながっているサルを見て「すごーい」と言うNちゃん。 ぶらんぶらんと体を左右に揺らしながらサルのブランコの真似をするSちゃん、Aちゃん。 保「おさるさん見ていたら “アイアイ” 歌いたくなっただね」歌い出す。 踊りたくなって畳のコーナーへ行くSちゃん、S3くん、M6ちゃん。 保育者、テレビの前に座っている子も、畳のコーナーに行き「アイアイ」を歌う。 歌い終わった後も、保育者とサルの真似をしながら楽しむ。 「おサルさんのまんまでトイレ行っちゃおうか」「ウッキー」「あいあい」と言いながらトイレへ行く。

【考察】

今回の番組は、「サル」が各場面のテーマの中心になっていた。普段保育室で「アイアイ」や「とんでったバナナ」などの、サルに関するうたを歌っている子どもたちにとって親しみやすい内容だったようで、サルが画面に出てくるとにこにこしながら指をさしたり、「ぐるぐるどっかーん」や「まねっこあそび」の場面で畳のコーナーへ行って踊っていた子たちも、次の場面に切り替わってサルが映っているのを見ると、そのまま玩具に興味に移り遊びだすということもなく、スムーズにマットの上へと戻ってきて集中して見ることができた。

また、言葉の発達や情緒の安定を図ることにより、家庭で見た番組の経験をもとに、今回のテレビ視聴の途中にその後出てくるものの名前を保育者に伝えようとする姿や、隣にいる自分より小さい子に踊りなどを教えてあげようとする姿が見られるようになってきた。以前は保育者の方に振り向き、表情で何かを伝えようとする姿が多かったため、子どもの感情に応じた表情で受けとめていくことが多かったが、今回のテレビ視聴を踏まえ、子どもが発した言葉に対する言葉がけを、さらに考えていきたい。

今までのテレビ視聴では「ぐるぐるどっかーん」の時にじっと座って画面に見入っていた子も、今回は畳のコーナーへ行って踊ったり、視聴後に歌っていて踊りたくなった子が、自ら畳のコーナーへ行ったりなど、新たな成長や変化が見られた。一方、畳のコーナーへ行って踊る子の人数が増えたことで、踊っている途中に子ども同士がぶつかってしまう場面も見られた。保育者同士がより連携を図りながら視聴を安心して楽しめるような環境を工夫する。

2歳児（雪1組）番組名『おかあさんといっしょ』

クラス人数 21名 保育者：大場直子 白井美由紀 杉浦ひとみ
加藤由香利 杉浦恵子

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 新入児のクラスであり、入園当初は園生活に慣れず、母親と離れる際に泣けてしまい、情緒も不安定であったが、しだいに泣き止み気持ちも落ち着いてきた。生活の流れや保育者に慣れて喜んで登園し、徐々に自分から遊び始める姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

- （保育全体）・ 食事や排泄などの身の回りのことを自分でしようとする。興味のあることや経験したことなどを生活やあそびの中で保育者や友だちと自由に表現する楽しさを味わう。
- （視聴活動）・ 保育者や友だちと視聴する楽しさを味わいながら、感動を思い思いに表現したり、やりとりを楽しんだりする。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 複数の保育者が、テレビからの刺激で心揺れ動く一人ひとりの子どもに共感したり、表現を導き出したりするために、動的、静的な表現に分かれ、連携して行う。
- ・ 子どもがじっくり見て、つい動き出してしまう時のスペースを十分用意しておく。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月19日 テレビ絵本「さるのせんせいとへびのかんごふさん」】</p> <p>☆ テレビにじっと見入る子や、保育者の膝に入ったり出たりして落ち着きが見られない子と、いろいろな様子だった。</p> <p>★ 視聴中は目と目で思いを受けとめたり、傍についたりして安心感を持って視聴できるようにした。</p>	<p>☆ 新入児なので、まだ登園時に家の人と別れる際泣けてしまう子がいるが、ほとんどの子は泣かず、保育室に入ると自分から好きなあそびを始め、機嫌よく過ごせるようになる。</p> <p>★ スキンシップをとったりあそびに誘ったりしながら、情緒が安定するように一人ひとり関わっていく。</p>
<p>【6月3日 テレビ絵本「まめうし」】</p> <p>☆ 前回よりも静かにじっと見入っている子が多く、面白い場面では笑ったり指さしをしたりして、表情は楽しそうであった。</p> <p>☆ 視聴後、保育者からの問いかけに、登場人物を口にする子もいた。</p> <p>★ 視聴後は、まめうしになってイメージをふくらませ、あそびへつなげていく。</p>	<p>☆ オムツの子が多く、トイレに促されて排泄しようとする子もいるが、便器に慣れず嫌がる子もいる。</p> <p>★ 無理のないようにトイレに誘い、徐々に慣れるようにする。</p>
<p>【6月17日「おかあさんといっしょ」1・2組合同で視聴】</p> <p>☆ 場面の展開により、じっと見入ったり一緒に体を動かしたりと、思い思いに表現し楽しんでいた。</p> <p>☆ 友だちがやっているのを座ったままじっと見ている子もいる。</p> <p>★ 子どもと一緒に動く保育者、座って見ている子に寄り添う保育者に分かれ、見るようにした。テレビの前で立ったまま踊る子がいて、見えなくなってしまったので広い場所への誘導をした。</p>	<p>☆ 言葉で思いを表現する子と、思いをうまく出せずに泣けてしまう子がいる。</p> <p>★ 友だちとのトラブルでは、「貸してほしいんだって～」等と言葉を伝える。</p>
<p>【6月30日「いないいないばあ」1・2組合同で視聴】</p> <p>☆ 画面に表れるもの一つひとつを大きな声で嬉しそうに呼び、保育者の方を見て確認する姿も見られる。踊る場面とじっくり見たい場面を、友だちと一緒に楽しむ姿が見られた。</p>	<p>☆ 手あそびやうたを喜んで真似して、保育者と何度もやりたがる。</p> <p>☆ 紙芝居や絵本に関心があり、保育者の読むのをじっと見て、見たものを言葉で発する。</p> <p>☆ パンツトレーニングを始め、トイレに進んで行き排泄する子や、友だちの真似をして便器に座ってみる子もいる。</p>
	<p>☆ 友だちの名前を呼び合う子、同じあそびを一緒に楽しむ子、一人あそびをする子と様々である。</p>

視聴活動	保育全体
<p>★ 体で表現したくても、なかなか自分から動けない様子の子には、保育者が手をとり一緒に表現することで楽しめるようにする。</p> <p>【7月15日「おかあさんといっしょ」】1・2組合同で視聴</p> <p>☆ 画面に向かって手を振ったり、うたに合わせて一緒に手をたたいたり、「プープーだね」「あさですよ」など口ずさむ子もいた。知っている場面が出てくると、すぐに立ち上がり踊る。トンネルを作るなど遊び出す姿が見られた。</p> <p>☆ 視聴後は最後のトンネルくぐりが続き、その後うたのCDを流したことで、またみんなで歌って楽しむことができた。</p> <p>★ 視聴中は、まだテレビの前に立ってしまう子や近づいてしまう子もいたので、他の子の妨げにならないように対応した。</p> <p>【8月4日「おかあさんといっしょ」】</p> <p>☆ 「雨、雨」♪と友だちと一緒に口ずさみ、「ワンワン」と言葉も活発に発している。視聴後は、カエルが印象深かったようで、「カエル」の言葉が出て、カエルになって跳ぶ子や、カエルのうたを歌っている子がいた。</p> <p>★ テレビの前に立つ子がいて、「みえーん」という声が聞かれた。テレビの前に立つと友だちが見えなくなることを伝え、広い場所で踊るように誘った。</p> <p>【8月30日「おかあさんといっしょ」】</p> <p>☆ 自分から進んで広い場所へ行き、全身を使って動いて楽しむ子が増えてきた。視聴後は保育者が示したペープサートにより再びあそびが広がり、全員がそれに見入って“お化けうた”を繰り返し歌って楽しんでいた。</p> <p>★ 視聴のイメージが更にふくらむように、テレビに登場したものをペープサートに示した。</p>	<p>☆ 言葉数も多くなり、言葉で思いを表わしたり、友だち同士でおしゃべりしたり、保育園ごっこをして、うたや手あそびを楽しんでいる。</p> <p>★ 友だち同士の関わりを見守り、あそびが広がるような援助や言葉をかけるようにする。</p> <p>☆ プールあそびを楽しみ、気持ちも解放的になり、あそびも積極的になってきている。</p> <p>☆ 1・2組のあそびの交流が多くなり、一緒に遊んで名前を呼び合い、友だちの真似をして楽しむ姿が見られる。</p> <p>☆ パンツになった子も多くなり、促されてトイレに行く子、自分で排泄を言える子もいる。</p> <p>☆ 友だちとの関わりが多くなり、友だちの物が欲しくて衝突してしまう。中には、友だちに貸してあげる子や、友だちの様子を伝えてくる子もいる。</p> <p>★ 子どものそれぞれの思いを受けとめ、一緒に関わりながら思いを伝えていけるように導く。</p> <p>☆ プールに入る際の支度（衣服の着脱等）を進んでやり、身の回りのことを自分でやろうとする。できない時は保育者に援助を求める子もいる。</p> <p>★ 子どもと一緒にできたことを喜び、あせらずに進めていくようにする。</p> <p>☆ 自分がしたいことや嫌なことを主張し、保育者の手伝いなどをやりたがり、やれないと泣いて悔しがるともいる。</p> <p>★ 手伝いをやりたい時期なので、できるだけ一緒に手伝う機会を設け、交代などしながら進めていく。</p> <p>☆ 絵本を持って先生役になり、友だちに読もうとする子や、うたや手あそびをやりたがる子が増えている。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

「おかあさんといっしょ」は子どもたちがよく家庭でも親しんでいるため、始まる前も、視聴中も、とても期待を持ち、集中している。日常生活でうたや手あそび、リズムあそびに親しんでいるのと同様に、テレビから流れるうたやリズムあそびにもすぐに入り込み、口ずさみながら体を動かして楽しむ姿は、とても生き生きしている。友だちと一緒に顔を見合わせて喜び、体を動かしてその時を存分に楽しんでいる。番組の流れを察して、次に何が出るか言葉を発したり行動したりして、期待が高まっていることが感じられる。テレビをあそびの1つと考え、感じたことを表現できるような雰囲気大切にしながら、友だちや保育者と一緒に視聴することで、共感する喜びも味わえるようにしていきたい。

視 聴 記 録

平成17年 8月 30日 (火) 9:45		2歳児 雪1組 21名	
【番組名】「おかあさんといっしょ」		保 育 者	大場直子 白井美由紀 加藤由香利 杉浦ひとみ
【ねらい】 友だちや保育者と一緒にテレビを見て、うたを歌い、体を動かすことを楽しむ。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ うた「くいしんぼおばけ」 ・ うた「流れ星」 ・ うた「あいうえおはよう」 ・ うた「すごいぞ! じゃがいも」 ・ でこぼこフレンズ ・ まねっこ ピーナッツ ・ ぐーチョコランタン ・ スーズダンス ・ はみがき しょうずかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「スイッチオン」 ・ 嬉しくて立ち上がって喜ぶ子もいる。 ・ 「おばけ～」 「ひとつ目小僧」と自分の目を一つ隠す。 ・ 「チョコレート」などと思ったものを言う。 ・ 当たった子は喜ぶ。 ・ 体を揺らす。静か聞いている。 ・ 楽しそうに見ている。 ・ うたを真似しようと言葉を口走る。 ・ 「ジャガイモ」「おいしそうだねえ」 ・ お兄さんたちの踊りを真似する子がいる。 ・ 「でこぼこフレンズ♪」 ・ 「みたことある」「やあやあ…」とセリフを言う。 ・ 笑って見ている。 ・ 音楽がかかると同時に立ち上がり、ポーズのマネをする。 ・ 広い場所のままで見る子やテレビの前に来てみる子がいる。 ・ 「ぐーチョコランタン♪」「おいしそうだね」 ・ うたで踊りだす。 ・ 「ゴリラ」 ・ 踊りを真似する。見て楽しむ子もいる。 ・ 手を動かす、はみがきの真似をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「スイッチオン!」 ・ 「お家で見た。」「今日見たよ。」 ・ 手拍子。(Dくん) ・ みんな真剣に見ている。 ・ 「Sくんのお家、タマネギあるよ。」 ・ 静かにテレビを見ている。時々、手拍子。(Yくん) ・ のらねこが出て来て「にゃん!」と言い続ける。(S2くん) ・ つられて「にゃん」(Rくん) ・ 「ぼく、これしっとる」(S2くん)「Yくん、みたよ」 ・ 「ぼく見た」(Rくん) ・ 「まるまる…」と口ずさむ子や体を揺らす子がいる。 ・ 「でこぼこフレンズ」 ・ 「なにこれ?何やととる?」(S2くん)「みんなもボールはいろいろね」 ・ 音楽がかかると「わーいわーい」といって広い方に走っていく。 ・ 口ずさみながら思い思いに体を動かす。中には違うことをしている子もいる。8人くらいの子は座ったまま見ている。 ・ 望遠鏡の手にする。踊っていた子は量のコーナーに戻るが、「ぐーチョコランタン」でその場で踊る子、立ち上がる子、テレビの前に行ってしまう子がいる。曲がかかることで元の場所に戻り集中して見る。 ・ 待っていたとばかりに広い方へ。真似するというよりも体を動かす事を楽しんでいる。5～6人の子が座って見ている。 ・ 「シュシュシュッ」 ・ 「お父さんとお母さんに…」(Yくん) 	

<ul style="list-style-type: none"> ・パンツばんくろう ・あざらしの映像 ・ばわわぶたいそう ・スブラッピ スブラッタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「〇〇もできる」 ・ 畳のコーナーに戻る。 ・ 始まると同時に床のコーナーへ行き、保育者と一緒に踊る。 ・ トンネルを作ったり、くぐったりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あっ！ばんくろう」（Ｙ２くん） ・ パンツが動くことに笑う。 ・ 「ペンギンだあ」「あざらしだ」 ・ 真似したり思い思いに踊る。はしゃいで走り回る子もいる。 ・ 「キャー」回るのを楽しむ。 ・ 座って見入る子もいる。 ・ 手を振り「ハイパーイ」
--	--	---

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・「おわちゃったね」 ・「もう一回」と思ったことを近くの保育者に話す。 ・保「おばけがでてきたねえ」 子「うん」 ・保「どんなおばけさんだった？」 子「こわくなかった」「いっぱい食べてた」「一つ目小僧～」と隣りの子にやる。 ・保「食いしん坊のおばけさんだったねえ」 ・保「みんなもおばけに変身しているんなことをしてみようか！」とおばけになって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイバイをした後も走り回っている。 ・保「ドロドロドロ…」「お腹がすいたぞ～」「くいしんぼのおばけに変身！」 子「キャー」と畳のコーナーに集まってくる。 ・「くいしんぼおばけ」の曲がかかる。 座り始める。答えはあまり出ないが、保育者のペープサートに見入る。 ・保「次は何かな？」とテレビでやっていた物を曲に合わせてやってみる。 保育者のペープサートを見ながら口ずさむ子もあり、次に何が出てくるのか興味深くじっと見ている。 ・保「くいしんぼのおばけまだお腹すいているよね？次は何かな？」 ・テレビとは違うものでやってみると、だんだんと歌い始める。 ・保「ギザギザ模様でまるいものをつまみぐい？」 すぐに「スイカ！」と、数人が答える。 ・保「スイカだね」子どもにムシャムシャと食べれるように顔の近くにやる。 「僕も」といいながら思い思いに食べる真似をする。 ・何度も繰り返し、いろんなものを当てる。 ・保「さあ、くいしんぼのおばけさんはいろんなものを食べて、お腹いっぱいになって飛んでいっちゃったね。みんなもいろんなものたべて元気になったよね。」

【考 察】

前回、テレビの前に立つ子がいて「見えない！」という声が多く聞かれ、視聴に集中できないことがあったため、うしろの友だちが見えなくなることを伝えた。そして今回、立って踊りたくなる子は、保育者が広いスペースに誘うことでだれもが視聴を楽しめたと思う。

子どもたちが視聴で得たイメージを、自分のあそびにとり入れていこうとするきっかけづくりのため、今回、視聴に登場したものをペープサートで示してみた。その結果、子どもたちはテレビと一緒にのものがうたが出てきたことで友だちと楽しみ、さらにイメージをふくらませ遊ぶ姿がみられた。そして、テレビをみている時はじっと画面を見続けていた子も、友だちの楽しむ様子を見て自分も口ずさんだりして楽しめていた。

2歳児（雪2組）番組名『おかあさんといっしょ』

クラス人数 19名（男児6名、女児13名）

保育者：大木祐子 前 友美
柴田光香 吹野志保

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 月齢の高い子は、進級したことで意欲が高まり新しい環境に興味津々で、はりきって探索活動を楽しんでいた。月齢の低い子は、環境が変わったことで不安になり泣けてしまったり、保育者の側を離れられなかったりしていた。
- ・ 新入児が気になり、隣のクラスの泣いている子の側に行って関わろうとする姿が見られる。

【ねらい】

- （保育全体）・ 食事や排泄などの身の回りのことを自分でしようとする。
・ 興味のあることや経験したことなどを生活やあそびの中で共に自由に表現する楽しさを味わう。
- （視聴活動）・ 保育者や友だちとテレビ視聴をして、「みんなで見る楽しさ」「一緒に遊ぶ楽しさ」を味わう。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 複数の保育者が、テレビからの刺激で心揺れ動く子どもに共感したり、表現を導き出したりするために、動的、静的な動きを様々に役割分担する。
- ・ 子どもがじっくり見て、つい動き出してくる時のスペースを十分用意しておく。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月19日 テレビ絵本「さるのせんせいとへびのかんごふさん」】</p> <p>☆ 視聴中は、テレビにじっと見入る子が多い。</p> <p>☆ 視聴後は、目が合ったままで言葉は聞かれない。</p> <p>★ 保育者から言葉をかけてきっかけを作り、ソウやへびになって体を触れ合うあそびへつなげていく。</p>	<p>☆ 新しい環境になれ、月齢の低い子も泣かずに登園し、安心して生活できるようになってきた。</p> <p>☆ 衣服や持ち物の始末を、自分の力でやろうとする気持ちが芽生え始めている。</p> <p>★ スキンシップを心がけ、一人ひとりの気持ちをしっかり受けとめ、安定して過ごせるようにする。</p>
<p>【6月3日 テレビ絵本「まめうし」】</p> <p>☆ 視聴中に思ったこと、感じたことを言葉に出す子や、画面を指差し保育者の顔を見て伝えようとする子が出てくる。</p> <p>☆ 「ブーブー」「変な鼻だよ。」「大きい！」「ねんねしとる。」</p> <p>★ 事前に用意しておいた豆色の大風呂敷を使い、表現あそびが盛りあがるよう働きかける。</p>	<p>☆ 動物園に園外保育に出かけ経験したこと、楽しかったことを、保育者や保護者に伝えようとする姿がみられる。</p> <p>★ 2歳児なりの表現を理解し、言葉を補ったり代弁したりしながら、思いを共感しあう。</p>
<p>【6月17日「おかあさんといっしょ」1・2組合同で視聴】</p> <p>☆ 「でこぼこフレーズ♪」「グーチョコランタン♪」のフレーズをみんなで歌う。</p> <p>☆ 夢中になってテレビの前に立つ子や、気持ちが高ぶってみんなの周りを走る子がいる。</p> <p>★ 音楽に合わせて踊る子や、体を動かしたい子の気持ちに共感し、保育者も一緒に楽しむ。その時は、視聴している子の妨げにならないよう広い場所へ誘う。</p>	<p>☆ 遊戯室やプレイルームなどいろいろな場所でのあそびを経験し、活動範囲も広がってくる。</p> <p>☆ 友だちのことを意識するようになり、持っているものが気になったり、何をして遊んでいるのか見に行ったりする。</p> <p>★ 好きなあそびをする中で、保育者や友だちとのやりとりが楽しめるよう働きかけていく。</p>
<p>【6月30日「いないいないばあ」1・2組合同で視聴】</p> <p>☆ 普段、自分から話すことが少ない子が、言葉をつぶやく姿が見られる。「あー、雨。」「変な音したね。」「びょーんって。」「できあがりー。」</p>	<p>☆ 友だちが保育園を休んだ時に、「〇〇ちゃんいないねー。」「おなかがいたいの？」と心配する姿が見られ、周りの友だちに対する仲間意識が芽生え始めている。</p>

視聴活動	保育全体
<p>★ 大勢で視聴するので、後ろの子が見やすいよう、大型積木を使って場所を設置する。</p> <p>【7月15日「おかあさんといっしょ」】1・2組合同で視聴</p> <p>☆ 番組での出来事がそのまま現実と結びついて、キャラクターと一緒に歌って体を動かし、生で楽しめている。</p> <p>★ 音楽に合わせて踊ったりする子が増えてきたが、座って楽しむ子もいるので、そっと寄り添い安心して視聴できるようにする。</p> <p>【8月4日「おかあさんといっしょ」】</p> <p>☆ 視聴中に場所を移動して保育者の膝に入ったり、体に触れていたりすると、より安心して視聴できる子がいる。</p> <p>★ 視聴後の事後活動が「スラップスラップ」やトンネルや汽車あそびになってしまいがちなので、番組の途中でスイッチを切り、視聴後にいろいろなあそびを経験できるようにする。</p> <p>【8月31日「おかあさんといっしょ」】</p> <p>☆ 視聴後だけでなく、普段の生活の中でも視聴中に聞いたうたを口ずさんでいる。</p> <p>★ 番組の中から子ども達が興味を持ちそうな活動を予想し、ペアサポートを用意して、より活動が盛り上がるようにする。</p>	<p>☆ 一人ひとりの睡眠リズムで、一定時間安心して眠ることができるようになる。</p> <p>★ 家庭と連絡を取り合い、一人一人の体調を把握して健康管理に十分留意する。</p> <p>☆ スポンやパンツなど、簡単な着脱ができるようになる子が増えてくる。</p> <p>☆ 音楽に合わせて踊り、楽器を持って楽しく楽器あそびをするようになる。</p> <p>☆ プールが大好きで、水の感触を楽しみながら遊んでいる。</p> <p>★ 安全な環境作りに十分留意し、健康で快適に生活できるようにする。</p> <p>☆ テレビの影響か、晴れていても傘を差し、長靴を履いて、「見て、見て。」と嬉しそうに登園する子が増えた。</p> <p>☆ 保育者に誘われたり、自分から尿意、便意を知らせたりして、便所で排泄できる子が増えてきた。午睡時以外は、ほとんどの子がパンツで過ごしている。</p> <p>☆ 友だちとの関わりが増えてきた反面、些細なことでの衝突も見られるようになる。</p> <p>☆ 友だちに刺激を受けて、自分も「〇〇がやりたい。」と自己主張する姿が見られる。保育者や友だちのお手伝いをしたい子も多くなってきた。</p> <p>★ 自分でやってみようとする気持ちを温かく受けとめ、一人ひとりに合った援助をしながら意欲を育てていくようにする。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

2歳児と一緒にテレビを見ていて、「なりきる力のすばらしさ」を感じた。私たち保育者ではなかなか真似できないようなお姉さんの踊りなど、子どもたちは見たもの、感じたものをすぐに自分の中に取り入れ、なりきってしまう2歳児の変身能力には、視聴中も視聴後も驚かされる場面が多くあった。そんな2歳児にとって、テレビは手を伸ばせば届く空間のようだ。四角の画面の中にある番組の世界は、日常の保育者が読み聞かせる紙芝居やリズムあそびとなんら変わらないようである。

私たちは最初、「おかあさんといっしょ」は次第々とコーナーが変わっていくため、1つのテーマをじっくり楽しめないような感じがしていた。しかし、子どもたちは、次のコーナーに期待をふくらませ、すぐに入りこんでいた。また、視聴の回数を重ねると、次は何のコーナーか予測ができ、広いスペースへ体を動かしに行こうとし、次には、友だちや保育者に「さあ、いくよ！」と視線や表情で合図するようになってきた。昨年度からの継続児である雪2組の子どもたちは、家庭的な雰囲気の中で安心して「みんなと一緒に楽しく表現できる時間」を、視聴を通して体験している。テレビ視聴を通して、豊かな感受性と温かな人間性が育っていつてくれるだろう。

今後の課題として、子どものイメージを大切に受けとめ、より豊かな表現につなげていくための環境作りや配慮を心がけていきたい。特に、今まではそっと寄りそってきた静的表現を楽しむ子に対する関わり方や役割等を保育者間で話し合い、取り組んでいきたい。

視 聴 記 録

平成17年 9月 27日（火）10:00		2歳児 雪2組 19名	
【番組名】 おかあさんといっしょ		保 育 者	大木祐子 前 友美 柴田光香 吹野志保
【ねらい】 番組の中と同じあそびをすることで、テレビをより身近に感じ、あそびを楽しむ。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ・うた『しゃぼん玉』 ・『しゃぼん玉 いっばい』 ・『おつかいありさん』 ・『ふしぎはすてき』 ・『みなみのしまの こどもたち』 ・でこぼこフレンズ ・まねっこピーナッツ ・ぐ〜チョコランタン ・ズーズーダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わー。」「これ何だ。」「はじまった!」 ・嬉しそうに画面を見たり、保育者や友だちと視線を合わせたりする。 ・「しゃぼん玉だ。」画面を指差す。 ・一緒に歌う。 ・うたを聞きながらリズムに合わせて体をゆらす。 ・「ありさん!」 ・手拍子したり、歌ったりする。 ・画面にじっと見入る子もいる。 ・「うみだねー。」「かいがら」「うみ行ったことある。」 ・「でこぼこフレンズ♪」のフレーズを一緒に歌う。 ・「おにぎり、おにぎり。」 ・保育者や友だちと目を合わせてニコツとする。 ・広い場所へ行き、まねっこピーナッツのうたに合わせて一緒に踊る。 ・座った場所から動かずに画面を見ている子もいる。 ・真似をしてポーズをとる。 ・終わるとマットに戻り座る。 ・「カエル」「あれ、あるよー。」 ・「ぐ〜チョコランタン」のを一緒に歌う。 ・保育者や友だちに「行くよー。」と目で合図を送りながら広い場所へ行き、真似をして踊る。 ・座ったまま画面を見ている子も保育者 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何だろう。」「ブランコ」「乗ったことある。」「赤」 ・テレビを見ながら笑顔で指をさす。 ・画面に向かって数人の子が手を振る。 ・「Aちゃん、しゃぼん玉あるよ。」 ・やさしい曲の感じに合わせて小さく手拍子する。 ・しゃぼん玉が飛ぶ様子に、どの子も見入る。動かずにじっと見ている。 ・笑顔になり一緒に歌う。歌わずに体をゆらしてリズムをとる子もいる。 ・手拍子をしながら画面を見る。 ・思ったことを保育者に小声で伝える子もいる。 ・静かに見る。 ・やどかりが出てくる場面で指をさし「あれー!」と言う。(Sくん) ・「でこぼこフレンズ♪」と大きな声で歌う。 ・おもしろい場面では保育者や友だちと目を合わせて、声を出して笑う。 ・「おにぎりー!」 ・マットの後ろの広いスペースへ走って移動し、手拍子したり、はねたりしている。ポーズをとる時には真剣な顔つきになる子もいる。 ・友だちが後ろに移動したことで、マットの上が広くなり、前の位置に行く子もいる。(Sくん、Kくん) ・動かずにじっと画面を見ている子もいる。(Rちゃん、Mちゃん、M2ちゃん、Nくん) ・「カエル」「人形がしゃべった。」 ・手拍子をしながら嬉しそうに歌う。 ・保育者にそっと体をより寄せたり、腕を持ったりする。(Hちゃん、Sくん) ・「かえるのうた」を楽しそうに歌う。 ・カエルの真似をする。(R2ちゃん) ・気持ちが画面からそれてしまう子もいる。(S2くん) ・「キャー!」と歓声をあげて広いスペースへ移動し、嬉しそうにリスのまねをする。 ・静かに座っている子も、保育者と一緒に安心して笑顔で見ている。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・はみがき しょうすかな ・パンツばんくろう ・くま ・ばわわぶ体操 ・スブラッピ スブラッパ 	<p>が側にいることで安心して見ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットに戻ってきて座る。 ・はみがきの真似をする。 ・「わー。」「これ知っとる。」 ・「ワハハ」と笑う。 ・「くまー。」「動物園で見た。」 ・元気よく立ち上がり一緒に体操をする。座ったまま周りの様子を見ている子もいる。 ・トンネルになりたがる子が多い。自分のトンネルに友だちが入ってくると嬉しそうにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットに戻ってきて歯みがきの真似をする。 ・保育者に歯みがきの仕上げをしてもらい嬉しそうにする。 ・声を合わせて「パンツばんくろう♪」と歌う。 ・全員が画面を見て楽しそうに笑う。 ・「くまさんの舌べろ長いねえ。」と言って自分も舌を出す。(M3ちゃん) ・「くまさん寝とるね。」と言って自分も横になって寝る。(Sちゃん) ・嬉しそうに立ち上がり、広いスペースへ移動する。体操を大きな動作で踊る子、動きたい気持ちが強く走り始める子、じっと座ってみる子、様々である。 ・後半になると、Mちゃんもテレビを見ながら小さな動作で踊り始める。 ・トンネルや汽車になる。友達同士で汽車になる子もいる。 ・画面に向かって「ハイパーイ」と手を振る。
---	--	--

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや保育者と手をつないでトンネルになる。 ・汽車になりトンネルをくぐる。 ・飛んできたしゃぼん玉を見て歓声をあげる。 ・しゃぼん玉を追いかけて触ろうとする。 ・「〇〇もやりたい。」と自分で吹きたがる。 ・しゃぼん玉のうたを歌う。 ・屋上へ行き、しゃぼん玉を吹いて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチを切った後、マットに戻ってくる子も、広いスペースに残っている子もいるが、流れてきた「しゃぼん玉」の曲を聞くと立ち上がり、手拍子をしながらか一緒に歌う。まだ走っている子もいる。 ・しゃぼん玉を見つけると、集まってきてつかまえようとする。しゃぼん玉を「自分も」吹いてみたくなり、「やりたーい。」と要求する。 ・長い一列の汽車になり、「ぞうのテラス」へ移動。汽車の後ろにT2、T3、T4がつながると、後ろを振り返って満面の笑みになる。 ・「どんなしゃぼん玉が出るかなあ？」と保育者が言う。「丸いの」「大きいの」など身振りをつけて表現する。 ・大きなしゃぼん玉を見つけると、思わず手をさしのべる。 ・園庭に向かって吹く。割ることを楽しんでいる子もいる。 ・保育者が大きなしゃぼん玉を作ろうとすると「がんばって」と応援する。 ・魔法のおまじないを全員で言うと大きなしゃぼん玉ができ、歓声をあげて大喜びする。 ・片付けをする。

【考察】

今回は保育室よりも広いプレイルームで視聴したので、テレビの前にマットを敷いて視聴スペースを作ったり、子どもたちがマットの後ろのスペースへ移動した時には、音量を上げたりして環境に配慮した。慣れない場所での視聴ではあったが、子どもたちはテレビが始まったとたん、ぐいぐいと番組の世界に入りこみ、テレビから始まる「子どもたちと保育者をつなげる輪」の中で、視聴を楽しむことができた。今回の視聴は、回を重ねるごとに2歳児なりに「豊かな表現力」や「仲間意識」が育ってきていることが実感として伝わってきて、子どもたちの成長をたのもしく感じた。何よりも「みんなと一緒にテレビを見て、あそんで、とても楽しいね」という子どもたちのほじけそうな笑顔が見られたことを嬉しく思う。また、体を動かして思いを表現するよりも、じっと座って画面を見ることを楽しむ子が2～3人いるが、その子どもたちなりの楽しみ方も認め、保育者がそっと寄り添うことで安心できる居場所を大切にしていこう心がけ、保育者の感性や関わりについて保育者間で話し合いたい。

3歳児（星1組）番組名『つくってあそび』

クラス人数 19名（男児8名、女児11名） 保育者：北川順子

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 進級した喜びを感じ、新しい環境に興味を示したり、昨年度同じクラスだった友だちと一緒にあそびを楽しむ姿が見られる。
- ・ 不安や緊張を感じ、環境の変化への戸惑いがいろいろな面で表れてくる子もいる。

【ねらい】

- （保育全体）・好きなあそびを楽しんだり生活しながら友だちとの関わりを深めていく。
- （視聴活動）・視聴を通して作ったもので遊ぶことのおもしろさを味わう。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が傍に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月23日「しんぶんし」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 「何が始まるんだろう！」という期待の表情が見られスイッチオンをすると、オープニングの曲を聴いて、嬉しくなり笑顔になる。 ☆ 視聴後「アンパンマン」など視聴とは関係のないことを話し、他児の集中も途切れてしまう。 ★ 落ち着きのない子は保育者の傍で視聴し安心できるようにする。 ★ 遊んでみたいという子どもたちの気持ちを受けとめながら実際に作ってみるように誘いかける。 <p>【6月2日「ねんどのおだんご」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 前回の反省から、椅子に座る子と床に座る子と分かれ、画面が見やすいよう設定していく。 ★ わくわくさん&ゴロリのペープサートを扱い、より親しみもてるようにする。 ☆ 前回の事を思い出したようで、テレビの前に積極的に座り、スイッチオンと共に「ワ～」「キャ～」と歓声が起こる。 ☆ 視聴中、近くの友だちや保育者を見て、微笑み合う姿が見られる。 ★ 子どもたちの作ったものをみんなで見せ合う場を設け、いろいろな物が作れることを知らせ「僕も作ってみよう！」という気持ちを育てていく。 <p>【6月9日「おもしろいかたち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ いろいろな形に変化していくおもしろさを感じ笑いが起きるが、それに対して真剣に見ている子は「うるさい」「シ～」という声も出る。 ☆ 視聴後、力が抜け保育者にスキンシップをとりにくる。 ☆ みんなが作っている中、自信がなくどうやってやればいいのか戸惑ってしまう子もいる。 ★ 自信がない子には、保育者が一緒に取り組んでいくことで、自分の思いを少しずつ出せるよう進めていく。 <p>【6月14日「かみざら」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 前回の視聴から日がたっていないせいもあり、視聴に対して新鮮さが薄れ、ゴソゴソして集中できず、ざわつきも多い。また「うるさい」という注意の言葉から、トラブルになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 新しい環境にも慣れ、少しずつ生活の流がわかり、身の回りのことを自分でしようとする子が増えてきた。その反面、約束事や決まり事などを少しずつ子どもたちに伝えているが、なかなか守れず、落ち着かない場面も見られる。 ★ 自分でしようとする気持ちを大切にしながら、約束事などは、その都度しっかりと伝えていくようにする。 ☆ 「つくってあそび」の経験から普段のあそびの中でも、ねんどあそびが人気で思い思いのものを作りあそびが盛り上がっている。 ★ 普段のあそびの中にねんどあそびができる機会を多く取り入れていくようにする。 ☆ 部屋に飾っておいたわくわくさん&ゴロリのペープサートを見て「わくわくさんだ」「ねんどやりたい」と親しみを持つ姿が見られる。 ☆ 友だちとの関わりも増えてきたが、気持ちの行き違いやぶつかり合いも多くみられる。 ★ 子ども同士のトラブルは、お互いの気持ちを受け止め、相手の気持ちを代弁しながら友だちと一緒にあそびたいという気持ちを育てていく。 ☆ 「箸であそんじゃあいかんだよ」「お片付けの時間だよ」など簡単な決まり事などを友だち同士で注意しあうようになる。 ☆ たてわり保育を経験し、異年齢児と過ごす楽しさを感じ始める。 ☆ 日々の生活の中で自分の思ったことを言葉で伝える子が増えてきたが、中にはその日の気分によって気持ちが伝えられなくなってしまいう子もいる。

視聴活動	保育全体
<p>☆ 視聴後、保育者が作品を作ってみると、興味を示し「わくわくさんは、こうやってたよ！」と身振り手振りで思いを伝え、「魚ないよ」「作ればいいよ」…とイメージの広がりができ、意欲にもつながってきた。</p> <p>★ 保育者が作品を作って紹介してみることで、子どもたちの「作りたい」という気持ちをより盛り上げていく。</p> <p>【6月28日「つつでジャンプ」】</p> <p>☆ 2週間以上空けての久しぶりの視聴だったこともあり、始まる前から期待をする表情が同え、視聴中はざわつきもなく、画面に見入って集中している。</p> <p>☆ ゴロリやわくわくさんの言葉に反応して、つぶやきや笑いが起きる。</p> <p>☆ 「やりたい」という友だちの声を受け、「ほくも～」「作りたい」と足をバタバタさせながら気持ちの高まりを表現する。</p> <p>★ 子どもたちの期待にそえるように、材料などを多目に準備しておく。</p> <p>【7月19日「えのぐあそび」】</p> <p>☆ ものを作るというより絵の具自体で楽しむ番組だったせいか、つぶやきや驚きは少なかったが集中して見ている。</p> <p>☆ 「今度はうさぎだもん」と画面を通して予想する場面や、できていく所が嬉しくて隣の子と顔を見合わせて笑い合い共感を求める姿が見られるようになり、友だちと一緒に視聴する事が楽しいと思う気持ちが育ってきている。</p> <p>★ 視聴後のイメージ交流を進めていくうえでのマナーを話し合い、他児の思いも聞いていける雰囲気作りをしていく。</p> <p>★ 活動に移る時の流れでは、子どもたちから出た思いやアイデアをより大切に、自分たちであそびを進めていくという気持ちが持てるよう導いていく。</p> <p>【8月2日「うかべてみよう」】</p> <p>☆ 「何が出来るんだろう？」と次の場面を期待しながら視聴し、一人ひとりが画面に入り込み、みんなで同じものを見ている一体感が感じられる。</p> <p>★ 視聴中の約束事をみんなで話し合う場を設けていく。 どんな材料があれば作れるのかなど、視聴した内容を思い出しながら子どもたちからのアイデアも出てくる。</p>	<p>★ 安心して話せる雰囲気づくりを心がけながら、子どもの思いを優しく受けとめ、共感し言葉のやりとりが楽しめるよう配慮する。</p> <p>☆ みんなで折り紙で作って遊ぶ。視聴活動の経験から作ることに慣れ親しんでいたこともあり「わくわくさんみたい～」と言いながら保育者の見本を見て自分の力で進めていくなど意欲的な姿がみられた。</p> <p>☆ 夏あそびを楽しみにしており、水着の着脱や支度など身の回りの事を自分でやろうとしている。時には服が脱ぎにくい所など友だち同士助け合っている。</p> <p>☆ カブトムシ、バッタ、セミ…などの小動物に興味を持ち「そ～っともつだよ」「触ると死んじゃうよ」など友だち同士で話しながら観察し、生き物への優しい気持ちが育っている。</p> <p>★ 保育者も一緒に小動物にふれたりしながら、興味、関心が広がるようにし、また、命の大切さも伝えていく。</p> <p>☆ 気の合う友だち同士の仲が深まってきて小さな集団ができていながら、あそびに入っていけない子もいる。</p> <p>★ 保育者が仲立ちとなり、あそびの中に入っていきながら、より多くの友だちと関わってあそび楽しさを伝えていくようにする。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

「つくってあそぼ」を視聴していくにあたって、まず登場人物の「わくわくさん&ゴロリ」に親しみが持てるようにとねらいをたて取り組んでいった。視聴前の「わくわくさん&ゴロリのペープサート」のやりとりでは、大変興味を示し、回を重ねるにつれて親しみも深くなり、視聴に対する期待感も高まっていったように感じた。視聴を始めた頃は、視聴に対しての期待感はあるものの、自分の思いを表出することがなかなかできなかつたり、友だちの視聴態度が気になり「うるさい」などの言葉も出て集中できない場面もみられたが、視聴を重ねていくことで、保育者や友だちと一緒に視聴する楽しさを感じたり、感動した思いを表出するようになり、みんなで同じものを見て共感し合う楽しさが子ども一人ひとりの表情から伝わってくるようになった。また、自分の力で「つくる」楽しさや満足感を感じ、普段の保育で作って遊ぶ時でも、自信を持って意欲的に取り組める子が増えてきた。

視聴後の活動では、自分の思いを伝えようと保育者の所へかけよってきたり、スキンシップを取りにくる子がいてクラス全体でのイメージ交流がなかなかうまくできなかったが、友だちの思いにも少しずつ気付いていけるよう子どもたちと話し合いを進めていったことで、徐々にみんなで交流し合える雰囲気が出てきた。今後、子どもの思いをさらに大切に、イメージ交流の場でより思いを膨らませていける働きかけをしていきたいと思う。また、自分の思いをなかなか表出できない子もいるので、保育者の関わりによって感じた思いなどを徐々に引き出していけるような雰囲気作りをしていきたいと思う。そして、友だちとの視聴を楽しみながら、友だちからの刺激を受けて「ほくもやってみよう」という気持ちを育てていくことが今後の課題である。

視 聴 記 録

平成 17 年 6 月 9 日 (木) 10:15		3 歳児 星 1 組 20 名	
【番組名】 つくってあそぼ「おもしろいかたち」		保育者	北川順子
【ねらい】 保育者や友だちと一緒に視聴し、思いを出し合ったりしてやりとりを楽しむ。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ♪オープニング ・ゴロリ登場 ・わくわくさん登場 ・「3」型 ・勝負! ・〇丸型 ・ベース型 ・口しかく型 ・(〇〇)型 ・♪雲 ・折り紙 □ ・〇 	<ul style="list-style-type: none"> ・歓声があがり足をバタバタさせて喜ぶ。 ・徐々に静かになり見入る。 ・笑みを浮かべる。 ・「へんだね」友だちと顔を見合わせながら笑う。 ・「おしりみたい」 ・「おならブ～」と言うセリフを笑いながらまねして言う。 ・「かえるだ」 ・じっと見入っている。 ・何が始まるのか期待している表情。 ・「フライパン」「めがね」と描けたもの答えを言ってみる。 ・「きつね」「すご～い」驚いた表情。 ・「何だろう？」という表情で見入る。 ・見たとたん「ブタ」と言う→当たったことが嬉しくて喜ぶ。 ・「かわいい～」「ひよこ」「うさぎ」 ・「かいじゅう」「こわ～い」 ・「ネコだね」友だちと顔を見合わせて微笑み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あ・そ・ほ」の所を一緒に歌う。 ・真剣な表情で画面に見入る。 ・保育者と目が合い微笑み合う。(Sちゃん) ・「変なおじさん」と言って盛り上がる。(Aちゃん、Kちゃん、S2ちゃん) ・「でもわくわくさんだよ」(Tくん) ・「何かやるの?」「ハサミできるの?」(Hちゃん) ・「おならがブ～だって」みんなしばらく大笑い。 ・「かえるくん」(Kちゃん)手を口に押さえて笑う。 ・「かもめさん」(Hちゃん) ・「なに～!きゃ～!」(Mちゃん、Jくん、S2ちゃん)大興奮。 ・「プリキュアになるな～!」(Mちゃん)それからプリキュアが気になり近くの子に着ていたシャツを見せる。他児(Kちゃん、Jくん)もテレビから話がそれ、(Mちゃん)と話しをする→自然に集中し出す。 ・「フライパンってお手てでパッとやるだよ」(Mちゃん) ・「きつね!やった!」(Mちゃん)の声につられ、みんなも足をバタバタしたり声を出して喜ぶ。→テレビの音が聞こえなくなり「うるさい」(Aちゃん、Kくん)「シ～」(T2くん)、S2ちゃんの口を押さえる(A2ちゃん)など注意し合う。 ・「キャ～キャ～」(Mちゃん)場面が変わるたび歓声をあげる。→「Mちゃん、うるさい!」(Jくん)→「うるさいよね」(Mちゃん)自分が言われているのに気付いていない。 ・「ぶたさん、フウフウ」(Kちゃん、Mちゃん、K2くん)楽しそうにやりとりをする。 ・「あ～パンダ、ばんだ」(K2くん、Jくん) ・「空、くらい」(T3くん) ・画面に見入る。 ・(Kちゃん)が(Jくん)によそ事を話かける。→(Jくん)が優しく「シ～」と注意するとまた画面に見入る。 ・「恐竜怖いね」(Tちゃん)「怖くないよ。夜は怖いけど、朝は怖くないよ」(Hちゃん) ・「何かね?」(Hちゃん)「うん、ねこだ」(Tちゃん)「ほらね」(Hちゃん) ・「丸い紙だって」(Kちゃん) 	

・△	・「ふねだよ」	・「ねこだね」(Sちゃん)→うなずく。(Aちゃん) ・「ヨットだー！」(K2くん)→隣にいた(T2くん)のシールと同じだったので、顔を見合わせて微笑み合う。 ・「ふね」(Kちゃん)
・♪ゴロネちゃん	・笑みを浮かべる。 ・「はいった、はいった」喜ぶ。	
・ちょうちょう	・「すごい」「ちょうちょうだ」「つくりたい」	・「今度はなにかね〜？」(Tちゃん)「ピンクだけだからん」(Hちゃん) ・「ちょうちょうだ」口々に言いながらゴソゴソします。
・♪エンディング	・体の力を抜きながらも画面を見ている。	・「かぶとむし」(Nくん) ・「もう終わった」(Hちゃん) ・「まだ終わりじゃないよ、まだ始まるよ」(Kくん)

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチオフすると一瞬静になり、その後「また見たい」「つくりたい」と思いを伝える。 ・保育者や友だちの話の聞いている。 ・保育者に思いを伝えようとするがなかなか言葉にできない。 ・床に転がったり、部屋の中を歩き回る子もいる。 ・「つくりたい」気持ちが高まってきた子同士で盛り上がってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力が抜け保育者の側にスキンシップをとりにくる。(Tちゃん、Aちゃん) ・「あのさ〜わくわくさんさあ〜・・・」(Mちゃん)と保育者に思いを伝えにきたかったのだが(S2ちゃん)に止められる。 ・「わくわくさん、博士になっちゃったみたい」(Tくん)「お耳ついとったね」(Mちゃん)「ひげもついとった」(Kくん) ・「電車のトンネルもあった」(Nくん)「でも、ヨットもあったよ」(Kくん)「怪獣にも変身しちゃった」(Kくん)「ねこさんクルクルってなった」(Mちゃん)「ぼくねえ、なんでも見た」(Tくん)「ライオンみた」(T3くん)・・・など思いを保育者に伝える。伝えたいという思いから、保育者の周りに集まってくる。それをみて「すわってください！」と注意する子がいて、数人の子がもとの場所にもどる。 ・保育者が「先生もわくわくさんになってみようかな」と言いながら、いろんな形の折り紙をみんなの前に出してみると、興味を示し、「スイカみたい」「とんぼめがね」「ニンジンになっちゃうかもね」という思いがでてきた。「つくりたい！」という思いもでてきたので、あそびの設定をする。 ・自分たちで、すきな折り紙を選び、思い思いのものをつくっていく。なかには、「どうやってやればいいのか・・・」と悩み、手が止まってしまう子(A2ちゃん)もいた。

【考察】

前回の反省からテレビの音量を少し下げた所、耳をふさぐ子はいなかった。

テレビを見る事を楽しみにしているのが、子どもたちの表情からうかがうことができた。視聴前のペープサートのやり取りも簡単な「おはなし」にしてみたら、前回よりのめり込んで見ていたと思う。ペープサートを子どもの手の届く所に置いてしまったので、視聴後すぐペープサートに手をのばす子がいた。視聴の妨げにならないよう置く場所を設定しておく必要があると感じた。

視聴中の雰囲気は回を重ねるごとに、少しずつ変わっていくのを感じた。Mちゃんが、いろんな場面で大きな声で「キャ〜」と喜びを表現したり興奮ぎみに話したり、盛り上がりの場面では、半数くらいの子が足をバタバタさせ大きな声で笑ったりしていると「うるさい」「シ〜」と注意する子が3〜4人いた。子どもたち同士で注意し合い、みんなで楽しく視聴できるような雰囲気にしていこうとする姿勢が少しずつであるが感じられた。友だちに注意された子も、視聴を楽しんでのことなので、その思いを受けとめつつ、他児への妨げになっていることも伝えていく。

視聴後の活動の中で、「どうやってやればいいのか？」と戸惑っている子がいたが、保育者が一緒につくってみたりすることで、3歳児なりに少しずつ「やってみよう」という思いが持てる様になってきた。

3歳児（星2組）番組名『つくってあそび』

クラス人数 20名（男児8名、女児12名） 保育者：中島悦子

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 継続児で担任も持ち上げりのため、安心して生活し、気の合う友だちと一緒に遊んでいる中で、自分の思いを通そうとして、ケンカやトラブルも見られる。
- ・ 絵本や紙芝居を見ることが好きで、集中して楽しむ姿が見られる。

【ねらい】

- （保育全体）・好きなあそびを楽しんだり生活しながら、友だちとの関わりを深めていく。
- （視聴活動）・視聴を通して作ったもので遊ぶことのおもしろさを味わう。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が傍に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月23日「しんぶんし」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴前から少々緊張気味である。 ☆ 視聴中もじっと画面を見ていてつぶやきも少ないが、とても集中して見ている。 ★ 緊張感を和らげ、期待感が持てるような言葉がけをする。 ★ 保育者も一緒に作りながら、作る楽しさが感じられるようにする。 <p>【6月2日「ねんどのおだんご」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 前回見たということもあり、期待して見ようとする。粘土が色々なものに形を変える場面は特に興味を持ち、いろいろなつぶやきが出る。友だちの様子につられて「何だこれー？」「おもしろいね」などと声を出し始める。 ☆ 粘土で、自分の作りたいものを思い思いに作る。 ★ 集中できない子や落ち着きのない子は保育者の側で安心して視聴できるようにする。 ★ 登場人物をペープサートにして視聴前に見せることで、期待して視聴できるようにする。 <p>【6月9日「おもしろいかたち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ たくさんの子が自分の思いを表す。ひとりでの“つぶやき”が少しずつ友だちへの“語りかけ”になり、「～だよね」「おもしろいね」など保育者や友だちに向かって同意を求めている様子が伺える。 ★ 一人ひとりの思いを受けとめ、共感し合うことの心地よさが感じられるようにする。 ★ できた作品を黒板に貼り、みんなで見る機会を設ける。 <p>【6月14日「かみざら」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴中はとても集中して見ている反面、視聴後場所を離れる子もいて、落ち着かない様子。一人ひとりの思ったことを同時に保育者へ伝える中「自分の話だけを聞いてもらいたい」というトラブルも起きる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 新しい環境に慣れ、気の合う友だちとのあそびの中、自分の思いを、保育者や友だちに伝えられるようになる。 ★ ゆったりとした雰囲気作りを心がけ、一人ひとりの思いを優しく受けとめる。 ☆ 集団での活動やあそびに対して、まだ意欲が持てない子もいる。 ★ みんなで一緒に行うことの楽しさが味わえるような活動を工夫する。 ★ 普段の生活の中でペープサートを使ったり、目に付くところに飾る。 ☆ わくわくさんやゴロリを身近に感じ、親しみを持っている様子。「わくわくさんいつ見る？」と番組を楽しみにしている。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 友だちを誘って遊んだり、一緒にいる事を好む一方、思い通りにならないと泣いたりケンカになる時もある。 ★ 時には仲立ちとなり、気持ちの橋渡しをすることで、相手の気持ちに気づいていけるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 一日の流れがわかるようになり、「次は～やる？」など予想しながら活動できるようになる。

視聴活動	保育全体
<p>★ 作品を見せながら、イメージを膨らませ、作る意欲が持てるようにしていく。</p> <p>★ 活動への準備を一緒に行うことで作ることへの期待を高めていく。</p> <p>【7月1日「つつでジャンプ」】</p> <p>☆ 日にちをおいての視聴だったことと、視聴前にマナーについて話したことで、新鮮な気持ちで視聴することができ、イメージ交流でも思いを他児に伝えたり、みんなの気持ちも聞くことができた。</p> <p>☆ 視聴中場面ごとに一喜一憂し、みんなで言葉を交わしながら楽しむ姿が見られ、一体感を持って視聴していた。</p> <p>★ イメージ交流では一人ずつ名前を呼び順番に発表できるようにすることで、トラブルや混乱を避けるようにした。</p> <p>【7月19日「えのぐあそび」】</p> <p>☆ 真剣に見たい気持ちから、他児の言葉に「聞こえん」と言う。</p> <p>☆ 友だちが「わー」「すごい」という歓声を上げている中で、「いろんなものができちゃうね」というみんなの思いをまとめるような発言も出てくる。</p> <p>★ 戸外で大胆に遊びながら、えのぐの感触が楽しめるよう導く</p> <p>【8月2日「うかべてみよう」】</p> <p>☆ 視聴後すぐに「やりたい」と言う子が多く、言葉での交流の時間は短かった。</p> <p>☆ 競争や勝負する場面では、応援したり手をたたいて喜び、番組にのめりこんで視聴する姿が見られた。</p> <p>★ 普段楽しんでいるプールあそびに、テレビ視聴で作った作品を用いて遊ぶことで、視聴をあそびに活かす楽しさが味わえるようにしていく。</p>	<p>★ その日の予定を知らせることで、一日が楽しく充実して過ごせるようにする。</p> <p>☆ 集会などで、人の話をしっかり聞こうとする姿勢が見られる。</p> <p>★ 話し方を工夫し興味関心を持てるようにする。</p> <p>☆ 視聴活動を通して、作ることの楽しさが味わえるようになってきている。はさみの使い方も上達し、テープやのり、クレヨンに対しても興味を持ち、使いたいという気持ちが伝わってくる。</p> <p>★ 作った作品をみんなで見る機会を作り、一人ひとりを誉めることで自信を持たせていく。</p> <p>☆ お帰りの時にも、画用紙を使って作って遊んでみたことで、いつも落ち着かない子も楽しんで参加できた。</p> <p>☆ プールを楽しみに登園してくる。</p> <p>★ プールの中で大胆に遊び、開放感が味わえるように配慮する。</p> <p>☆ 当番活動に対しても、とても意欲を持ち、保育者の指示がなくても自分で考えて行動したり、自信を持ってみんなの前で発表している。</p> <p>★ 笑顔で見守ったり大いに誉めることで、みんなの役に立つ喜びが味わえるようにする。</p> <p>☆ 友だちが困っていると教えてあげたり助けてあげられるようになってきた。</p> <p>★ 友だちに対して「ありがとう」と感謝の気持ちを表し、友だちへの思いやりを育むことで、優しい気持ちを持ち続けられるように導く。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

回を重ねるごとにテレビ視聴を楽しみにし、視聴中の子どもの思いにも変化が見られる。はじめは集中して見ることから始まり、少しずつつぶやきが聞かれ、そして友だちや保育者に対して語りかけたり共感を求めるようになり、最近では全員の一体感も感じられるようになってきた。またテレビ視聴を通して、はじめはただ画面を見ていただけだった子が、周りの友だちの楽しそうな様子に魅了され「自分も一緒に楽しみたい」という気持ちから、内容をじっくり見ようとする姿勢に変わったことも、変化の一つである。わくわくさんとゴロリに対して親しみを持ち、応援したり、喜んだり悔しんだりする気持ちも出てきている。

課題としては、視聴後すぐに数人の子が自分の思いを保育者へ伝えようとし、それによってトラブルや混乱を招いてしまうことが多い。自分の思いばかりが前に出てしまい、聞こうとする姿勢が見られない子もいる。友だちの意見も聞くことで友だちの思いに気づいたり、さらにイメージが膨らんでいく楽しさが味わえるような言葉がけ等を工夫していきたい。

視 聴 記 録

平成 17 年 7 月 1 日 (金) 10:00		3 歳児 星 2 組 20 名	
【番組名】 つくってあそぼ「つつでジャンプ」		保 育 者	中島悦子
【ねらい】 ・ 友だちと言葉を交わしながら共感することを楽しむ。 ・ 筒がジャンプすることを喜び何度もやってみる。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング♪ ・ わくわくさん登場 ・ ゴロリ登場 ・ つつが跳ねる ・ つつに顔を書く ・ お風呂に入る ・ つつを作る ・ お風呂に入る ・ コアラの赤ちゃんとお母さん ・ カンガルーの赤ちゃんとお母さん ・ バッタ君、ウサギさん、ノミ ・ ゴロネちゃん♪ ・ カエルジャンプゲーム♪ ・ ピンポンゲーム ・ ピンポンゲーム♪ ・ 玉入れゲーム♪ ・ エンディング♪ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「わくわくだ！」 嬉しそうな表情。 ・ 「チョキチョキ…♪」と、うたを歌う。 ・ 何をやっているのかな？とじっと見入る。 ・ 「ゴロリ！」 ・ 「ピョン」「跳んだ」喜び、体を使って跳ぶ真似をする。 ・ 「おもしろいねー」「わー！」力が入る。 ・ 二人のやり取りに表情がゆるみ微笑む。 ・ 「変な顔」「はだかんぼ君？」と笑う。 ・ 興味深く見て、嬉しそうな表情をする。 ・ 友だちと一緒に顔を見合わせて喜び、共感する。 ・ 静かになり、真剣に画面に見入る。 ・ 「はだかんぼ君」友だち同士で笑い合う。 ・ 「すごい」「やったー」と驚く。 ・ 「コアラ！」みんな口々に言う。 ・ 入るかなと心配する表情や楽しそうだなという表情。お母さんのおなかの中に入ると手をたたいて喜ぶ。 ・ 「うさぎ！」お母さんの登場で「カンガルー」。なかなかおなかに入らず残念がったりおもしろがる。 ・ 「ばった！」「うさぎ！」「ねこ！」 ・ 繰り返して飽きてごそごそしたり友だちに干渉をする。 ・ 力が抜け体が動く。 ・ 「かえるだ！」跳ぶのを見て喜ぶ。 ・ 「おもしろいね」「やりたい」 ・ 真剣に見入る。「やりたい！」楽しそうだなという表情で笑う。 ・ 大笑いして喜ぶ。 ・ 「おわり？」友だちと話をしだす。 ・ 「やりたい」「終わっちゃった」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「キヤーキヤー」歓声を上げ、友だちの顔を見て笑う。 ・ 画面に出てくるもの一つ一つに嬉しそうに反応する。 ・ 真剣に見入る「筒だって」(Jくん) ・ 「おもしろいね」と言い合う。(Tくん、Yくん) ・ 「ピョンピョン」喜び、手で筒が跳ねる真似をする。 ・ 一人が笑い出すと、みんなも顔を見合わせ声を上げて笑う。 ・ しばらく友だちと話をし余韻に浸っている。 ・ 静かになるが、表情はゆるみ、笑顔で画面を見ている。 ・ 筒が跳ぶたびに声を上げて笑う。 ・ 「ははははー」大笑いした後、真剣に見る。 ・ 「つぶれちゃった」(Y2くん) よ言うとみんなも同じ事を言う、ゴロリの言動に喜びみんなて笑い合う。 ・ 「はだかんぼ君？」 ・ 「わー」みんな一斉に笑い、喜ぶ。 ・ 「コアラ！」「コアラの赤ちゃん！」みんな口々に言う。 ・ 入るかなと真剣に画面を見つめている。 ・ 筒が跳ぶたびに喜んで笑う。 ・ 「うさぎ」「ねこ！」少しの事でも大笑いする。 ・ 「あー痛い痛い」心配する。 ・ 筒が跳ぶのをおもしろがって笑う。 ・ 一瞬静かになり、また筒が跳ぶと笑う。 ・ 「うさぎ！」とみんな口々に言う、数人の子が笑う。 ・ 画面にのめりこむように見る、手をたたいて喜ぶ。 ・ 力が抜け体が動く。じっと説明を聞いている。 ・ 「かえる？」跳んでも笑わず説明をよく聞いている。 ・ じっとゲームを見つめ、体が前のめりになる。 ・ みんなで大笑いし、それぞれに思ったことを言う。「きゃー！」「おもしろい！」「ピョーン」 ・ 「滑り台」作っているところはとても真剣に見る。 ・ 「すごい！」「僕の勝ち」「さっきやったじゃん」笑う。 ・ 「頑張るぞ！」「終わり？」口々に言う。 	

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・力が抜け、余韻に浸っている。 ・すぐにやりたがる子もいる。 ・保育者と一緒に場面を思い出して、やっていた事や、おもしろかった事などを話そうとする。 ・友だちの話を聞いて、同じ意見や違った意見を言おうとする。 ・場所を離れたり、友だちと関係のない事を話す子もいる。 ・保育者のやっている事を興味深く見る。 ・保育者に促されて、何を作ろうか考える。 ・自分でクレヨンを用意して、思い思いに描き、できたものを保育者に見せようとする。 ・何度も指ではじいて、ピョンピョン跳ばすことを楽しむ。 ・みんなでゲームをして楽しむ。 ・一通り終わると、作ったり遊ぶ事をやめてしまう子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伸びをして力を抜いたり、体を動かしてすぐにやりたがる。(Aちゃん、Mちゃん) ・保育者の援助により、一人ずつ順番に思いを言っていく。 ・他児の意見を聞き、同じ事を言い共感する姿や、自分の思いを積極的に保育者や友だちに伝える姿が見られる。 ・「おもしろかった」みんな口々に言う。 ・「やりたい」「ピョン」(Tくん) ・保「Hちゃんが何がおもしろかったか教えてくれるだって」 ・「玉入れ」(Hちゃん)、「Aも！」(Aちゃん)、「Mも玉入れ」(Mちゃん) ・保「他に何か楽しかったことあったかな？」 ・「あのねー」手で筒を作り覗く(A2ちゃん) ・「Yね、ピョンって跳ぶの楽しかった」(Y2くん) ・「滑り台みたいなのがポーンポーンってなっとった」(Jくん) ・「コチコチカッチン」(Aちゃん)、「カチコチだよ」(Y2くん) ・「Jさぁーピアノみたいなやつ」(Jくん) ・「なんか動いとった、剣玉みたいだった」(Yくん) ・「カエルも！カエルさんピョンピョン」(Tくん) カエルの言葉を聞いてみんな跳ぶ。 ・「カエルさん！」(Mちゃん)「バッタさんもピョンって跳んだ」(Jくん) ・「人形がピョンってなって痛ててて」(Y2くん) ・「痛たたーって言ってたねー」(Aちゃん) ・「お風呂にねー(入る真似)」(Yくん)「シャワーやらんといかんもんねー」(Aちゃん) ・保育者が実際に紙を丸めてみると、「望遠鏡みたい」と、静かになり興味深く見る。 ・保育者が筒を跳ばすと「わ！」「跳んだ！」「すごい！」と驚き喜んで歓声を上げ、みんなも筒のようにピョンピョンと跳ぶことを楽しむ。 ・大小どちらかの筒を選び好きな絵を描くと、何度も指ではじいて筒が跳ぶのを楽しむ。 ・床や机、壁などいろいろな所で跳ばしてみようとする。 ・草の枠の中に入れようと何度も挑戦し、入ると喜び保育者に見てもらおうとする。 ・うまく跳ばない子(特に大きい筒を選んだ子)は「跳ばない」と保育者に訴える。

【考察】

前回の子どもの様子をふまえ、今回は少し日をおいてのテレビ視聴をした。また視聴する前に、みんなで視聴中のマナーなども話し合うようにした。そのため、初回のような新鮮な気持ちで集中して見る事ができた。

視聴中は、わくわくさんとゴロリのやり取りに一喜一憂し、一人の子が反応すると周りのみんなも同じことをしたりと、みんなで共感することが嬉しくて仕方がない様子だった。場面によっては全員の子がみんな顔を見合わせ大爆笑する事もあり、今回初めて一体感を感じた。またいつもはボーとただ見ているだけのような様子だったM1ちゃんM2ちゃんも、みんなの楽しそうな雰囲気巻き込まれ、みんなと一緒に楽しみたいと言う気持ちから真剣に内容を見る姿も見られた。成長を感じたと同時に、子どもたちの視聴能力が高まってきていると思った。

今回イメージ交流の時に、みんなの意見が聞けるように一人ずつ名前を呼んで言えるように進めたことで、人の意見に耳を傾けるという経験ができた。また共感したり、新たに自分の考えを深めたりする姿も見られ、イメージも広がったのではないかと思う。今後も一人ひとりの思いをしっかり受けとめ、更に交流できるようにしていきたい。イメージ交流がじっくりできたため、場所を離れたり他に興味が移る子もおらず、みんなで参加できた。

作ることへの意欲も少しずつ高まってきているが、作ることが苦手な子や、一通り作って遊ぶと満足してしまう子、すぐ飽きてしまう子への対応が今後の課題である。

3歳児（星3組）番組名『つくってあそび』

クラス人数 21名（男児12名、女児9名） 保育者：林 よね 岡田真由美

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 新入児のため集団生活になじめず、情緒不安になり泣けてしまう子もいるが、好きな場所やあそびを見つけて活動する子もいる。
- ・ 絵本や紙芝居を見ているとすぐに場所を離れたりして落ち着かない様子の子が多い。

【ねらい】

- （保育全体）・好きなあそびを楽しんだり生活しながら友だちとの関わりを深めていく。
- （視聴活動）・友だちとの視聴を楽しみ、視聴を通して作ったもので遊ぶことのおもしろさを味わう。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が傍に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月23日「しんぶんし」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ テレビを友だちと一緒に見るという環境に慣れていないことから自己主張する子も出てきて、その子に感化され集中して見ている子も落ち着きがなくなりました。 ☆ 園生活に不安を感じて泣けてしまう子がいることで、他児もテレビに集中できない場面もあった。 ★ 不安を感じている子は保育者のそばで安心して視聴できるようにする。 ★ 子どもたちの作って欲しいという気持ちにこたえながら、保育者と一緒に作っていく。 <p>【6月2日「ねんどのおだんご」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 「あ！この前見たのだ」「見た！見た！」「わくわくさんだ」と前回よりも登場人物に親近感が持てた。しかし、わくわくさんが作っているものを興味深く見ていた。活動になると粘土には関心を持ち楽しく遊ぶことができたが、番組の中での作品には自分から作ろうという気持ちはもてないようだった。 ★ わくわくさん、ゴロリのペープサートを設定する。 <p>【6月9日「おもしろいかたち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ テーマソングを口ずさんだり、視聴を真剣に見たいという気持ちから「聞こえん」「シー」という言葉が子どもたちから出てきていた。 ★ 子どもたちと視聴中の態度についての話し合いの場を設ける。 ☆ 番組からの影響で作りたいという気持ちが強くなってきたが、自分で作る自信が持てず、保育者に「つくれん！」と訴えてくる子もいる。 <p>【6月14日「かみざら」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 楽しみにしている反面毎週見ていることで子どもたちに慣れがでてきて視聴中、自己主張的な言葉が出てきたりして集中して見られない子が多かった。 ★ 子どもたちの様子を見ながら時間を空けて見る。 ★ 子どもたちが作りやすいように事前に材料を準備しておく。 <p>【7月1日「つつでジャンプ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 2週間視聴を空けたことで新鮮さが持てたため、視聴への高まりを感じる事ができた。嬉しさのあまり手をドンドンと動かしたり、膝をたたいて喜んだり「やった！」と手をあげて勝ったことを喜び一体感をもって視聴する姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 園生活にも慣れてきて自分の思いを保育者に伝えてきたり、周りのことに興味を示したりする子もいる反面、まだ登降園時に不安で泣けてしまったり、日中情緒が不安定になる子もいる。 ★ 子どもの不安が解消できるようにスキンシップを心がけたり、遊びに誘ったりして一人ひとりを温かく受け入れていく。 ☆ わくわくさんやゴロリのペープサートを用いたことで、普段の保育の中でも部屋に飾ってあるペープサートを見ながら、「今日わくわくさん見る？」と、番組を楽しみにしている様子が見られる。 ★ 子どもたちの目につく場所にわくわくさんやゴロリのペープサートを置き、親しみもてるようにと環境づくりをする。 ☆ 集団生活に慣れてきて、身のまわりのことや、園での決まりが守れるようになってきた。 ☆ 友だちを少しずつ意識し始め、誘い合って遊ぶ姿が見られるようになった。 ★ 保育者も一緒に遊びの中に入りながら友だちの様子に気づいたり、友だちと一緒に遊ぶ楽しさが味わえるよう援助する。 ☆ あそびが活発になり、時には危険なあそびに発展してしまい注意を必要とする場面も出てくる。 ☆ 当番活動が始まり自分から進んでお手伝いをするようになる。 ★ やってみたいという気持ちを受けとめ、みんなの中で自分の力が発揮できるよう進めていくと共に手伝ってくれたことで助かったことを感じ、より一層のやる気ももてるようにしていく。

視聴活動	保育全体
<p>「ゲームスタート！」では応援したい気持ちを体で表現して肩をゆらしながら視聴する子もいた。</p> <p>☆ イメージ交流で「池に入っとったやつがいい」「たぬきがポンポンやっとったのがいい」など自分の思いを相手に伝えることができるようになってきた。</p> <p>☆ 女儿の中には誘い合いながら座り、視聴を楽しむ姿が見られるようになってきた。視聴後→「なんでまだやっとのに終わる～？」と残念そうに言うと隣の子が「わくわくさんもお片づけしちゃうんだよね。」とつぶやく。</p> <p>★ 好きな友だちと誘い合って視聴できる環境を設ける。</p> <p>【7月19日「えのくあそび」】</p> <p>☆ 隣の子と顔を見合わせたりしながら、共感する場面が多く見られるようになってきた。</p> <p>☆ 集団で視聴することにも慣れてきて、数人の集中できにくい子にも動じずに視聴することができた。</p> <p>☆ 活動を戸外でやったことで大胆なあそびが持て、積極的に友だちと遊ぶことができた。</p> <p>★ 規制をなるべく減らし、戸外で大胆に遊べるようにする。</p> <p>【8月2日「うかべてあそぼ」】</p> <p>☆ わくわくさんの作っているものにとっても興味を示し、身を乗り出して画面に集中する姿が見られる。</p> <p>☆ わくわくさん対ゴロリの勝負している姿に、ワクワクしながら一体感を持って視聴していた。</p> <p>☆ 「わくわくさん負けるよ！」「ゴロリ勝った！」「違っよ！」「ゴロリ2個勝った！」と勝負を楽しんでいる姿や「わくわくさん負けちゃったね。」と残念そうにつぶやく姿も見られる。</p> <p>☆ 保育者からの受け入れだけでなく自分たちも進んで活動の準備に取り組んでいくようになった。</p>	<p>☆ 作って遊ぶ時には「わくわくさんみだいなね～」という言葉も出てきて作ることに、より一層興味関心を持って取り組めた。</p> <p>☆ 友だち同士誘い合いながら遊ぶ場面がよく出てくるようになった。</p> <p>☆ 会話の少なかった、KくんとRくんも自分から保育者と会話をとるようになってきた。</p> <p>★ 自分の思いや気づいたこと、知っていることを話そうとする姿を受けとめ、話したい気持ちを大切にしていける。</p> <p>☆ プールあそび始まり、衣服の着脱ができない子も友だちを意識することで、家で着脱の練習をする姿も見られるようになった。</p> <p>★ できない所は手伝いながらやり方を知らせ、励ましていく。</p> <p>☆ 困っている子がいれば、心配してそばに寄り添ってきたり、仕度や片付けも友だち同士協力しあう場面も出て、クラスへの高まりが持てるようになってきた。</p> <p>★ 友だち同士で遊んでいる姿を認め、必要に応じて保育者も仲間に入り一緒に遊ぶことの楽しさが味わえるようにする。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

わくわくさんやゴロリのペープサートを用いて普段のあそびや視聴に取り入れたことで、登場人物に親しみが持てるようになり、同時に視聴することの楽しさ（見る）を味わえるようになってきた。始めの頃は保育者と子どもとの一対一の関係だったのが、視聴を重ねていくうちに子ども同士で共感したり、思いを出し合う姿が見られ、好きな友だちと一緒に視聴したいという思いをもち「一緒に見ようね」「こっち、こっちおいで！」と誘い合う場面や、視聴中友だち同士で嬉しそうに顔を見合わせたり、一緒に腕を組んで共感し合っている姿も見られるようになってきた。普段から会話の少なかった子も、イメージ交流で思いを伝える経験を大切にできたことで、自分から保育者に思いを伝えにくるようになってきた。自分に自信が持てなかった子ども園での行事、視聴活動、日々の経験からの積み重ねなどによって、自信が持てるようになってきている。

事後活動では「つくりたい！」という思いはあるが、わくわくさんやゴロリのように作れないというはがゆい思いがあったようだ。保育者が作りやすいよう材料に手を加えたものを事前に用意することで、子どもたちにも負担なく取り組むことができ「できん！」「つくれん！」と不安になる子はいなくなり、3歳児なりに作って遊ぶ楽しさが味わえるようになってきた。また、「つくってあそぼ」の影響は園の中だけでなく家庭にもでて、家で廃材を使って作っているという子もいて、「つくる」ことへの興味・関心が高まってきている。

課題としては、今後さらにイメージ交流を通して人の話を聞く態度を身につけ、いろいろな思いのあることに気づき、事後活動にも友だちと一緒にイメージを膨らませながら取り組んでいけるようにしていきたい。

視 聴 記 録

平成17年 7月 19日 (火) 9:30		3歳児 星3組 21名	
【番組名】 つくってあそぼ「えのぐあそび」		保 育 者	林 よね 岡田真由美
【ねらい】 ・自分の思ったことを、周りの子や保育者に伝えようとする。 ・やってみたいと思ったことが自分でもできるという喜びを味わう。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくさん、ゴロリ登場 (絵描きの格好) ・絵の展覧会で一つひとつ紹介していく ・わくわくさん、ゴロリ絵をジッと見る ・「えのぐあそび」 ・洗濯のりを入れ緑赤黄を入れて紙をゴシゴシ擦り開く ・えのぐの神様登場し、出てくる動物に模様をつけていく ・えのぐ生け花教室で、わくわくさん・ゴロリ“垂ら 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくさんの服装に「変な格好～」 「何やっとなのかねえ」とこれから始まる内容に期待し、近くの子と顔を見合わせたりして笑う。 ・始めは「何だこれ」と不思議そうにしているが、段々とそれぞれ自分の見えるものにつぶやき始める子が出てくる。 ・ざわついていたのが、画面の動きと共に集中して見るようになる。 ・「あ！うさぎだ！」 「魚！」 「しか！」 と登場するものをつぶやいたり、中には何の絵に見えるかつぶやく子もいる。 ・「絵の具混ぜちゃったよ」と不安そうにしたり何が起こるか楽しみに見ていたり時々つぶやきがあるものの集中して見ている。 ・「何だこれ～」と驚いたり、「きれ～い！」とつぶやき、周りの子と顔を見合わせ笑う。 ・えのぐの神様の登場に笑いだす。 ・模様をつけ始めると「きり～ん」「しまま～」と言う子が出てくるが、最後のパンダは完成するまでの間に「白くま」「タヌキ」と言い合いになる。 ・しばらく集中して見ているが、垂れていく様子に「血みた～い」「おぼけみた～い」と反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマソングで気持ちがたかぶっていたが、わくわくさんゴロリの登場で全員画面に集中し、くぎづけ。 ・Rくんがその場の雰囲気や足音をトントンさせるが自分でいけないと気づき再び画面に目をやる。 ・ジ～っとこのところで少し体を前にやり画面を見る。(Aちゃん・Sくん・Rくん・Sちゃん) ・「お魚～」(Gくん) と隣のHちゃんに言うが、真剣に見ている為Gくんの声が耳に入らない。テレビと一体化し、自分達も画面から出てくる絵を見て想像している様子。 ・R2くんが隣のYくんに共感を求めるがYくんには反応はない。 ・軽快な音楽が鳴り出すとAちゃんが手を叩いてリズムをとる。それを見たMちゃんも一緒にリズムをとる。Aちゃんを意識している様子が伺われる。 ・「うさぎ～」とRくんがピョンピョンと体を動かし表現する。 ・SくんがA2ちゃんに干渉するが、A2ちゃんは動じず今度は隣のRくんに手をだす。「やめて！」と(Rくん) 怒る。Sくんが再び挑発。他児は二人のトラブルにも関心を示さないほど画面に集中。 ・A2ちゃんが嬉しそうに笑い出す。わくわくさんのやっているのを真似して手でゴシゴシ動かしている。 ・「きりんさ～ん」嬉しそうに言う。(Rりょうえい) ・みんな画面にのびのびするように見る。笑顔は出るが、体はピクリとも動かず真剣に見ている。 ・出来上がった絵に、Aちゃん・Gくん・Mちゃんが拍手。 ・2回目の時、M2ちゃんが拍手しようとして周りの子を見るが誰もしてないのに気づきハッとやめる。次の時、Rくんが拍手しているのを見て安心したように小さく拍 	

し”“吹き”絵の 花をつくる。 ・エンディング	・倒れるわくわくさんを見て笑い出す。 ・「終わった」と言う子もいれば、しばらくわくわくさん達の作っているのを見ている子もいる。	手し笑顔になる。 ・「先生、これ俺知りたい」(Gくん) ・「何でまだやっとなるのにおわる〜?!」(S2くん) ・「わくわくさんもお片づけしちゃうだね」と保育者に伝える。(Kくん)
-------------------------------	--	--

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくさん、お花つくった〜」「紙丸めてた〜」とやっていたことを口々にする。 ・「わくわくさんみたいにやりた〜い」と数人が言うと周りの子達も言い始め、具体的に何をつくりたいのかを自分の場所で伝えようとする子もいるが、声が届かないことに気づき保育者の所にきて伝えようとする。 ・視聴中は画面に引き込まれていたが、終わったことで集中力が途切れ、友達と遊び始める子が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「えのぐ・・・」(A2ちゃん)の言葉に「えのぐのやつがいい〜」(S3くん)と絵の具に興味があるよう。 ・みんな席を離れ、自分の思いを言いにくるが、中には「マジレンジャー！」(Sくん)と言い始めその言葉に(R2くん)がのってきて視聴とは関係ない言葉が出てくる。 →絵の具のいろんな色(赤・黄・緑・・・)の登場にマジレンジャーの色と被らせたのかもしれない。 ・席につき、ひとりずつ思いを伝えることを言う。 ・「えのぐ！」(Mちゃん)とみんな絵の具を使っていたことが印象的で、具体的にこうしたいという思いが言葉で出せない。 →ひとりずつ丁寧に子どもたちからの言葉を聞き、保育者も、思いを受け止めながら言葉を補い思いを伝えていけるようにする。 ・まだ、思いを伝えられない子もいるが、中には友だちの言っていることを笑顔で共感している子もいる。 ・「わくわくさんみたいにやる〜」(Aちゃん・S3くん・Gくん)と言って、紙に絵の具を塗り始めゴシゴシする子もいれば、紙にただ塗っていく子(Mちゃん・Rくん)もいる。 ・「マジグリ〜ン」(Sくん)と体に塗ってイメージが変わっていく子もいる。

【考察】

回を重ねるごとに視聴への期待が感じられ、今回も視聴の高まりから、近くの友だちと顔を見合わせて笑ったり、「おもしろいね〜」「わくわくさんすごいね〜」と話をしたり、また画面に集中するという姿が感じられた。

ただ笑ったりする場面で、Sくんが興奮のあまりふざけてRくんに干渉し2人とも集中して見られなくなってしまった。Rくんに関わりたいというSくんの思いも満たしながら、Rくんがテレビをよく見られなくなってしまったことを伝えていく。他児はそんな2人のトラブルに関心を示さないほど画面に集中していた。

絵の具を園庭でやることによって、子ども達は広い場所で思い思いの表現ができていたように感じられた。画面で見たわくわくさんみたいにやろうと、ストローを持ってきたもののどうやったら吹き絵ができるのか友達と話している姿もあった。中には体にえのぐを塗り“マジレンジャー”とテレビの中では取り上げられてないものへと発展してしてした子もいたが、いろんな色を混ぜることで「こんな色ができるんだ〜」と発見したり、垂れてくる絵の具をおもしろそうに見たりと、活動を楽しむことができた。

4歳児（花1組）番組名『しぜんとあそぼ』

クラス人数 34名（男児19名、女児15名） 保育者：安藤 操 富田千恵子

【年度当初の子どもの様子】

- ・ とにかく個性的で元気な子が多いが、好きなあそびには積極的なものの、片付けはやらずにすませようと、話がなかなか聞けない様子も見られた。友だちと遊ぶことは大好きで、自分のチームを応援し、ルールを守って大いに盛り上がる。言葉で説明して納得すれば、意欲的にやろうとする姿が見られた。

【ねらい】

- （保育全体）・ 保育者や友だちとの安定した関係の中で、つながりを深め、一緒に活動することを楽しむ。
 - ・ 自分でできることを広げながら、生活に必要な習慣や態度を身につけ、少しずつ自分でえて行動できるようになる。
- （視聴活動）・ 友だちや保育者と心を通わせながら、テレビ視聴を楽しむ。
 - ・ 視聴を通して身近な生き物に関心を持ち、その不思議さや面白さを感じ、命を大切にすることを学ぶ。

【活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が側に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月25日「にわとり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 花組になって初めての視聴に期待が大きく、少し前に「今度の水曜日、生き物のテレビ見るよ」と伝えたと、その日がくるのを楽しみにしている。 ☆ どんな生き物が出てくるのか、期待大で画面に見入っており、にわとりが出てくると歓声が上がります。特に雛が殻を割って出てくる場面では、祈るような視線でじっと見入り、友だち同士で雛を励ます姿が印象的であった。 ★ 子どもが伝えてきた思いに対しては、共感や保育者なりの思いを他児の視聴の妨げにならない程度に伝えていく。特に雛が産まれるところでは、子どもたちと一緒に励ましや感動の気持ちを、表情や仕草で表していく。 <p>～視聴後のイメージ交流～</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴中ほどは子どもの思いが言葉に出ないが、保育者の言葉で思い出し、「～がいた」「～しとった」と話し出す姿も見られた。 ★ 母鶏が一生懸命卵を産み、大切に温め、雛が産まれる感動を感じてほしくて、保育者の思いも伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 食事の支度や片付け、活動などの要る物の支度や片付けは、当番やグループ係を中心に自分たちでできるようになる。 ★ 活動の前に「今から絵を描くけれど何がいるかな？」等、言葉をかけ、自分たちで考えて行動できるようにしていく。また、自分たちでやろうとしている時には、時間がかかってもなるべく見守り、自分たちでやれたという満足感や充実感を味わえるようにする。 ☆ 園庭でだんご虫を探したり、園で飼育している亀やザリガニ、ウサギ、年長児がもってきた小動物に見入ったりして、生き物に興味、関心が深まっている。 ★ 見つけたり触ったりすることを楽しんでいるが、遊び終わると放置することもあるので、「〇〇ちゃんもお家に帰れないと悲しいよね。だんご虫もお家に帰してあげようね」と話し、生き物は玩具ではなく、みんなと同じ命があるので、大切にすることを伝えていく。
<p>【6月2日「みつばち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 前回の「にわとり」よりくつろいで見ていたが、つぶやきの声が大きすぎる子や、姿勢が悪くなる子もいた。騒々しくなると「静かにして」「うるさい」と注意する子もいる中で、「すげー、いっぱいおる」「巣、つくっとるだよ」「餌あげとるだよ」と言葉が自然に出て、友だちとも共感や違う思いをやりとりし合う姿が見られた。 ★ 一人ひとりの思いも受けとめつつ、静かに視聴している子の迷惑になるので大きな声を出さないことを伝える。 <p>～視聴後のイメージ交流～</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴中のリラックスムードで、立ち上がったたり、寝転がったりする。保育者の「みつばち、いっぱいいたね」の言葉に「大きい蜂（女王）もいた」「巣作ってた」の思いも聞かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 友だちが困っていると声をかけて助けてあげたり、保育者に伝えたり、友だちを気づかい思いやる気持ちが伝わってくる。ただ、時にはやりすぎて、トラブルの原因になってしまうこともある。 ★ 子どもの優しい気持ちは大切に受けとめ、「〇〇ちゃん、助けてくれてありがとう。優しいね」と、感謝の気持ちを言葉で伝える。また、トラブルになったときには、思いやりの気持ちからの行為であることを伝え、両方の思いを伝え合えるよう保育者が仲立ちになっていく。
<p>【6月21日「とのさまバッタ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 集中する場面と、気が緩みくつろいで見る場面と変化が見られる。 ☆ かまきりの登場で、画面に集中する「あっ、かまきりに食べられる。」「食べられんよ。」と祈る気持ちで見ている。 ☆ 友だちと同じ思いはもちろん、違う思いも言い合う。「またうち」「違うよ、卵産んどるだよ。」～産む場面～「ほら、卵だよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 気の合う友だちが登園するのを待って、あそびに誘っている。ブロックあそびでは、友だちの刺激を受け同じ物を作ったり、基地等の大掛かりな物を協力し合って合体した物を作ったりしている。お絵描きでは、友だちと描いている絵で盛り上がり、気に入った絵は真似し合っている。

視聴活動	保育全体
<p>～事後活動～</p> <p>★ 『先生、大西公園でバッタ見たよ』『見たい』『じゃあ、探しに行こうか』『うん』</p> <p>☆ 公園ではバッタを夢中に探し、かわいいショウリョウバッタを数匹捕まえる。次の日脱皮したのを見ると「テレビと同じだね」と、友だちと喜び合っていた。</p> <p>★ 「ばった、脱皮して大きくなるね」と、共に喜び合う。</p> <p>【6月29日「かたつむり」】</p> <p>☆ かたつむりがどこへでも落ちずの上って行くことに驚きや感動を感じている。「すげー、何でくっ付く?」「落ちんよね」「うん、落ちんよね」「人間なら落ちるよね」「スパイダーマンも落ちん」</p> <p>★ 子どもの感動や純粋な疑問を受けとめ、共に考えていく。</p> <p>～イメージ交流・事後活動～</p> <p>☆ 視聴で高まった思いを一言に伝えようとする。★視聴中の感動を共有したくて子どもに思いを聞いてみる。『Rくん、みんながかたつむり落ちんのかねって言ってたね』(R: 恥ずかしがる。A: 話したそう)『Aちゃん、何?』『かえる、見たことある』</p> <p>☆ 絵や粘土で、映像からふくらめたかたつむりを自分のイメージで表現している。(絵はカラフルなかたつむりが多く、印象に残った親子のかたつむりを描いたり作ったりしていた。)</p> <p>【7月20日「もりあおがえる」】</p> <p>☆ 感動を、友だちや保育者と分かち合おうとする。「何か見つけたよ(TV)」→「何かいるよ」「うん(興味深そうなすく)」「何をやるのかね」と隣の子と話をしたり、保育者の顔を見たりして、自分と同じわくわくした気持ちを感じると嬉しそうに再び画面に入る。</p> <p>★ 保育者自身が好きな蛙だったこともあり、童心に帰って子どもたちと一緒に視聴を楽しむことができ、驚き・発見・感動も大きかった。そのみんなと同じ気持ちを素直に伝えていく</p> <p>～イメージ交流～</p> <p>☆ 卵を産んでいる場面を話す子が多かった。「卵産んだよね」「うん、卵産んどった」「おたまじゃくしかわかった」</p> <p>★ 『お母さん蛙が一生懸命卵を産んでいた時K君「卵産むのつらいよね」って言うんですけど、みんなはどう思う?』→「すごかった」「がんばった」「大変だったね」等と母蛙を思いやる言葉がでる。</p> <p>【9月1日「かいつぶり」】</p> <p>☆ 巣作りの場面で盛り上がる。「草食べとるのかね」「沢山、草持つとる」「何してるのかね」「巣にくっ付けてるよ」「お家作ってる」</p> <p>☆ かいつぶりに捕まった魚を心配している。「あ、落ちちゃった、頑張れ」「捕まえた」「逃げた」場面が変わってから「魚、どうなったかね」と再び心配します。</p> <p>～事後活動～</p> <p>☆ 視聴後に「かいつぶりの仲間を探そう」と図鑑を見ていたJくんが、よく似た水鳥を探し、「ここが紅ければ、かいつぶりと一緒にだね」と嬉しそうに話す。それを見て、他児も仲間を探します。</p> <p>★ 保育者も図鑑を見て探してみる。鳥が魚を取るページではTVで見た魚を心配するので、「大丈夫、きっと逃げたよ」と答える。</p>	<p>☆ 遊具の貸し借りや意見の相違からの衝突も見られ、保育者に助けを求めることが多い。</p> <p>★ 本当に貸して欲しかったらもう一度頼むよう助言し、様子を見守る。何度か頼むうちには貸してあげているようだ。あきらめず自分で何とかしようとする心の強さを育てていきたい。</p> <p>☆ 子どもたちに守ってもらいたい約束やルールを伝えるときに、何故そうしなければならないのか理由を話すことで、守ろうとする気持ちが強くなる。また、そのことに対して自分なりの思いを、みんなの前で少しずつ話せるようになり、子どもたちの素直さや純粋さ、言葉の理解力の深まりを感じる。</p> <p>☆ 年長児が園外保育に出かけて不在の時に、年長児の代わりに、昼寝の“布団当番”を張りきって行く。憧れの年長児になった気分で、下の階で午睡している年少児を気遣いながら、布団を運んでいる。</p> <p>★ 「月さん(年長)みたいに頑張って布団当番ができたよ」と、みんなに紹介する。今後いろいろな場面で子どもたちのやる気を引き出していく。</p> <p>☆ 戸外では、落ちている葉っぱや草をうさぎにあげたり、頭や体をなせ「かわいいね」「ふわふわだよ」と感触を楽しんだり、触れ合っている</p> <p>★ 子どもたちに、にんじんやキャベツを分け、うさぎにあげるよう勧め、保育者も一緒にふれあい、子どもたちの思いに寄り添っていく。</p> <p>☆ なかよし保育では、前回遊んで楽しかったコーナーを選んだり、気の合った友だちと相談してあそびを決め、思い思いに楽しんでいる。あそびを変えるときも話し合うが、思いが違うときは、別々に遊ぶこともある。兄弟やその友だち、近所の異年齢児と遊ぶ姿も見られる。</p> <p>★ どの年齢の子も楽しめるように、各コーナーの担当者は、内容や設定を工夫する。異年齢児同士の交流が深まるよう、年上の子は年下の子の世話をし、ふれあう機会をもつようにする。</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

生き物の生態や体のつくりを細部まで見せてくれる“しぜんとあそぼ”は、子どもたちも大好きで、驚きや発見も多く、毎回興味深く楽しみながら視聴している。毎回見られる“産卵”“ふ化”や、弱い生き物が強い生き物に狙われたりする場面では、励ましたり、労わる言葉も聞かれ、視聴を通して命の尊さを感じたり、生き物を思いやる優しい気持ちが育まれていると思われる。また、当初は一方的な言葉が多かったが、回を重ねる度に友だちの思いを受けとめ、同じ思いや違う思いを伝え合うようになる。視聴後のイメージ交流では、視聴中ほど思いが表出されなくても、事後活動で描いたり作ったりした物や、その過程での言葉の中に、子どもたちの思いやイメージがふくらんでいることを感じる。今後も一人ひとりの思いを大切にしながら、いろいろな表現方法で思いを表出できるようにしていきたい。

視 聴 記 録

平成17年 6月 29日 (水) 10:00		4歳児 花1組 35名	
【番組名】しぜんとあそぼ 「かたつむり」		保育者	安藤 操 富田千恵子
【ねらい】・身近にいるカタツムリの不思議さ面白さにふれ興味関心を深め、生命の大切さを感じる。 ・一人ひとりの視聴スタイルで友達と一緒に視聴することを楽しむ。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・オープニング アジサイと かたつむり ・「みんなは見た ことあるかな」 ・カタツムリの 顔のアップ ・殻の中に入った かたつむり ・動き出す ・かたつむりの目 ・「短い角も 動いているよ」 ・かたつむり 高所に登る ・かたつむりの口 (舌を食べている) ・「あれ、何か出て きたよ」うんち ・木漏れ日(夏) 葉っぱにかたつ むり ・「何して いるのかな？」 ・蛙の鳴き声 ・かたつむりと だんごむし ・アジサイと 赤ちゃん ・赤ちゃん葉を渡る ・エンディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あっ、かたつむり」「動いとる」 じっと見入る。 ・「ある」「見たことある」「家におつ た」友達同士言い合う。 ・「おおきいねー」「すごいね」 ・「かたつむりおらんよ」「中に入っ ているだよ」 ・「本当だ、動いとるね」 ・「登るとる」「落ちるよ」 「落ちんよ」 ・「口だって」「何か食べとるだよ」 口の動きを興味深く見ている。 ・不思議そうに見入る。 ・しばらくして「うんち、うんちだ って」「汚い」「いっぱい出とる」 「うんち食べとる?」「汚いよね」 騒々しくなる。 ・場面が変わり再び見入る。 ・「葉っぱ食べとる」「落ちちゃう」 「落ちんよ」「隠れとる」「くっつ いとる」 ・「かたつむり白いよ」「光とる」 ・「あっだんごむし、見たことある」 園庭や家で見つけただんごむし を思い出している。 ・「また来たよ」口々に言う。「かた つむりの赤ちゃんだって」「光っ ているよ」「伸びとる、首長い」「す げー、行っちゃった」「終わったー」 「また見たい」気が緩み姿勢が崩 れ、騒々しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃん」「赤ちゃん」口々に言う。「赤ちゃんじゃないよ」 (Rくん)「あっお父さん」「アジサイだ」 ・徐々に静かになり、見入る。 ・「あるー」「見たことあるよ、雨降ったときに見た」「うん、 見た」口々に言い騒々しくなる。 ・「お家だ」「お休み中だよ」(Jくん)画面を指差しKくんに 話しかけ、うなずき笑い合う。「ほら出てきた」 ・「動いた、すげー」「出てきた」画面に集中する。 ・「角、ちっちゃい」「だって子どもだもん」「子どもじゃない」 「子どもだし、絶対に」真剣に見入る。 ・「すげー、何でくっつく?」感動している。 ・「あっ、うんこだ」「うんこじゃない」「うんこだよ、本当に」 友達の肩をたたき説得する。 ・「落ちんよね」「うん、落ちんよね、これ」「人間なら落ちる けどね」(K2くん)「スパイダーマンも落ちんよ」 ・「あっ、口開いとる」「泡、泡出しとる」(J2くん)「なめと る」「ねえねえ、口触るとなめるに」「汚くなるに」「体触 るとがぶって食べられる」Kくん、Jくん、K2くん、3人で 盛り上がる。 ・「あっ、うんちうんち」口々に言い騒がしくなる。「気持ち悪 い」「ねえねえ長ーい」「なげー」 ・「うんち忘れてっちゃった」「いかんよね」(K3くん、K2く ん)「行っちゃった」「臭いじゃんねえ」 ・「あっ、おった」「あっ落ちる」「落ちんよ」「へばりついとる」 ・「葉っぱ食べとるだよ」「あっ出てきた」「あっ、隠れた」「お 家だよ、これがお家」「違うよ、お家は殻だよ」 ・「蛙、蛙の鳴き声」「牛蛙だよ、これ」「牛蛙はモーモーだよ」 思い出しながら友達と思いを伝え合う。 ・「あっ かたつむり」「やったー!」「きれい」「蛙に見つかつ ちゃうよ」「見つかったら食べられるよ」「朝よりきれい」「星 で光とるだよ」感動している。 ・「赤ちゃんだ、かわいいー」「落ちちゃうよ。あれ、落ちん」 「伸びとる。すげー、葉っぱ渡った」 ・「赤ちゃん追いかけとる」「食べられちゃうよ」 	

視聴後のイメージ交流・活動	
予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・視聴後、気が緩み、姿勢が崩れる子もいる。 ・保育者の言葉がけに、視聴中の感動を言葉で伝えようとする。 ・友達や保育者の言葉に耳を傾け、心の中でイメージを膨らめている子もいる。 ・身近に親しんでいるだんごむしの話に盛り上がる。 ・保育者の言葉がけで視聴中の感動が鮮明になり、再び思いを伝え出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に印象に残ったことを話し出す。 「うんちした」「うんち、うんち」「だんごむし出てきた」 ・保「だんごむしとかたつむり仲良しなんだ」 子「そう」 ・保「だから一緒に遊んだんだ」 子「ぶつかった、だんごむしとかたつむり」 ・保「るかくとお姉さんたちが、かたつむり落ちんのかねって行ってたよね」 子「かたつむり、へばり付いている」「ね、ね、お父さん、落ちんよね」 ・イメージをふくらめている子の妨げにならない様に保育者の思いも伝えてみる。 保「すごいよね、よいっしょって」登る真似をする。 子「人間だって登れるよ」「登ったら落ちるじゃん」 ・保「人間も登れるの？」 子「登ったことあるもん、公園で」(Aちゃん) 話したそう。 保「あやねちゃん、何？」 子「蛙、見たことある」「見たことある」口々に、蛙の話題になる。 ・保「かたつむりの口、見た？」 子「うん、見た」「見た、見た」 ・保「すごいよね、伸びたり、縮んだり」口を開閉してかたつむりの表現を楽しむ。 ・保「テレビを見ていたら・・・」クレヨンでかたつむりを描いてみる。 ・映像で観たかたつむりを思い出し、口々に伝えようとする ・保育者が描く絵に見入っている ・保「今度は・・・」粘土でかたつむりを作る。 ・保育者が作るかたつむりに見入っている。「すげー、かたつむりだ」「上手」 ・保「かたつむりのテレビ見たら、こんなに楽しくできちゃった。みんなもやってみる」 子「やりたーい」「やるやる」「わたし、粘土」 ～ 粘土は机で、絵は床でそれぞれ準備をして始める。～ [絵] <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんと赤ちゃんかたつむりの印象が強いようで、仲良く画面に描く。 ・映像からイメージがふくらみ、色とりどりの個性的なかたつむりになる。 ・友だちの絵を真似したり、保育者に見せたり、絵の話をする。 「お母さんと赤ちゃん、仲良しじゃんね」「かたつむり光ってきれい」 ・描いた絵を紹介し合ってから展示することで、普段、絵を見てかたつむりの視聴の話をしている。 [粘土] <ul style="list-style-type: none"> ・視聴のイメージをふくらませ、立体的、平面的と思いつきのかたつむりを作る。 ・印象の深かった親子のかたつむりや、だんごむしをも作っている。 ・友だちに刺激を受け工夫したり、同じ粘土板に共同で作ったりしている。 ・コーナーに飾り、見て共感し合う。
<p>【考 察】</p> <p>視聴中のつぶやきも、友だちとのやり取りを通して、ますますイメージがふくらんでいる。ただ、思いが違う子に対して自分の思いを押し付けようとする子もいるので、違う思いにも気づいたり受け入れることでさらにイメージがふくらませられる楽しさを知らせたい。</p> <p>番組の後半から声が大きくなり、自己主張のつぶやきをする子(Rくん、Jくん)がいる。今回は様子を見たが、次回の視聴までにそのこと(他の子の迷惑になる。自分の思いを言ったら終わりではなく、友達の話も聞く。)について話し合い、視聴前にもう一度確認し合う。</p> <p>今回、保育者自身、イメージ交流で子どもたちの思いをふくらめることができなかつた気がしていた。しかし、事後活動では細部まで描いたり、友だちや保育者に思いを伝えながら描いたり作ったりする姿を見ると、イメージは子どもたちの心の中でふくらんでいたことを実感する。</p> <p>描いた絵は“つくってあそぼ”のコーナーに、粘土は机に置いてみんなで見る。「あっ、赤ちゃんかたつむり(お母さんを)追いかけてる」「葉っぱに隠れとった」等、作品を通して映像を思い出し、そこでイメージ交流が始まっていた。視聴直後に言葉で思いを表出できなくても、視聴や事後活動を通して子どもたちの心の中には思いが溜め込まれ、イメージがふくらんでいることを感じる。</p>	

4歳児（花2組）番組名『しぜんとあそぼ』

クラス人数 34名（男児20名、女児14名） 保育者：下出友美 城所美幸

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 一つ大きくなったという自信からいろんなことに挑戦し、自分でやってみようとする。
- ・ 仲の良かった子とクラスが離れたこともあったせいか、環境の変化から精神的に不安定となり、排泄の失敗が目立つなど援助が必要な子もいる。

【ねらい】

- （保育全体）・ 保育者や友だちとの安定した関係の中で、つながりを深め、一緒に活動することを楽しむ。
- ・ 自分でできることを広げながら、生活に必要な習慣や態度を身につけ、少しずつ自分で考えて行動できるようになる。
- （視聴活動）・ 感じたことを伝え合って共感したり、自分の思いとの違いに気づいたりすることで友だちと一緒に見る楽しさを味わう。
- ・ 自分の周りにある自然と結びつけ、より深く自然と触れ合う中で、命の大切さや生きる楽しさを感じる。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやくき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が側に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【5月25日「にわとり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 初めての視聴にとても興味を示し、真剣に見入る。 ☆ 「虫食べとるー」「みみずだ」と自分の感じたことをつぶやく姿が見られるものの、発言する子はだいたい決まっている。 ☆ （たまごからひよこが生まれるシーン）「ひよこさーん！」「われた！われたー！」「やったー」と立ってガッツポーズをする子などひよこがたまごから生まれていく姿を応援し、喜び姿が見られた。 ☆ ビデオが終わると気が緩み、寝そべる姿がある。また、視聴中に感じたイメージが膨らまない。 ★ 保育者自身が感じたことを子どもたちに伝えることで子どもが思いを出しやすいうようにしていく。また、視聴のルールがある程度必要であると思われる。 <p>【6月2日「みつばち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 友だちに感化され一緒になってふざけたり落ち着きがなくなる姿が見られる。 ★ 座る場所に配慮を要すると共に、気が緩んでしまう子には一生懸命見ている子もいることを伝える。 ☆ 「（女王蜂がご飯を食べるシーン）「おれだって食べたい」「だめだよ！あれは虫のやつ！」等、言葉のやりとりが聞かれる。 ☆ 蜂のぶんぶんという音に合わせて、手をバタバタさせ飛ぶ真似をする。 ☆ 言葉は発しないが、保育者や周りの子の話を静かに聞いている子がいる。 <p>【6月21日「とのさまばった」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 身近な生き物であることからか、とても興味を示して見ている。 ☆ 「こいつ捕まえちゃダメ？」「ダメだよ、捕まえちゃ」「いいだよ」「ダメだし」と友だちとのつぶやく合いが盛んに行われる。 ☆ 「ねえ！ねえ！」「うるさい！」と周りの子を静かにさせて、自分の思いを保育者や友だちに伝えようとする子が見られる。 ★ 一人ひとりの思いをしっかりと受け入れていく。 ☆ 近くの公園にバッタを探しにいき、ショウリョウバッタを捕まえ、保育園で観察をする。 ★ イメージを活動までにはまだ膨らますことが難しいので保育者から公園に行くことを子どもたちに提案してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ だんご虫など身近な小動物に興味を示す。 ☆ ルールのあるあそびを楽しむが、負けると悔しくて泣けてしまう子もいる。 ☆ 食事の支度や片付けなどグループ係を中心に自分でやろうと意欲を示している。 ☆ 自分でできることはなるべく自分で行えるよう働きかけていくことで「できた！」という満足感を味わい、自信につなげていけるようにする。 ☆ 朝顔の種まきを行い、成長する姿を観察すると共に「早く大きくならないかな」「たねまきちんぷい」と成長を願う姿も見られる。 <p>☆ 家からカブトムシ、トカゲ、だんご虫等を持ち寄り、「これは赤ちゃんだよ」「これは飛ぶんだよ」と友だちと会話をしながら観察することを楽しんでいる。</p> <p>★ 持ち寄った小動物を友だちや保育者と共に観察することができるよう、子どもの目が届きやすく、見やすい場所を工夫し設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の感情を表現したり、困ったときに保育者に助けを求める。 ☆ 新しいことに意欲的取り組み、やり遂げる満足感を味わっている。 ☆ 友だちと同じ物を作ったり身につけ「先生見て！私のハンカチ〇〇ちゃんと一緒だよ」「僕も一緒のやつ持っとる」と友だちと一緒にであることを喜ぶ。 ☆ 自分の思いを友だちに伝えられるようになってきたが、意見の食い違いからトラブルも起こる。 ☆ 必要に応じて保育者が間に入り、互いの思いを知らせていくことで相手の思いを知り、自分の思いとの違いに気づき、納得できるよう働きかけていく。

視聴活動	保育全体
<p>【6月28日「かたつむり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 「めだまが出た！」と隣の子の顔を覗き込み、微笑み合う。 ☆ 友だちの表情を意識する姿が見られる。 ☆ 「うんちうんち」「どながい」「うんち、きもちわるいー」と友だちの笑いに誘われて一緒に笑っている。 ☆ リラックスした様子で楽しんでいるものの、集中力に欠ける所もある。 ★ 視聴後子どものことばを受けとめながら、保育者が実際にかたつむりの絵を描いたり、粘土を作ってみる。 ☆ 「おれもやりたい！」と視聴後でもイメージが少しずつ膨らむようになり、かたつむりの絵を描いたり、粘土でかたつむりを作ることを楽しむ姿が見られる。 ☆ 「せんせい！みてー！」「こんなのできちゃった」と保育者に自分の作品を見せようとする。 <p>【7月20日「もりあおがえる」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 友だちの意見を聞き、それに対しての自分の意見を言う。 ☆ 保育者と一緒にかえるの卵になりきり体を使って、たまごから生まれる様子を真似する。 ☆ 「かえるの足だよー」「おたまじゃくしの足ってこんなに長いに」などと思い出しながら絵や、粘土を楽しんでいる。 ☆ 翌日びよんびよんカエルを作る。かえるを飛ばしながら自分もかえるになって飛ぶ真似をする姿も見られる。 ☆ 粘土も絵もやりたがり、1つを行っていてもすぐに飽きてしまう子もいる。 ☆ 子どもの作品を保育室内に展示する事でテレビを振り返って楽しんだり、友だちの作品にも目を向けることができるようにする。 <p>【9月1日「かいつぶり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 映像に対して疑問に思ったことを友だちとつぶやき合いながら納得し、自分の思いを広げている。 ☆ 「にわとりー」「これかいつぶりだよ」「かいつぶりがいつぶり」「あっ、目が黄色い」とかいつぶりを知りたいという気持ちが見られる。 ☆ 久しぶりの視聴であることと、聞き慣れない名前、未知な動物が登場したことで興味を示し真剣にみている。 ☆ 「絵かきたい」「僕は粘土やりたい」と活動の意欲が見られた。 ★ 割り箸を用意しペーパーサートが作れたり、図鑑を用意し実際にかいつぶりを調べたり見ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 異年齢児と関わることの楽しさを味わっている。 ☆ あそびを子ども同士で工夫し、ルールを決めて楽しんだり喜んだりしながら友だち同士の結びつきを深めている。 ☆ 友だちと比較しながら物を作ることを楽しんでいる。 ★ 友だちと比較する中で上手=○、下手=×という判断になってしまいがちであるので、それぞれの良さを紹介し、一人ひとりが自信を持って取り組むことができるよう、配慮していく。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 水あそびを喜び、またその中で自分なりの課題を見つけ、挑戦する姿がある。 ★ 一人ひとりの成長段階に合った目標を見つけてあげることで無理なく取り組むことができるよう、また達成した時の喜びや満足感を味わうことができるようにしていく。 ☆ 嫌なことなどを人のせいにしてしまったり、言葉づかいが悪い子が目立つ。 ★ その都度、納得できるように「いけないということ」を伝えていく。 ☆ ルールを守りながら遊ぶことを楽しんでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 子ども同士であそびを広げて楽しんでいる。 ☆ 気温の変化を感じ、また落ち葉を見つけたり、鈴虫やコオロギに触れたりすることで季節の変化を感じている。 ★ 保育者も子どもと一緒に秋探しを行い、身近に季節を感じるができるようにする。 ☆ おにごっこやだるまさんが転んだなど集団あそびを好んでやっている。 ☆ 運動会の練習が始まり、運動会への意欲を示し真剣に練習に取り組む。かけっこでは「僕1番だった！」「私も！」などと勝つことを目標にする姿がみられるようになってきた。

【ここまでのまとめと考察・課題】

当初は視聴することに興味を示し、真剣に見る中で、映像に対しての言葉は驚く程多く出ていたが、視聴後まではやはりイメージがふくらまないようで、視聴が終わると気が緩み、保育者にくっついたり友だちとふざけてしまうことも多かった。また、思いを言いたい子は、他児の言葉を押さえてまで自分の気持ちを押し通す所があったり、言葉を発しない子は、自分とは関係ないといった表情もあった。しかし、視聴を重ねていくにつれて、視聴後に自分が感じたことを友だちや保育者に伝え、友だちと交流し合うことを楽しんだり、口数が少ない子もじっと友だちの言葉を聞いてうなずいたり自分の思いと重ね合わせる姿も見られるようになってきた。

視聴後は、なかなか子どもからは活動につながる言葉は出なかったため、初めは保育者から粘土、絵、公園に行く、ペーパーサート、図鑑を見るなど視聴から表現活動への広がりを持たせ、イメージをふくらませたまま活動を楽しめるよう働きかけた。「かいつぶり」の時には子どもから「絵かきたい！」「僕は粘土をやりたい」という言葉が出るようになり、子どもたちから意欲的に視聴で得たものをあそびに発展させようとする気持ちが感じられた。

今後、みんなで一緒に見ることの楽しさを味わいながら、より幅広く、自由に子どもたちのイメージをふくらませるよう、また映像と自分の周りとを結びつけることで、自然をもっと身近なものに感じ、生き物の生態や命の尊さを知っていくことができるようになってほしいと願う。

視 聴 記 録

平成17年 6月 21日 (火) 10:00		4歳児 花2組 29名	
【番組名】しぜんとあそぼ 「とのさまばった」		保 育 者	下出友美 城所美幸
【ねらい】 ・自分の思いを友だちや保育者に伝え、イメージ交流を楽しむ。 ・友だちの言葉を聞きながら自分の思いと比較したり、周りの人の思いを知る。			
視 聴 中			
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき	
<ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ バッタ登場 ・ 「何か動いているよ」 ・ バッタの赤ちゃん ・ 皮を脱ぎ生まれる ・ 「どこに行くのかな」 ・ かまきり登場 ・ バッタを狙う ・ 葉っぱを食べる ・ 雨 ・ バッタの脱皮 ・ すずきを食べる ・ うんちをする ・ 鳴く ・ オスとメス ・ 穴を掘りたまごを産む ・ エンドロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじまった！」TVに集中する。 ・ 「おっ、バッタだ」「かっこいい」 ・ 「わかった、バッタのあかちゃんだから」動いている物を予想し、自分の予想を友だちと言い合う。 ・ 「ちっちゃい」「あれ？みどりじゃない」「あかちゃんだもんでたら」 ・ 皮を脱ぐ様子を真剣に見つめ、応援する子も見られる。 ・ 「ごはんたべにいくだよ」「あそびにいくんだよ」問いかけに答える。 ・ 「かまきりだ」「かまきりつかまえたことある」「こわい」とかまきりについで経験を言葉にする。 ・ 「うわ、たべられちゃう」「にげろ」とバッタを心配する。緊迫した映像、音楽に緊張する。 ・ 「よかったあ」ほっとする。 ・ 「ごはんをたべてるんだよね？」友だちや保育者に同意を求める。 ・ 「がんばれ」「もうすこし」応援する。リアルな脱皮の様子に見入る。 ・ 「おいしそう」「いっぱいたべるね」「めがおっきい」「はもあるよ」 ・ 「うんちだって」笑いが起き、緊張がほぐれ気が緩む。 ・ 「ないとる」「おはなししとるだよ」 ・ 「おとうさんとおかあさんだね」 ・ 「あなほっとる」「たまごうむだよ」バッタの真似をする。 ・ 「おわったー」そわそわし始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真剣に見ようとする。「とのさまばった」「見たことある」「これビデオで見たことあるね」 ・ 「ほんとだ」「バッタの赤ちゃんだ」「あいつは大人になるだよ」 ・ 「かわいい」という声が飛び交う。「これ赤ちゃんだよ」「すげーちっちゃえ」友だちの真似をする。 ・ 「こいつ捕まえちゃダメ？」「ダメだよ、捕まえちゃ」「いいだよ」「ダメだし」友だちと意見を言い合う。 ・ 視聴を共有しようと隣の子の顔をのぞき、微笑み合う。 ・ 「気持ち悪い」「気持ち悪いっていうな」「もうひとりおる」 ・ 思い思いの意見を言い合うため、それぞれが自分の伝えたいことだけを言う。じっと聞いている子もいる。 ・ 「かまきり」とい声が飛び交う。「かまきりのはさみ痛いだよ」「かまきり見たことある」 ・ 「バッタ探しとるよ」急に静かになり、画面に集中する。「すげー」「かくれとる」緊張した雰囲気。 ・ 「あ、食べてる」 ・ 画面を指さし、保育者の顔を見て共感を求める。「かまきりは葉っぱに隠れとるだよ」「どつえーよ」かまきりの話で盛り上がる。 ・ キョロキョロし始める子がいる。「ながい」「どでっけーし」「羽があるじゃん」「反対向きになっとる」 ・ 「はっぱ食べちゃうの」「あとちょっとしかないじゃん」「お腹いっぱいなのかな」 ・ 「うんち」「うんちやだー」声が飛び交い、笑いが起こる。 ・ 「あっ！とんだ」「とんだね」隣の子と目を合わせる。 ・ 「これは赤ちゃんじゃないよ、大人だよ」「ケンカしとるじゃない？」「おんぶだな」「ムシキングしとる」 ・ 「しっぽで食べとる」「石食べとる」「食べてない」「うんちしとる」「おしっこだよ」「卵だって言っとったよ」 ・ 「公園行ったらさ、バッタがおった」 	

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おれバッタつかまえたことあるよ」「おれもだよ」とバッタに関する経験を友だちや保育者に伝えようとする。 ・ 自分が一番印象に残ったことを言葉で伝える。中にはその映像を頭に思い浮かべる子もいる。 ・ 自分の意見を率先して保育者や周りの子に伝え、言葉のかけ合いを楽しむ。 ・ 周りの言葉に耳を傾け、自分とは違った思いを知る。またその言葉と自分の思いを比較してみる。 ・ 終わった安心感から気が緩み、隣の子と他の話をしたりよそごとを始める。キョロキョロと周りを気にしだす。 ・ 周りの子や保育者の言葉をじっと聞いている子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「赤ちゃんかわいかった」「ちいさかった」「変わった形がおった」「おとがした」それぞれが印象に残ったことを口にする。 ・ 身を乗り出しながら自分の意見を保育者に伝えようとする。 ・ 「うるさい」「ねえ！ねえ！」と周りを静かにさせ、自分の意見を言おうとする。 ・ 「飛ぶの早かった」とバッタが飛ぶ様子を真似する。 ・ 「でもカエルみたいだよ」「カエルはこうだよ」とカエルの真似をする。 ・ 「うんちがヘビみたいだった」「うんうん」とうなずく子がいる。 ・ 「オレバッタ公園で見たことあるよ」「オレも」「オレも」立ち上がり、保育者に伝えにくる。 ・ 保「じゃあ、みんなで公園に行ってバッタさがしてみようか？」 ・ 子「よっしゃー」「やったー」「いくいく！」と立ち上がりガッツポーズをし、喜びから席を離れる子がいる。 ・ 帽子をかぶり、大西公園へバッタを探しに行く。 ・ とのさまバッタはいないものの、小さいしょうりょうバッタを見つけ、みんなでつかまえようとする。 ・ テレビからのイメージを保ち、映像を思い出しながらバッタを探している。 ・ 見つけたバッタを保育者に見せ、容器に入れて保育園へ持ち帰る。 ・ 中にはブランコなど違う物で遊ぶ子も見られた。 ・ 持ち帰ったバッタを虫かごに入れ、みんなで観察し、バッタの様子を子どもたち同士で話し合ったり、保育者に伝えにくる。

【考 察】

バッタが子どもたちにとってとても身近な物であり、またほとんどの子が触れたことがあることから、とても興味を持って視聴していたように思う。特に男の子は、捕まえた経験があることから、自分の知っている知識や経験を保育者に伝えようとする姿が多くみられた。

その一方で、思いを伝えたい子が、必死に保育者や子どもテレビに言葉を発することで、真剣に見ている子が「うるさい」と集中できない部分があった。映像から出たイメージや思いを伝えようとする子どもたちの思いも大切にしていきたいが、真剣に見ている子の思いも大切にしていきたいので、どうすれば良いのか難しさを感じた。

視聴中に「公園でバッタつかまえたことある」「オレもつかまえたことあるよ」という声が多かったことから、こちらから公園へバッタを探しに行くことを提案してみる。その提案に子どもたちも大喜びであり、「バッタつかまえるぞ！」と意欲を見せ、出かける支度を急いでいた。

とのさまバッタがいなかったのは残念であったが、しょうりょうバッタがいたことで、子どもたちの視聴のイメージをふくらませたまま、バッタ探しをできたことがとても良かった。子どもたちの気持の高ぶりを、いかに冷まさず事後活動に持っていかうかがとても重要だと思われる。その後も園でバッタを観察し、テレビの映像を思い出している子や実際の姿と映像を重ね合わせてみる子が見られた。

5歳児（月1組）番組名『こどもにんぎょう劇場』

クラス人数 34名（男児21名、女児13名） 保育者：渡邊順子 横田美穂

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 年長児になった喜びが表情や行動からもよく感じられ、活動を意欲的に行おうとする姿が見られる。しかし、指示のあったことや手本のあるものに対しては「きちんとやろう」とするが、自由な表現や発想をするのに、自信の持てない子が多いように感じる。

【ねらい】

- （保育全体）・ 友だち同士でお互いの思いを大切に認め合って関わり合いながら、意欲的に活動する。
 （視聴活動）・ 同一体験をした友だちとイメージを共有・分有することで、イメージの育ち合いをしながら思い思いに発想したり自由に表現することを楽しむ。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が傍に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【4月27日「みにくいあひるのこ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ じっと画面に集中して物語の展開に期待している様子が伺える。 ☆ 視聴後、自分から気持ちの表出をする子はいないが、保育者が話すと後に続いて「いじめられてかわいそうだった」「せっかく友だちできたのに殺された」など言う。 ★ 初めての視聴ということで気持ちの抑揚の表れやすいお話を選ぶ。 ★ 視聴直後はなかなか気持ちの表出ができないため、保育者から「先生は～だと思った」と率先して表出していくことで、子どもの気持ちを引き出していく。 <p>【5月18日「ねずみのすもう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 内容を知らない子が多いせいか、途中で集中力が途切れごそごそする子が多い。 ☆ 「かわいそうだった」「僕もそう思った」という言葉や、見た物の発言が多く、気持ちをどのように言葉で表してよいか戸惑っている様子が見られる。 ★ 「かわいそう」以外の気持ちを保育者が感じた気持ちとして具体的な言葉で伝えていく。 ★ 視聴のイメージを膨らますため、戸外でのすもうに誘いかけてみる。 <p>【5月25日「てんぐのうちわ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 緊迫した場面には身をすくめたり、保育者や友だちと顔を見合わせている子もいる。場面ごとに緊張感を感じたり、身体力を抜いたりしてお話の世界に浸っている様子が見える。 ☆ 「かわいそう」の言葉も聞かれるが、「お父さんは子どもに強くなってほしかったんじゃない？」など登場人物の気持ちや背景などを感じ取れた子もいる。 ★ 視聴直後は子どもからの思いがなかなか出ないため、保育者から誘いかける事になってしまう。 ★ 感じたことを一人ひとり保育者にぶつけてくることが多く、イメージ交流が一方向にしか進んでいかないので、うまく言葉を拾い上げたり友だちの話が聞けるよう仲介役となっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 年長児になってどの子もはりきっており、意欲的に活動に取り組みおうとする姿が見られる。 ★ 手本のあるものや、指示のあったことはきちんとやろうとするが、自由な表現や発想に戸惑う子が多い。子どもたち自身で疑問に感じたり考えたりできるように促していく。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 裸足の心地良さを味わいながら活発に戸外であそび、友だちとの関わり合いを深めている。 ★ 園外保育や散歩の機会だけでなく、日常の中からも自然の事象や身近なものに興味や関心を深め、面白さや不思議さを感じる感性を育てていく。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 鬼ごっこやサッカーなど集団あそびが活発に見られる。仲間意識が強く見られる反面、自分に都合のいいようにルールを変えたり、不利になるとすぐに抜けてしまったりする子もいるようだ。 ☆ なかよし保育ではいろいろなあそびの中から自分で選んだり、友だちや兄弟と相談してあそびを決めている。同じあそびをしている異年齢児や地域の人との関わり合いを楽しんでいる姿も見られる。

視聴活動	保育全体
<p>【6月15日「ぶんぶくちゃがま」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ たぬきに思いをよせ、お話の展開ごとに、眉をひそめて心配したりほっとして顔を見合わせたりしている。 ☆ 視聴後、子どもたちから「たぬき、かわいそうだった」という第一声が聞かれる。 ★ 「たぬきの絵を描いてみようか」と誘いかけ、たぬきの変身が味わえるようなペープサートを作ってみせる。 ☆ ペープサートを作ったり、粘土で茶釜になったたぬきを作る子もいる。 <p>【7月1日「三枚のおふだ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 怖いお話に力を抜く場面がないが、最後まで集中して画面に見入っている。 ☆ 視聴後は子どもたちからの言葉の表出が増え、短い時間ではあるが友だち同士でイメージ交流が進められる。 ★ 子どもたちからの言葉が多く聞かれるので、気持ちをしっかりと受け取る側になる。 ★ 場面ごとの絵を描いていくと絵本ができることを保育者が伝える。 <p>【8月2日「しぜんとあそぼ・ざりがに」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 見た時の驚きや感動をすぐその場で声に出して友だちに伝えようとしていたり身体表現で表している。 ☆ 「粘土でざりがに作りたい」「折り紙でつくりたい」という具体的な事後活動への要求が聞かれ、心の高まりをその子なりに表現しようとしている。 ★ 一人ひとりの表現活動が満足できるようその場で環境を整えていく。 ★ 友だちに作品を紹介し認めてもらう喜びが感じられるようにしたり、友だちの表現方法に気が付く機会を設けていく。 <p>【8月22日「かっぱのいたすら」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ じっと画面に見入り、登場人物の気持ちや話の展開をぐっと心の中で想像したり期待している事が伺える。 ☆ 真似ばかりだった子や「できん」と言っていた子も自分なりの思いで絵を描いている。 ★ 子どもたちの描いた絵を場面ごとに集め、紙芝居にして見せたりして、お話作りにつなげてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 友だち同士であそびが盛り上がる中、うまく気持ちが通じ合わずトラブルが生じる事も多い。どうしたらよいか、子どもたち自身が考えることで社会性や思いやりの気持ちが育まれるよう働きかけていく。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 梅雨期で室内あそびが増えてきている中で、友だちの真似をしながら絵を描いたり、本を見たり友だちに教えてもらったりしながら折り紙をしたり、といい刺激を受けながらあそびを発展させている。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 男の子を中心に、虫や小動物に関心が高まり、家で捕まえたものを持ってきたり、友だちに見せてもらってふれあいながら楽しんでいる。 ☆ お泊まり保育を経験し、一人でやってみようとする挑戦や友だちと協力して頑張る姿が増えてきた。活動にも積極性や自信が感じられる。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 水あそびの経験を重ねることで、苦手だったりでできなかったことが少しずつできるようになる達成感を味わったり、大胆に自ら楽しもうとする姿が見られる。

【ここまでのまとめと考察・課題】

1回目の視聴から、みんなでテレビを見ることへの期待から、いい雰囲気の中で視聴をすることができた。回を重ねても、真剣に見たいところはみんながぐっと画面に集中し、ほっと力を抜きたい時はみんなが顔を見合わせたりして、みんなで一体感を持って視聴ができている。

お話の世界に自分が入り込み、登場人物を心配したり話の展開を期待して想像力を膨らませたりして、視聴を楽しんでいる。しかし自分の思いをうまく言葉で表すことができず、1回目の「みにくい～」を見た時に保育者が『かわいそうだったね』と言ったことから、かわいそうな場面をひたすら探し毎回「かわいそうだった」と言う子や、友だちの気持ちを聞いて「僕もそう思った」と言って保育者に認めてもらおうとする姿がみられた。しだいに自分なりの表出がみられ、友だちの意見を聞いて自分との違いに気がついたり、時には反論したりみんなで考えたりと、子どもたちの方からイメージ交流が進められるようになってきている。

自分の思いを表現するのにいろいろな方法があることを、保育者が実際に作って見せたりして、そこから自分なりに工夫して発展できるよう導いていった。今後は友だちとさらにイメージを膨らませ合い、表現の楽しさを味わえうえで、お話作りにもつなかっていけばと願う。

視 聴 記 録

平成17年 8月 22日 (月) 9:45		5歳児 月1組 34名
【番組名】こどもにんぎょう劇場「かっぱのいたずら」		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small; margin-right: 5px;">保育者</div> <div>渡邊順子 横田美穂</div> </div>
【ねらい】 ・ 視聴を楽しみながら友達の気持ちに気づき、共有や分有を味わう。 ・ 主人公や登場人物に思いを寄せ、気持ちを理解しようとする。		
視 聴 中		
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき
<ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ かっぱ登場 ・ 相撲 ・ たろきちとお父の会話 ・ 「かっぱだよ！」 ・ 「どうして見えないのかな」 ・ 場面が変わる ・ いたずらをして、お父を起こそうとする ・ いたずらをして、馬を引きずり込もうとする ・ ひきずられる ・ かっぱ「もうさみしくない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かっぱのいたずら」(タイトルを読む) ・ 「しっとる」「見たことある」「ない」「かっぱってほんとうは、おらんだよね」「おるよ」 ・ ゆかいなかっぱを見て笑顔になる。 ・ 「負けた」「弱い」 ・ 「さみしい」というかっぱの声を聞いて表情が硬くなる。 ・ 大人にはかっぱが見えない事を不思議に思う表情になる。 ・ 思いが通じないたろきちに同情して複雑な悲しい気持ちになる。 ・ さみしそうなかっぱに思いをよせて、思わず眉をひそめる。 ・ 真剣に見入る。 ・ 物語の展開に期待する。 ・ 「いると思っている人にはみえるが、いないと思っている人には見えない」という言葉を深く考える。 ・ 「なんか見えた」「人がおった」 ・ 「はくしょんっ」真似をする ・ 画面に集中する。 ・ 作戦がうまくいかないかっぱを心配し、かわいそうに思っていることが表情に表れる。 ・ 「馬だ」 ・ 「いるよ」おもしろい言い方に友達と顔を見合わせて笑う。 ・ 緊張した表情で見入る。 ・ 「かわいそうだね」かっぱの言葉をじっと聞き入る。 ・ 「もうさみしくない」というかっぱの言葉にほっとした表情になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ざわざわした雰囲気になる。 ・ 「へんなかっぱ！」友達と顔を見合わせ微笑みあう。「うれしいなあ」とかっぱの言葉を真似する。 ・ 徐々に静かになり画面に集中し始める。 ・ 「がくーっ」 ・ かっぱの「さみしい」という言葉を真剣な表情で聞いている。 ・ お話の世界に入り込み、じっと話の展開を見守っている。 ・ 身体の動きがびたっとまり、集中していることが伺える。 ・ 真剣な表情で画面を見つめ、少し険しい表情をしている。 ・ 「人が動かしたとるじゃんね」(現実の世界に一瞬もどる) ・ かっぱの愉快な口調に笑いが起こる。(かっぱに親しみを持っていることが感じられる) ・ 作戦が失敗し、身体の力が抜ける。 ・ 新たな作戦に期待している表情が見られる。(微笑んだり、友達に耳元でなにやらささやいている) ・ どうなるのかじっと見入っているが、身体の一部はごそごそしている。 ・ 身体の動きが止まりぐっと集中していることが伺える。 ・ 後半はかっぱがまだ転がっているのに、集中力が切れ力を抜く子もいる。 ・ かっぱの言葉をじっと聞いている子、終わりを感じて力を抜いている子、かっぱの真似をして泳ぐ真似をしている子と様々。

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・見終わった後、どうしていいのかわからずに保育者を見つめている。 ・テレビが消えて、力が抜けて寝転がったり場所を離れようとする。 ・「かっぱがかわいそうだった」「馬がかわいそうだった」など思ったことを言う。 ・友だちの話を聞いて「僕もそう思った」と、保育者に伝え認めてもらおうとする。 ・友だちの話を聞く子もいるが、自分の話だけして聞こうとしない子もいる。 ・友だち同士でそっと思ったことを話し、楽しむ。 ・次の活動を気にする子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチをオフにして保育者が前に座ると、 ・「はあー」（深いため息） ・「馬がかわいそうだった。だってかっぱに引きずられそうになったもん」「かっぱも痛そうでかわいそうだった」 ・保育者に気持ちを表出しようとする子が何人かいたため、友だちにも直接聞いてもらえるよう、指名して前に出て言うようにする。 ・「かっぱが大人たちに見てもらえんくって、かわいそうだった」「大人に見られんほうがいい。だって大人に見られたら、大人捕まえてかっぱをうつかもしれないもん」→「だったらかっぱ水にもぐって逃げればいいじゃん」 ・前に出て言った事に対して自分の気持ちを言う子がいる。 ・友だち同士でなにやら話をしている子もいる。 ・「かっぱ描きたい」 →保「じゃあ、かっぱの絵を描いてみようか」 ・「描けない、かっぱ」 →上手くかけなくてもいいから、まずやってみるように誘いかけてみる。 ・「かっぱのいたずら」の印象深かった場面の絵を画用紙に思い思いに描く。 ・馬やかっぱが引きずられる所、泳いでいる所、いたずらしている所、お相撲している所など描いている途中にも「かっぱは途中でやめたのに、馬ずっと引きずってやめなかった」「それっておかえしじゃない？」など友だち同士での会話が聞かれる。 ・何枚も描いて絵本にしようとする子もいる。 ・できた絵を保育者に見せに来る。 →どんな場面を描いたのかを絵のコメントを書き込みながら、どんな気持ちか聞いて気持ちに共感していく言葉をかけていく。 ・様々な場面が描かれたので、一度集めた後、場面ごとに集めて、紙芝居にしてみんなの前で見せ、自分達が作ったものがお話の作品になったという満足感を味わえるようにする。

【考察】

前回は新しい刺激になれば、と思い「しぜんとあそぼ」を視聴した。視聴中にも活発に気持ちを言葉で表し友だちに伝えたり、友達のささやきに答えたりする場面が見られ、心のゆれが見た瞬間に身体表現や言葉に表れていた。今回「こどもにんぎょう劇場」を再び視聴したところ、口をあげたまま画面を見つめるほど集中している箇所が何度もあり、見ながら登場人物の気持ちに寄り添いその時の気持ちを推測したり、話の展開などを思い思いに想像して期待したり、いろいろな気持ちのゆれを心の中でためこんだりしているのではないかと強く感じた。視聴によって、現実ではない「おはなし」の世界に自分が入り込んで浸っていることが伺えた。

自分の気持ちを言葉で表現できる子が増えてきたため、前に出て発表する機会を設けた。そのことによって、友だちの気持ちに気づいたり、それに対する自分の気持ちを言ったりしてイメージ交流がとても活発にできた。

視聴後は「絵を描いてみよう」と誘いかけると、今までは「できん」「かけん」という子が多く、保育者の真似をして描いている子がいたが、多くの子が絵を描く活動に積極的に取り組もうとしたり、真似ではなく自分なりの表現ができるようになってきた。今までの経験が自信につながり、イメージを膨らませ思い思いに表現できる子が増えてきた。

友だちの真似が減ってきたことで今回の絵は様々な場面があり、各場面を集め、紙芝居ができた。ペープサートや絵本づくりだけでなく、友達と一緒にひとつの物をつくりあげることや自分たちで演じることができる方法があることも感じることもできたのではないかと。

5歳児（月2組）番組名『こどもにんぎょう劇場』

クラス人数 33名（男児16名、女児17名）

保育者：中島真人

【年度当初の子どもの様子】

- ・ 保育園で最高年次になったということの自覚、やる気をもって生活できている。
- ・ 頑張る気持ちはあるのだが、個々の活動になるととても消極的になり、「どうすればいい?」「〇〇はどこ?」と聞いたり、絵やつくる活動では、近くの子と同じ絵や作る物になる子が多く依存性を強く感じる。
- ・ 友だち関係は良好で、女の子が多いせいか、クラスの雰囲気はとても落ち着いている。

【ねらい】

（保育全体）・友だち同士でお互いの思いを大切に認め合って関わり合いながら意図的に活動する。

（視聴活動）・視聴活動を通して様々な思いや考えを知り、感性豊かな想像力を育む。

【視聴活動での環境における留意点】

- ・ 子どもがつぶやき合ったり、息をのんだりして一体感が持てるよう、床や椅子を使って配置を工夫する。
- ・ 保育者はどの子からも自分が見える位置で視聴するとともに、情緒不安になりがちな子は保育者が傍に寄り添う。

【子どもの姿（☆）と保育者の関わり（★）】

視聴活動	保育全体
<p>【4月27日「ねずみのすもう」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴する雰囲気戸惑った表情を見せたり、緊張している様子がある。 ☆ 視聴中は、真剣で言葉も無く見ている。 ☆ 視聴後は、ごろごろしたり、好きなことをしている子が多く見られる。 ★ 緊張していたり、慣れない雰囲気戸惑っているには、安心できるように言葉をかける。 ★ 保育者の緊張が子どもに伝わってしまう。 <p>【5月11日「みにくいあひるのこ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴中に、隣の子とぼそぼそ会話をしている。 ☆ 1つの場面の1つの出来事に4～5人の子が共感する。 ★ 物語を振り返りながら、保育者が思ったこと、感じたことを子どもたちに伝える。 ★ 「〇〇くんと先生は、同じことを思ったんだね」と、共感できたことを事実を口に出して言う。 <p>【5月31日「うらしまたろう」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 視聴中に、隣の子と顔を見合わせて笑い合う姿が見られる。 ☆ 「あ～、だめっ!!」と、思わず手で顔を覆う子や、画面に出てきた煙を手でもくもくと表現する子もいる。 ☆ 視聴後、すぐに子どもから言葉で思いが出る。 ☆ 1つの場面での登場人物の気持ちを考えて言う。 ★ 友だちが話をしている時に、立ってふらふらしてしまう子に話が聞けるように声をかけ、促していく。 ★ 「〇〇ちゃんは、そういうふう思ったんだね。〇〇くんは、こんな風に思ったんだね。」と、1つの場面、同じ場面を見ても色々と感じる人がいることを伝えている。 <p>【6月15日「てんぐのうちわ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 鷹が怖くて、保育者の横に移動してくる子がいる。 ☆ 「うちわ、あるじゃんねえ。」「うん。」「おとうさん、かえってきてくれただね。」と、隣の子と2、3人で話す。 ☆ 話を振り返る言葉を出さなくても、どんとんと子どもの方から言葉が出てきて、流れのまま、イメージの交流ができる。 ★ 登場人物の具体的な動作を口にする子ども内面の気持ちを引き出し、子どもの中にふくらんでいるイメージがさらに深まっていくような言葉をかけていく。 ★ 天狗のうちわを作って提示してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 年長になったことに慣れてきて、クラス全体の雰囲気が落ち着いてきた。 ☆ 当番活動に積極性が見られるようになってきている。 ☆ 裸足で遊ぶことを楽しみにしており、戸外に出ることを期待する子が多くなっている。 ☆ 戸外でのあそびが活発になり、特に、鬼ごっこ、色鬼、高鬼、どろけいなどグループになってルールをあそびを楽しんでいる。 ★ あそびに加わり、一緒に遊んでいく中でルールや楽しさを伝えていくようにする。 ☆ 暑さによる水分補給や衣服の調節等を自分で判断して、自ら行える子が増えている。 ☆ 友だちとの関係も深まってきており、仲良しのグループができてきている。男児の中では、戦いごっこの行き過ぎが原因のトラブルが多い。 ★ 戦いごっことしても加減をして、相手のことを考えていけるように言葉かけをしていく。 ☆ テレビの影響から、カブトムシ、クワガタに強く関心を持っているようで、家で飼っている虫を持ってくるようになる。 ☆ 戸外でのルールのあるあそびが発展していき、難しいルールを楽しむようになってきたり、保育者が中に入らなくても自分たちで仲間を集め、鬼を決め楽しんでいる。 ☆ 室内あそびや造形活動を通して、折り紙の技術が高まり、様々なものが折れるようになってきたり、紋きりのできる形を園や家で楽しんでいる。

視聴活動	保育全体
<p>☆ 給食で苦手なものがあったときに「うちわ貸して」と言って、うちわを自分の所へ持っていき、頑張っって食べ「おれ、天狗のうちわを使ったから食べれたよ！」と笑顔で教えている。</p> <p>【7月1日「ピエロのしあわせ】</p> <p>☆ 視聴中、柔らかな表情が見れたり、周りの子と笑い合ったり、言葉がよく出ている。</p> <p>★ 視聴後の活動の中で、保育者がピエロのペープサート作る。</p> <p>☆ ペープサートに興味を示す子がたくさんいたが、「やらん。」「作れん。」と、自分のあそびにもどる。</p> <p>【8月9日「ともだちくるかな】</p> <p>☆ いたちが乱暴される姿に、大笑いする子と真剣に心配な表情で見る子と両極端にイメージの違いが出る。</p> <p>☆ 多くの子から言葉が出るようになったのと同時に、慣れた雰囲気で見ると、視聴後にふざける子が増えている。</p> <p>★ みんなで見るマナーを話す。</p> <p>★ 事後活動で印象に残っている場面や、物語の続きを絵にして描いてみたらと誘う。</p> <p>☆ 想像した絵を描く子は2～3人いた。また、机ごとに真似をし合っって描いている子もいた。</p> <p>【8月22日「続・海底2万里】</p> <p>★ 保育者も子ども同様、より新鮮な気持ちで見ようと試み、事前に内容を確認せずに視聴する。</p> <p>☆ 大笑いする子に「静かにして。」「うるさい。」と指摘がある。</p> <p>★ ペープサートを作ることを保育者が提案をする。</p> <p>★ 子どもと一緒に作ることで、見たものを頭の中の想像で描くことの難しさを知る。</p> <p>☆ ペープサート作りはとても盛り上がり、2つ目を作りたい子も出る。なかなか描けない子が2人いる。</p> <p>★ 部屋の中に島を作り、作ったペープサートで活動できるようにする。</p> <p>☆ ペープサートを使って探検し、活動の中からイメージの交流ができる。今まで、言葉で表現しなかった子からも言葉での思いが出る。</p>	<p>☆ カブトムシやクワガタだけでなく他の色々な虫に興味を持つようになり、家の人と捕まえた、バッタ、カエル、ザリガニを園に持ってきて、良く観察し、細かなこと気づき、発見している。戸外でも虫を見つけて親しんでいる。</p> <p>☆ 友だちとの関係で、言葉で気持ちを伝えようとお互いがしているのだけれど、なかなか上手く伝わらずトラブルになる。</p> <p>★ 保育者が仲立ちとなり、お互いの思っていることを自分の口で相手に伝えていけるように働きかけ、相手の思いに気付いていくことができるようになる関わっていく。</p> <p>☆ トラブルが起きてても、自分たちで解決しようとする姿が見られている。</p> <p>「なんでたたく？痛いじゃん。」「違うよ、たたいたじゃないよ。あんね、〇〇君が押してきて、ぶつかっちゃっただもん。」「でも、痛いじゃん。」「わざとじゃないだよ。ごめんね。」「いいよ。」</p> <p>☆ プール遊びやお泊り保育の経験から、色々な活動に対して意欲を示し、一人で頑張ったり、友だちと協力して頑張る姿が見られている。今まで弱かった積極性が自信と共に強まってきている。</p> <p>☆ 戸外あそびでは友だち同士で話し合い、作戦を立てたり、生活の色々な場面で友だちと話し合っって、考えて決めている姿がよくみられる。「ちょっと待って、俺たちはこっちからいくから、おまえたちはあっちからいください。」「おう、わかったけどさ、あっちからきたらどうする？」「うーん、じゃ、そしたら、みんな戻ってこようぜ。」「わかった。」</p>

【ここまでのまとめと考察・課題】

4月当初は、保育者自身の緊張が子どもに伝わってしまったせいもあってか、視聴中は真剣に見て楽しんでいるものの、視聴中や視聴後に素直な思いを表すことを戸惑っている様子があった。

視聴中の様子は、初回の緊張した様子で全く何も話さず、表情も固く真剣にみているという感じだったが、回を重ねるごとに段々とみている表情も柔らかくなってきて、つぶやきも増えてきている。みている思わずつぶやいたり、周りの子に思わず言いたくなってしまっって話す姿もよくみられるようになった。視聴中のつぶやき、周りの子との話の中には、「あれって、〇〇だよね。」「ほんとはさ、〇〇だよね。」と自分の持っている知識の中からの洞察とみられるものや、「そんなことしたら、こわれるよ。」「今度は、あの子が勝つじゃんね。」「きっと、そうだよね。」「……」「みてみて、やっぱそうだったら？」「やっぱ、こうなると思った。」という次の場面を予想した言葉も聞かれるようになっていく。

視聴後のイメージ交流では、保育者が感じたこと、思ったこと、疑問に思ったことなどを話していくことで少しずつ、自分の思ったことを言葉に出せるようになった。それが、段々と保育者に対してではなく、友だちが話したことを聞いていて、それに対して言葉が出るようになり、自然と聞く姿勢がとれるようにもなった。その中で、自分の思いを出さない子に誘ってみるが、今の時点では、自分の思いを出すことよりもみんなが話していることを聞くことで満足している様子があった。他には、話を聞こうともせず、遊んでしまう子もいるので、視聴活動を続けていくことで徐々に興味をもてるように促していきたいと思う。

事後の活動では、視聴中膨らんでいたイメージが薄れてしまうようだったが、絵を描くこと・ペープサートを作ることを提案してみると、絵を描きながらお話を思い出して友だちとイメージを交流していたり、ペープサートで印象に残った登場人物を作り、ペープサートを使って登場人物を動かしながら、役になり冒険する中で、登場人物のその時々気持ちを想像し、友だちと話をしている姿があった。

今後も、子どもの方から自発的に思いを出し合えるような信頼関係を深めながら、言葉や様々な活動を通して、イメージの交わり合いができればと願う。

視 聴 記 録

平成17年 5月 31日 (火) 10:30		5歳児 月2組 30名
【番組名】 こどもにんぎょう劇場「うらしまたろう」		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small; margin-right: 5px;">保育者</div> <div>中島真人</div> </div>
【ねらい】 ・友だちや保育士と一緒に視聴することを楽しむ。 ・視聴中、視聴後に自分の思ったことを口に出して言う。		
視 聴 中		
番組の場面	予想される子どもの様子 (表情・つぶやき・反応)	子どもの反応・つぶやき
<ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ・海の声が聞こえる ・亀が現れる ・海の中へ ・女の子、登場 ・乙姫様、登場 ・みんなで遊ぶ ・お母さんの声が聞こえる ・場所が変わる ・みんなで遊ぶ ・お母さんの声が聞こえる ・場所が変わる ・お母さんの声が聞こえる ・帰ることを決める ・玉手箱をもらう ・村へ戻る ・時間が経っていたことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あっ、うらしまたろう してる」と、周りの子と話す姿が見られる。 ・話が始めると真剣に見入る。 ・「あれ？いじめられてない。」と、知っている話と少し違うことに気づく。 ・「竜宮城に行く」と、思って見ているが、竜宮城が出てこず、女の子が出てきたところで、知っている話の流れの違いに気づき、話の行方が「どうなっていくのか」と、期待する表情が伺える。 ・少し息を抜き、体勢を直したりする子がいる ・画面に目を向ける。 ・「お母さんの声だよ」と、隣の子と小さな声で話す。 ・早く帰らないといけないんじゃないかと、と思い少しずつ心配する思いが出てくる。 ・遊んでいるところは楽しそうで、でも、お母さんの声が気になって、複雑な表情を浮かべ、画面を見ている子もいる。 ・乙姫様と遊んでいる姿に「にやにや」と、画面を通しての楽しさが伝わってくる子もいる。 ・お母さんの声に、みんなも息のみ、表情が真剣になる。 ・話の行方、太郎の次にとる行動が気になる。 ・「あっ、玉手箱してる。開けちゃいかんだよね。」「開けると、おじいちゃんになっちゃうだよ。」「ね〜。」と、周りの子と顔を見合わせる。 ・太郎の悲しい気持ちが伝わって、悲しい表情を見せる子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ざわざわして、画面に向いていない子もいる。 ・「あっ、やまっていう感じ！あれ、あれ」と隣の子に話す。 ・さっ！と画面に見入る。 ・隣の子と顔を見合わせ笑い合う。 ・「あっ」という子の声にみんなが反応して、画面のほうに顔を向ける。 ・楽しい雰囲気遊んでいるのにつられて思わず笑顔になり、周りの子を見渡し、周りの子の様子を伺う姿があった。 ・思わず「にや」っと笑顔になり、隣の子に笑いかける。 ・お母さんの声のところで、その声に「こわいこわい」と保育者に言い、保育者を見て安心し、また画面を見る。 ・真剣に見入る。 ・後ろの子の小さなつぶやきに反応して後ろを向くが、笑顔で笑いかけ、また画面を見る。

<ul style="list-style-type: none"> ・玉手箱を開ける ・おじいさんになる ・全てを無くしてしまっただことに気づく ・エンディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あ〜、だめ！」と、玉手箱を開けるのをとめる。 ・「あ〜あ、あけちゃった。」と、残念な気持ちでいる子や「あはははっ」と、おじいさんになった姿に笑う子がいる。 ・独りぼっちになっちゃったことを改めて感じ取り、少し切ない気持ちになる子や最後まで笑ったままの子がいる。 ・「ふ〜、終わった。」と、息を抜く。少し悲しい余韻にひたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうなっているんだろう？と、期待・心配する表情で画面を見ている。 ・「ああ」と、思わず、手で顔を覆う子がいる。 ・煙を手で表し、もくもくとやる子もいる。
---	--	---

視聴後のイメージ交流・活動

予想される子どもの様子	子どもの様子・活動
<ul style="list-style-type: none"> ・周りを気にする。 ・なかなか言葉が出ないでいる。 ・悲しい雰囲気が終わったため、少し気持ちが悲しくなっているように感じられる。 ・保育者の言葉に、徐々に自分の気持ちを言い出す。 ・周りの子と話している。 ・保育者や友だちの話を聞いて、共感したり、自分の感じたことを話したりするようになる。 ・段々と飽きてきて、場所を離れたり、その場で立ったりする子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見たことある」と、視聴後すぐに子どもから言葉が出た。 ・「(玉手箱を)開けたら、お母さんに会えると思ったじゃない？」と、登場人物のその場面での気持ちを考えて言葉が出る。 ・「玉手箱の中に何が入っているかわからないから、見ちゃったなら？」「乙姫様に聞けばよかったじゃん」「聞いたら、内緒っていうら？」「中に、お母さんが入っていたと思ったじゃない？」 ・玉手箱を開けるシーンから、一人の子が話すのをきっかけに、色々な思いや考えを出したり、友だちの話に共感して、自分の意見も同じだと主張する。 ・「なんで、お家が壊れとった？」と、疑問に思ったことを言う。「工事すれば？」「亀が連れて行ったときに時間がたっとった。」 ・「あんさ、あの時(太郎が帰ってきて、おじいさんになったとき)さ、絶対におばあさんしんどったよ。だってさ、最初るとき、もう、おばあさんだったもん。」と、時が経ってしまっていたことに気づいて言葉がでる。 ・「ねえ、なんで、海の中で声が聞こえたの？」 ・真剣に、友だちの話に耳を傾けている子もいた。 ・段々とお話の余韻からさめ、立ってフラフラしてしまう子が増えていった。 ・「おばあさんがおひげになっちゃったなら？あはははっ」と、ふざけていると感じられる発言をする子もいた。

【考察】 今回の視聴中は、息を抜くこともなく、とても集中して見ることができていた。

視聴中に周りの子と場面について話したりすることはなく、お話の世界に入り込んでいるように思えた。

イメージ交流では、スイッチを切ると同時に子どもの方から初めて言葉が出た。その他にも、場面ごとの登場人物の気持ちを考えて、自分なりの思いを言葉に出せる子がいて、その子の話していることを聞いて、自分の思いを出そうとするようになった。毎回、イメージ交流で発言できる子が増えてきている。ねらいで思っていたよりも深いイメージの交流ができたと思う。次回の視聴後には、どんな思いが出てくるかととても楽しみに思う。

発言する子が増えてきてはいるが、まだ、6〜7人といったところなので、他の子の自発的な言葉を期待しつつ、言葉が出しやすいようにさりげなく誘ってみたり、促してみればよかったと思うと同時に、もう少しイメージが膨らんでいくような言葉がけが自分に必要だと思った。

- ⑥ 保護者に対してアンケート調査を行い、また、園での様子を伝える
 ～保護者の、子どものテレビ視聴に対する関心や、テレビとのより良いつきあいを身につけるための意識を高める～

✎ 第1回アンケート調査実施（平成16年6月）…対象：園児、児童クラブの児童、未就園児の家庭
 「テレビ視聴時間」や「誰と見ているか」等の実態を把握し、集計結果を家庭に知らせる。

✎ 小児学会の提言を伝える（親子ひろば、手紙）
 「明照保育園つばめっ子だより」（平成16年6月号）

テレビとうまくつきあおう！

『最近、小児科医や発達の詳細家から、言語発達や社会性の遅れがある幼児の中に、テレビ・ビデオを長時間視聴しており、テレビ視聴をやめると改善がみられる例があることが報告され、テレビの長時間視聴が発達に悪い影響を及ぼす可能性が指摘されています。』（日本小児科学会）

乳幼児の早い時期から見ている
 長時間（1度に2～6時間）見ている
 ひとりで見ている



表情が乏しい
 視線が合いにくい
 友だち関係が持ちにくい
 言葉のおくれ 等



そこで！みんな大好きなテレビを悪者にしないために

- ①長時間見せない工夫（見ない時・食事中は消す）
- ②ひとりで見せない工夫
 （一緒に見る・終わったら発展あそび）
- ③テレビ以外のおそびをバランスよく
 （戸外あそびや全身あそび）
- ④家族や友だちのかかわる機会を大切に。



バランスがだいじ

📎 子育て支援活動『親子ひろば』で親子視聴を行い、家庭でも親子でいっしょに見て、見終わったらスイッチを消してあそびに広げていくテレビとのつきあいを呼びかける。



📎 保護者に園での視聴の様子を伝える（毎日の保育を携帯メールで伝える『お知らせくん』より）

月組・・・4/27

今日は外で元気に遊んだ後、1組2組に分かれてTVを見ました。NHKで放映している子ども人形劇場の「みにくいあひるの子」と「ねずみのすもう」を見ました。1組は「みにくいあひるの子」を見ましたが、あまりの集中力にはほとんどの子の口が半開き状態でした。見終わった後は「かわいそうだったね」「白鳥の仲間が呼んでくれて友だちになってよかったね」と温かい言葉が聞かれましたよ。2組は「ねずみのすもう」を見ました。2組さんも真剣に画面を見つめ、お話の世界に入りこんでいました。給食の時も「ころんだところが楽しかったね！」など話に花が咲いていました。思いやりや優しい心の育ち、また友だちと見る楽しさがTVを通して経験できれば・・・と思っています(^_-)-☆



花組・・・5/25

今日は、ピカピカのいいお天気。子どもたちもすっかり半袖になり、中には髪の毛を汗でビショビショにしながら遊ぶ子も見られるようになりました。外で思いっきり体を動かした後はお部屋で『ニワトリ』のビデオを見ました。みんなも知っている『ニワトリ』なだけあって見ている途中のお話も「せんせーい、にわとりってたまご産むだらー?」「ひよこになるだよねー」とはずんでいましたよ。中にはニワトリさんになって「コーツ!!」と真似してみたり、バタバタと手を振ってニワトリになっている子もいました。ニワトリから卵が産まれる様子にとっても興味を示していました。少しニワトリ博士になった花組さんです。

花組・・6/21

テレビでとのさまバッタを見ました。身近にいる昆虫なので「見たことある」「家にいる」と思い出しながら見ることができました。テレビを見た後、公園へバッタを探しに行きました。そーっと草をかき分けるとピョン！「あっ！あった」「こっちにもあるよ」あちらこちらで歓声が・・でも赤ちゃんバッタでとても小さかったので虫かごの間隙からみんな逃げてしまいました。その後捕まえたバッタはビニール袋に入れて大事に持ち帰り飼育ケースに入れてあげました。「このバッタ、オレが捕っただけに！」と嬉しそうに友達と一緒にバッタを見る姿に思わずニッコリ(*^_^*)してしまいました。

赤組・・6/22

今日はテレビ視聴をしましたよ☆オープニングが始まると「キャーキャー」と大はしゃぎ！！指さしをしてニコニコスマイルを見せてくれる子や「う～たん」と途中で叫ぶ子も・・・(*^_^*)子どもたちはテレビを見るのが大好きなようです。お家でも見ているのかな！？さいごの「いないいないバイバ～イ」の振りが完璧な子もいてビックリ☆お家ではどんな風に見ているのかなあ？(^_-)

花組・・7/20

今日は久しぶりにテレビ視聴をしました。大好きなカエルのお話に、真剣な様子みんな。その後テレビの内用を思い出して、カエルやオタマジャクシを年度で作ったり、絵を描いたりして楽しんでいました。「卵からねーおたまじゃくしが3つ落ちただよ！」「卵ってね、白色から黄色になって黄色から茶色になっただけに！」と細かなシーンまで覚えているみんなに、ただただ驚くばかりでした。お家でも“おたまじゃくしやカエル”のお話をしてみて下さいね。

月組・・6/15

今日、月組はテレビ視聴をしました。1組はNHK子ども人形劇場「ぶんぶく茶がま」、2組は「てんぐのうちわ」を見ました。テレビ視聴も月組になって4回目となり、すーっとお話の世界に入りこみ「たぬきが叩かれてかわいそうだったね」「おばあさん助けてくれて良かったね」と気持ちを言葉で表すことができるようになり、思いやりの気持ちが育まれているようです。その後、1組はペープサートを作っている子もいましたよ！

星組・・7/19

今日も30度を超える真夏日(^_^;)日ざしもギラギラ照りつける中、星組はまず部屋でテレビ“つくってあそぼ・えのぐあそび”を見ました。みんなの大好きな、わくわくさんとゴロリの登場に嬉しそうな笑顔で見入っていました。見終わった頃には「先生！ボクも絵の具やりた～い！」「私もわくわくさんみたいに遊びたい！」などなどやる気満々の声。さっそく泥んこパンツに着替え、戸外でえのぐあそび&泥んこあそびを行いました。はだかだったこともあり、解放感でいっぱいみんなは絵の具を思い思いに紙につけたり、中にはボディペインティングをしている子も！？（体に絵の具がついている子は、水では取れなかったのでお風呂で洗って下さい。すみません。）途中から泥んこあそびをする子もいて、山やダンゴを作って楽しんでいましたよ。

星組・・6/9

イスを並べたとたん「ゴロリ出てくるー？」「わくわくさん見るー？」と3回目ですがゴロリやわくわくさんと仲良しになってきたみんなです。1. 2回目は終わると「楽しかったー！」と感想を言う子が多かったのですが、今日は「ワクワクさんの真似したい！」がひと言目の発言でした。そんな発言のとおりに、折り紙を手で色々な形にちぎって“ブルドック”“カルタ”“おうち”とちぎった形で色々なものに見立てていましたよ。各お部屋に飾ってあるのでお部屋をのぞいてみて下さいね。

雪組・・・8/30

今日は、1組がテレビ視聴をしてプールに入りました。2組は、先にプールに入りその後、屋内で遊びました。テレビは“食いしん坊お化け”の歌が面白くて、口ずさんだりひとみ先生の替え歌バージョンで楽しみましたヨ！！

雪組・・・8/4

今日はテレビ「お母さんといっしょ」を見ました。1, 2組分かれて見ました。歌の場面では口ずさんだり“まねっこピーナッツ”ではほとんどの子が立ち上がって「まねっこピーナッツ」と言いながらポーズ♪ カエルが出てくるとピョンピョンケロケロとカエルに変身していました。視聴後は、先生や友達とカエルになってピョンピョン♪ みんなで見て遊ぶと楽しさが倍増しますよ☆お家でもぜひみんなで見てね(^_^)

赤組・・・8/30

今日は、『いないいないばあ』のビデオを見ました。TVの前にシートを敷くと、みんながビューンと集まりました。汽車のトンネルにボールがコロコロと転がっていくと、「ボール、ボール。」「コロコロ！！」などとあちこちから声が聞こえたり、TVのお友達がハイハイを始めると一斉にハイハイが始まったり、とても楽しそうでしたよ。『ぐるぐるドッカ〜ン』が始まるとみんな次々に畳のお部屋へ。今日は、畳のお部屋が満員になりました。音楽に合わせて身体を動かしたり、『ぐるぐるドッカ〜ン』と大きな声を出したり、お部屋の中をぐる〜んと走ったり、元気いっぱいニコニコの赤組さんでした。

第2回アンケート調査実施…対象：園児家庭

平成17年8月4日

テレビとどうやうつきあっていますか？

明照保育園

みなさんのご家庭では、テレビはどんな存在になっていますか？朝起きたら時計代わりにつける人から、みんなでテレビを回って大笑いしたり…家族ののびのびとててもテレビは大切に、また、あたりまえにある空気のような存在になっているようです。

そんなテレビを悪者にしたくないと思うのですが、昨年、日本小児科学会などから子どもの言葉や情緒発達遅れの症状にメディアが影響を及ぼすという警告がされました。

テレビを家庭からなくすことはできない現代、子どもたちにとってよりよいテレビとのつきあい方をみんなで考えたいと思います。

保育園では、テレビを友だちや保育者みんなでじっくり見て、思ったことを言葉や身体で表現し合ったり、絵には絵や作品に表したりして、テレビをテレビだけで終わらせず、テレビを通して友だちと関わったり、自分を表現できる機会をもつようにしています。


そこで、このお家でのテレビの利用状況を知るため、右記のアンケートにご協力頂けたらと思います。

8月19日(金)までに提出して頂けますよう、よろしくお願いたします。

明照保育園で…

子どもに身につけてほしいテレビとのつきあい方

- ①だれかを見る(1人で見ない)
- ②じっくり見る
- ③絵巻物で終わらせる【スイッチオフ！】
- ④テレビだけの世界で終わらせないで、お話をあそびや生活会話です
- ⑤思ったことを言葉や身体で表現し合い、テレビを通して友だちと関わる。



日本小児科学会などの提言

1. 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控える。
2. 授乳中、食事中テレビ・ビデオ視聴は止める。
3. テレビ・ビデオは1日2時間以内、テレビゲームは1日30分。
4. 保護者と子どもでテレビ等に関するルールを作る。

(東室もあります)

【テレビに関するアンケート】

子どもさんの組() 名前() 明照保育園

※差し支えなければご記入下さい。

①何人家族ですか? ()人

②ご家庭にテレビは何台ありますか? ()台

③食事中にテレビがついていることがありますか?○かごんでください。

ない あまりない たまにある よくある

④子どもさんのテレビ(ビデオ)視聴時間は、平均して1日だいたいどの位ですか?

○でかごんでください。
30分 1時間 1~2時間 3時間以上

⑤子どもさんはだれと見ることが多いですか?多い順に順位をつけてください。

きょうだい お母さんと お父さんと
おじいちゃんとおばあちゃんと その他の家族と
友だちと ひとりで見ると

⑥子どもさんとテレビ等に関する約束事がありますか? ありましたら書いてください。

⑦子どもさんとテレビ等に関する様子について、ご記事や感想などありましたら、書いてください。

テレビアンケート集計

【保護者に配布】

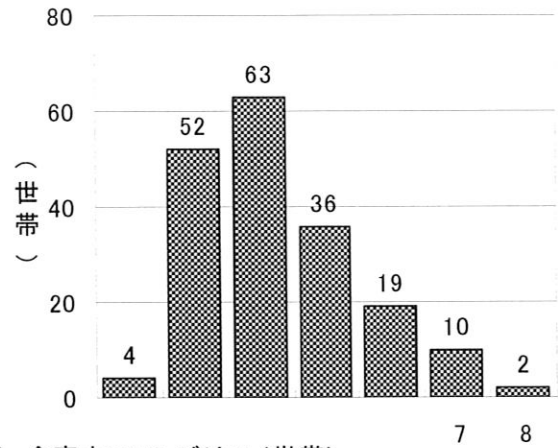
平成17年10月3日

明照保育園

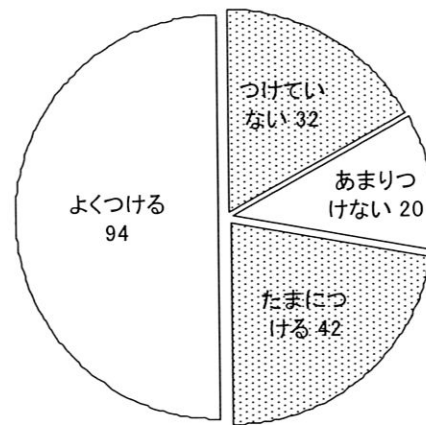


先日の「テレビとどうつきあっていますか？」アンケートに、たくさんのご協力をいただきまして、ありがとうございました。ここに集計結果をご報告させていただきます。ご家庭でのテレビとのつきあいを考えるヒントにして頂けたらうれしいです。

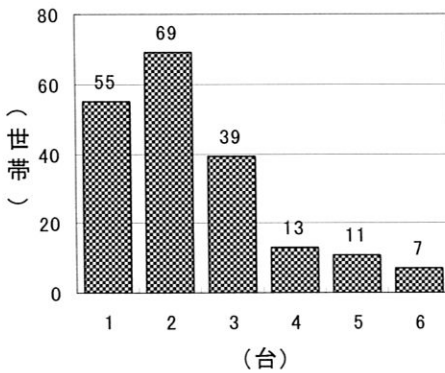
① 何人家族？



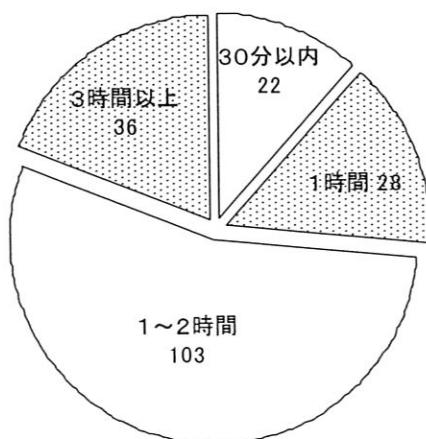
③ 食事にテレビは？(世帯)



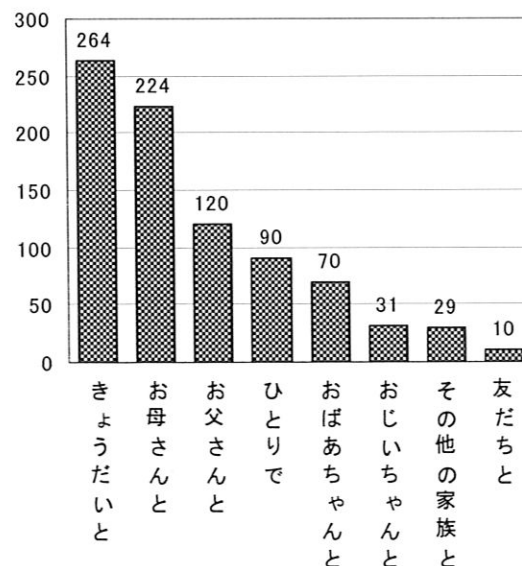
② テレビの台数は？



④ 子どもの1日平均視聴時間は？(世帯)

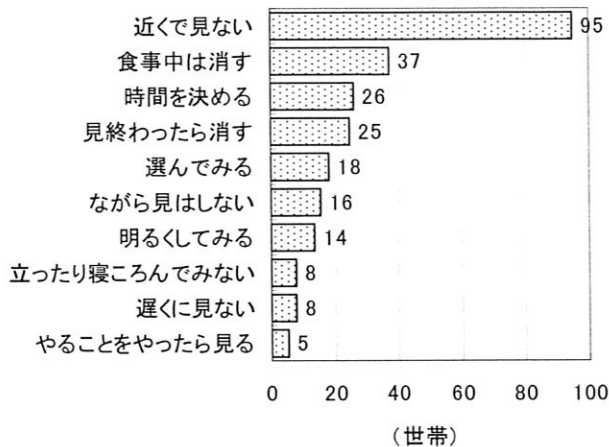


⑤ だれと見ていますか？



※多い順に1位に3, 2位に2, 3位に1ポイントをつけ、計算しました。

⑥ テレビに関する約束事トップ10



- ☺ 「離れて見ないと消えてしまう優れたテレビと子どもに話してあります」
- ☺ 「テレビで知る事は多いと思う」
- ☺ 「家族で見て会話が出来る」
- ☺ 「あそびのヒントをもらえる」
- ☺ 「親と一緒に見て補足するとより楽しんでいる」
- ⊗ 「つけるだけで満足で、内容は見ていない」
- ☺ 「親があまり見ないせいか子どもも見ない」

⑦ 番組の感想を教えてください。

「NHK教育 わんパークより」(月～金の朝7:10～9:00&夕～)

★からだであそぼ ★子ども絵本 ★日本語であそぼ ★ピタゴラスイッチ ★いないいないばあ
★おかあさんといっしょ ★その他

- ・うれしそうに釘付けになって踊ったりしている。
- ・保育園で見ると知ってからたまに見せると、興味深く、楽しそうに見ている。子守代わりでなくなるべく一緒に見ている。
- ・ピタゴラスイッチはほとんど欠かさず毎日真剣に見ている。自分もつくりたいと言っている。家にあるもので作っている。アルゴリズム体操は大好き。お父さんスイッチもよく真似をする。
- ・ひとりで見るより家族と見る方が楽しそう。 ・子ども絵本は真剣に見ている。絵本を選ぶときの参考にしている。 ・ひとりでできるもんを見て、包丁を持ちたがります(^^) お手伝いが大好きになった(2度手間ですが…)
- ・保育園で見るとようになってから、楽しそうに見ている。
- ・からだであそぼを毎朝見て、体操にしている。アイーダアイダやゴムだんが好き。
- ・クイントットがお気に入り。 ・にほんごであそぼでことわざやかるたで遊べた。
- ・しぜんとあそぼに家中ではまっています。
- ・保育園でみんなで見た様子を楽しそうに話してくれる。友だちの様子も話してくれたりして、やはりみんなで見るのは良いことだと思う。

ご協力ありがとうございました(°~°)

NHKが保育園家庭ではとても人気があることが分かりました。NHKは保育園や幼稚園の反応なども調査し、企画しているだけのことはありますね。7月の会議では来年からの新番組「おとだま」も紹介していました。よい番組であることを期待します。民放でも、さざえさん、どうぶつ奇想天外、IQサプリ、伊東家の食卓、しまじろう、TVチャンピオン、ポチたま、スカパーのディズニーなどのアニメ、などが多かったです。ドラエモンはのび太のためにならないのでは?という意見もありました。(たしかに!)

あと、「明照元気っ子ビデオ」というのも根強い人気があるそうで、おかげでなかなか他の番組が見られないという保護者の声もいただきました。ありがたいことです!でも、元気っ子ビデオもテレビと同じく時間を決めましょうね。

V まとめと課題

- ◎ 視聴中に、一緒に見る友だちや保育者のいろいろな表情が見られること、視聴後には友だちとイメージを交流し合えること、それによって更にふくらんだイメージを今度は活動に活かせる楽しさを味わうことを繰り返すうちに、みんなで見ることを楽しみにする声子どもたちから聞かれるようになった。
- ◎ 新入園児も始めのうちは、家にもあるテレビを家庭的に見ている様子で、スイッチを自由につけたり消したりはしないものの、じっくり集中してみるというよりはすぐに気がそれてしまう姿勢が身に付いていたようだが、回を重ねるごとに友だちと見て活動に活かしていく楽しさがわかってきたようで、視聴を主体的に楽しみ、自分のあそびや生活に発展させていこうという気持ちが見られてきた。
- ◎ 視聴記録の予想欄を書くことにより、子どもひとりひとりの内面をより深く洞察する機会となり、保育者の感性がいかに大切かを実感した。視聴活動でのことを普段の保育にも活かすことで、保育全体でも子どもの内面を深くとらえた保育者のより良い援助につながった。
- ◎ 保育全体と照らし合わせながら視聴活動をすすめたことで、ひとりひとりの内面の育ちやクラス全体の成長を、常に全体的な視野で考えることができたとともに、信頼関係の大切さを改めて感じた。
- ◎ 番組研究を行い、実践していく上で、2歳児の「おかあさんといっしょ」は、集団での視聴にはやや長いと、編集するなどの必要があると思われる。
- ◎ 同じく3歳児にとって「つくってあそぼ」は、特に年度当初の子どもたちにとっては、テンポが速いことでイメージがふくらみきれなかったり、作りたいと思っても技術的に難しかったりして、保育者の事前の環境設定をかなりすすめておく必要があった。
- ◎ テレビとのつきあいを、アンケートを採ったり、園での視聴の様子を毎日の保育日より「お知らせくん」で伝えたりして、保護者もまきこんで考えることで、園にも家庭にもあるテレビとのつきあい方を、子どもに無理なく身につけていく一助になったと思われる。
- ◎ 保育者や友だちとテレビを見ることの楽しさは味わえているものの、そこで得たイメージのふくらみを、思うように表現できなかったり、事後の活動に活かすのに戸惑いが見られたりする子の中には見られる。ひとりひとりの内面からそうなる要因（保育者や友だちとの信頼関係・自信のなさ・経験不足・保育者の援助が不適切・環境設定等々）を探り、発達段階や個々に合わせた援助のあり方を考えていきたい。
- ◎ 視聴活動について保育者全員で交流、研修し共通理解を図ることは、時間がかかったものの、今後さらに継続的に視聴活動が保育に定着できると期待される。